

大学概要 2019-2020

公立大学法人



名桜大学  
MEIO UNIVERSITY



全国で最も開花の早い桜の名所沖縄県名護市にある名桜大学のシンボルマークは、四角の中に桜の花びらが描かれています。桜の五枚の花びらは、真・善・美・聖・健の人類普遍の価値を象徴し、途切れのない四辺は、四海同胞を意味しており、平和・自由・進歩の建学の精神を、沖縄県北部やんばるから世界に発信する核となろうとする象徴です。

〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 TEL.0980-51-1100 FAX.0980-52-4640  
E-mail:info@meio-u.ac.jp https://www.meio-u.ac.jp/



公式HP



公式Facebook



# 平和・自由・進歩

名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学であったが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わることとなった。

人類の歴史をたどると、それは戦争の歴史であったといっても過言ではなく、それだけに人類の平和を希求する精神は絶えることはない。とりわけ第二次大戦最後の激戦地と化したわが沖縄県においては、熾烈な地上戦が展開され、われわれの祖先が築きあげた文化遺産がことごとく破壊され、20万余の尊い生命が失われた。従って県民の平和に対する願望は強烈なものがある。

本学は、そのような歴史的背景を踏まえ、世界平和の維持と構築に貢献することによって、平和発信

の使命を果たすべく創設された。

平和なくして自由はありえない。自由への闘争もまた人類の歴史そのものであった。独裁者からの解放、圧制からの解放、社会的階級からの解放、差別からの解放、貧困や飢餓からの解放を目指して人類は戦ってきた。わが国でも自由を圧迫する封建社会や軍国主義の時代を経験した歴史があり、本県の場合は沖縄戦に続き27年間にわたる米国の占領と施政権下におかれた。本学が最も強調していることは、いうまでもなく言論・信条・学問の自由であることは論を俟たない。自由なくして大学の教育研究の進展はありえない。

平和と自由なくして人類社会の進歩はありえず、平和と自由なくして文化の創造はありえない。現代の科学の進歩は著しく、人類の幸福に多大な貢献をしてい

る。それともなつて社会構造も急速な変化を遂げてきた。また、その結果、国際化・グローバル化は急速に進展し、各国は相互依存の関係にあり、もはや孤立することは許されなくなった。本学は、国際的な教育研究を通して学術の向上と進歩に努め、地域社会と人類社会の福祉に貢献することを使命のひとつとした。

この「平和・自由・進歩」の三本柱のもとに、本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げた。そのためには心を解放し、自由な発想で、国際的視点から問題をとらえ、解決できる人材を育成することを教育の基本理念とした。本学がリベラルアーツを強化したのはまさに国際的教養人を養成するためである。その基盤に立って、高度の専門的教育研究を推進することによって地域・国際社会に貢献できる人材の育成を期する。

## CONTENTS

建学の精神	01
学長あいさつ	03
社会連携の考え方	04
公立大学法人へ移行の趣旨	
大学創設の経緯	05
沿革	06
組織図／教職員数	07
役員／教育研究審議会委員／経営審議会委員／大学役員	08
大学の使命・目的および全学的三つのポリシー	09
名桜大学の教養教育	15
国際学群	19
■国際文化専攻	
■語学教育専攻	
■経営専攻	
■情報システムズ専攻	
■診療情報管理専攻	
■観光産業専攻	
人間健康学部	23
■スポーツ健康学科	
■看護学科	
助産学専攻科	27
大学院	29
■国際文化研究科 修士（国際文化）	
■看護学研究科 修士（看護学）	
■国際文化研究科 博士（国際地域文化）	
環太平洋地域文化研究所	35
外部資金	36
地域貢献Ⅰ	37
地域貢献Ⅱ	39
校舎等施設	41
在学生状況	45
志願者・入学・卒業・修了状況	48
進路・就職状況／教員免許取得状況	51
大学間交流	53
学費・奨学金等	55
クラブ・サークル	57
学年暦	58
名桜大学のFD活動／自己点検・評価、認証評価の取組み	59
交通アクセス	60





## 国際社会で活躍できる人材の育成をめざして

一名桜大学の教育と使命—

名桜大学学長 山里勝己 Katsunori Yamazato, Ph.D.

Profile: 本部町出身。琉球大学教授・同大副学長を経て、2013年名桜大学副学長・国際文化研究科長、2014年度第五代学長に就任。専攻はアメリカ文学・文化論。

- 【略歴】 1972年 琉球政府立琉球大学英語英文科卒業  
 1974年 University of Hawaii, Manoa 大学院(修士課程)英米文学専攻修了(MA)  
 1987年 University of California, Davis 大学院(博士課程)英米文学専攻修了(Ph.D.)  
 琉球大学名誉教授、琉球大学国際沖縄研究所初代所長、日本文学・環境学会会長、九州アメリカ文学学会会長、アメリカ学会理事、アメリカ文学学会誌編集委員、ハワイ大学アメリカ研究学大学院研究連携教授、アメリカ文学・環境学会誌 ISLE(オックスフォード大学出版局)編集顧問
- 【著書】 『場所を生きる—ゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社、2006年)  
 『琉大物語 1947-1972』(琉球新報社、2009年)  
 『<移動>のアメリカ文化』(共編、ミネルヴァ書房、2011年)  
 『<オキナワ>人の移動、文学、ディアスポラ』(共編、彰流社、2013年)  
 The Literature of Nature: An International Sourcebook. London: Fitzroy and Dearborn, 1998.(共編)  
 Living Spirit: Literature and Resurgence in Okinawa. Honolulu: U of Hawaii P, 2010.(共編)  
 『戦後沖縄とアメリカ—異文化接触の50年』(共編、沖縄タイムス社、1995年)、その他。
- 【受賞】 第5回琉球新報短編小説賞受賞(1976年)、  
 沖縄タイムス芸術大賞受賞(文学研究・文学批評)(2008年)

名桜大学は、1994年に公設民営の大学として設立され、2010年に公立大学法人名桜大学として生まれかわりました。本学の建学の理念は「平和・自由・進歩」であり、「国際社会で活躍できる人材」の育成を大学の使命・目的として掲げてきました。

本学の歴史を振り返りますと、国際文化、経営情報、観光産業の3学科からなる単科大学として出発し、2007年に国際学部を国際学群に改組しました。2005年には、人間健康学部スポーツ健康学科を開設、さらに2007年に同学部に看護学科を設置し、2017年には助産学専攻科が設置されました。

この間、名桜大学は、国際基準の大学教育のあるべき姿を模索してきました。21世紀のグローバル化する世界に対応するために、大学はどのようなカリキュラムを編成して学生を教育し、十分な学士力を身につけた人材として社会に送り出すべきか。また、学生はどのような知識体系や技能(スキル)を学び身につけるべきか。あるいは、国際社会で活躍し、同時に地域社会にも貢献できる人材を育成するために、大学はどのような教育体制を構築すればいいのか。

このような問いに答え、時代の要請に応えるため、本学は2011年にリベラルアーツ教育を推進する「教養教育センター」を設置し、2015年には同センターを「リベラルアーツ機構」として改組しました。リベラルアーツ教育とは、人文科学、社会科学、自然科学を幅広く柔軟に学び、批判的かつ論理的な知識を身につけ、自立した思考を深め、知的倫理性を実践することを目的とした教育です。また、本学では、(1)母語を中心とする文章力、(2)数理的な判断・分析能力、(3)外国語、(4)ICTリテラシーの4つをリベラル

アーツ教育の基本と考え、ライティングセンター、数理学習センター、言語学習センターを設置しています。2019年度中にはICT学習支援センター(仮称)が開設されます。この4つのセンターは、学生のチュータリング制による先端的な学びを推進していて、本学の大きな特色となっています。

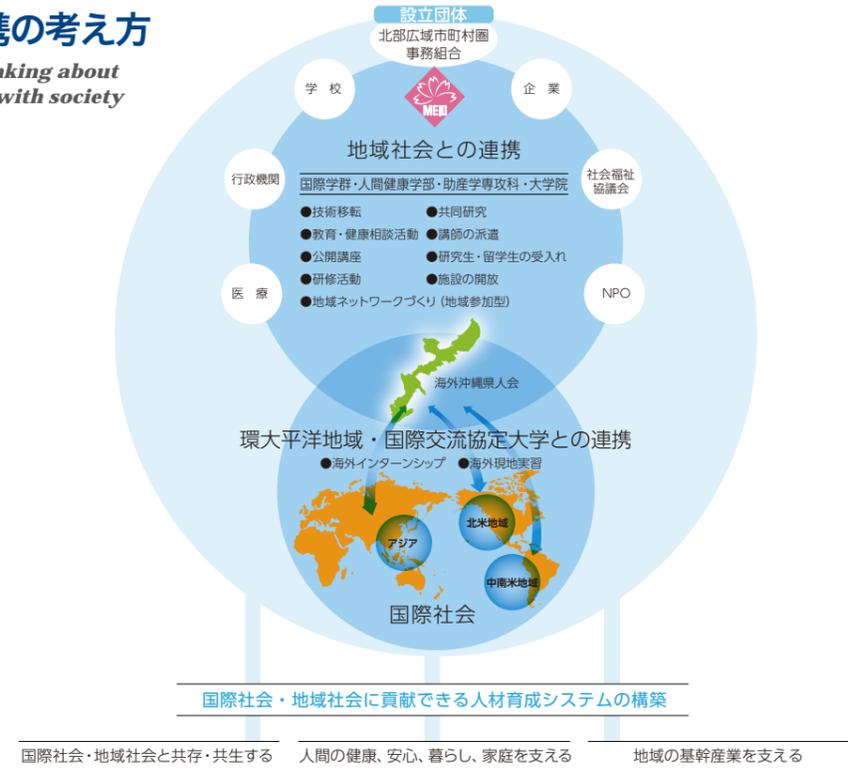
名桜大学の学部4年間のカリキュラムは、リベラルアーツ教育を基礎として円満な人間形成をめざし、専門分野で深い知識を探究できるよう設計されています。これは、21世紀の先進的な大学教育を推進するため、入学時からアクティブラーニングを基本としたカリキュラムで学生を教育し、そのような教育を多様な専門分野に有機的に接続しようとするものです。たとえば、国際学群では、3年に進級するさいに専門分野を決定しますが、それまでは柔軟に幅広く学ぶことができるようにカリキュラムが編成されています。また、看護学科とスポーツ健康学科を擁する人間健康学部でも、リベラルアーツ教育を取り入れながらカリキュラムを設計しています。

本学では、2年終了後に全学生の学修の中間評価を実施し、大学教育の質保証を確かなものにする準備を進めています。名桜大学は、このような教育を国際基準に従って推進し、地域社会と国際社会で活躍できる「国際的教養人」を育成します。また、このような教育は、生涯を通して自立して学び続ける人材の育成を目標としています。

大学院について言えば、本学は2001年に国際文化研究科「国際文化システム専攻」(修士課程、5教育研究領域)を設置、さらに2011年には看護学研究科(修士課程)を設置しました。これは高度職業人と研究者の養成

## 社会連携の考え方

Ways of thinking about Connecting with society



を目的としたものです。また、より魅力あるカリキュラムと教育研究体制を構築するために、「国際文化システム専攻」では領域によっては英語を中心としたバイリンガル教育が行われ、看護学研究科では看護と健康に関する特色ある研究が推進されています。いずれも、地域貢献と国際貢献をめざすカリキュラムとなっています。

また、2019年4月には、国際文化研究科に「国際地域文化専攻」(博士後期課程)を設置しました。「国際地域文化専攻」は、環太平洋という視点に立って、これまで蓄積された沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカの地域文化研究を継承・深化しつつ、高度の普遍的な研究課題に取り組めます。本専攻は、琉球文学・文化、中琉交流史、南島民俗学、中南米地域文化、アメリカ文学・文化論を中心に博士(国際地域文化)の学位を授与します。

この博士後期課程設置を契機に、2019年4月、琉球文学を「文学」「歴史」「民俗・地誌」の3領域で作品に注釈や解説を付けた「琉球文学大系」(全35巻)の編集刊行事業を開始しました。琉球・沖縄研究のさらなる深化と発展を目標としています。

さらに、名桜大学の特色として、このような正課のカリキュラムに加えて、学生ボランティアによる学生支援のための「ウェルナビ」、地域の健康に貢献するボランティア活動「ヘルサポ」や「朝市」での地域健康支援、地域との協定に基づく学習支援活動、グローバル化する沖縄北部の観光やイベントに貢献する「通訳協力隊」やチャリディングなど、学生による活発な地域貢献活動が挙げられます。これは本学のユニークな教育支援・地域貢献システムであり、その活動の多くは教員の指導のもとで学生

ボランティアが担い、学生のコミュニケーションスキル、リーダーシップ、自律性、協働精神などを育成することに大きな役割を果たしています。

2014年に完成した6階建ての学生会館「SAKURAUUM(サクラウム)」は、共同学習や学際的コラボレーションのための空間や設備や機器を備え、アクティブラーニングを推進する中核的な施設です。本学の特色となっている学習センターのうち3つはサラクウムに設置されています。このような教育や課外活動を推進することで、本学は学生を主体とした特色ある「知と学びのコミュニティ」を創造してきました。

「国際社会で活躍できる人材」とは、グローバルなパースペクティブを有するだけでなく、自らが立っている地域についても深い理解を有する人材を意味します。本学のカリキュラムは、学生が卒業後にキャンパスを離れた後、地域に貢献し、世界の喫緊の課題と取り組み、生涯とおして創造的に学び続けることができるようになることを目標に設計されています。本学は、国内外に多くの交流協定大学や企業等との連携プログラムを有しています。このようなグローバル・ネットワークを活用し、長期海外留学、海外スタディツアー、そして地域でのインターンシップやプロジェクト学習の機会を学生に提供することで、本学は「国際社会で活躍できる人材」育成に努めています。

大学は人類の知の伝統を広く深く学び、同時にその最先端で他者と切磋琢磨しながら自らを成長させていく場です。本学の先進的なカリキュラムと美しいキャンパスで、学生諸君が大きく飛躍することを期待しています。

# 大学創設の経緯

The Founding of the University

## 大学創設の趣旨

### 1. 国際的な教育・研究の場の創設

沖縄県は、地理的、歴史的要因により、東アジア、東南アジア、オセアニア、南北アメリカとの古くからの密接な関係のもと、特色ある地域文化を発展させてきた。

このような沖縄県の特性を活かして環太平洋地域を結ぶ高等教育の場を創設することは極めて意義深いものであり、これらの地域に関する教育・研究を発展させる必要がある。また、これらの地域からの留学生、移民の子弟及び帰国子女の受入れも積極的に対応する必要がある。

### 2. 産業振興への対応・沖縄県北部の地域活性化

沖縄県では、観光立県として数多くのリゾート開発プロジェクト等が県全域において計画、運営されているが、この分野に関わる人材が不足しており、高等教育機関もない。そのため、『観光産業』に関する教育・研究体制を整備し、地域産業界のニーズに対応する必要がある。

沖縄県北部圏域は、情報や人材の都市集中などに伴い、人口が流出し過疎化傾向にある。大学設置は、この地域の人口の定着と地域文化の向上そして地域振興に大きな意義をもつものである。

### 3. 教育の機会均等

沖縄県は、地理的、経済的、家庭慣習等の理由により県外への進学が困難な場合がある。また、長期にわたり本土から分離されていたため高等教育の機会に恵まれなかった社会人が多い。学習機会の拡大を図り、生涯教育の要請に応える必要がある。

沖縄県内の4つの大学はいずれも県中南部に立地し、その収容率是对18歳人口比が10.7%で極めて低い(平成2年度。全国平均は20.7%)。北部地域に大学を新設することで通学の利便性を高めるとともに、収容力拡大及び進学率上昇を図る。

出典 名護総合学園設立準備委員会(1992)「大学等設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」『名科大学設置認可申請書』

## 創設経緯

1979(昭和54)年		名護市に『名護大学誘致懇話会』設置
1980(昭和55)年	6月	名護市議会が『名護市大学誘致委員会設置条例』制定が可決
1983(昭和58)年	12月	『名護市大学誘致委員会』による答申。「地域総合短期大学」誘致を目標とすることを提案(北部12市町村で組織する『北部広域市町村圏協議会』に検討を委託)
1984(昭和59)年		『北部広域市町村圏協議会』で大学誘致について検討
1985(昭和60)年		『北部広域市町村圏協議会』が「やんばる市民大学の展望」と題し報告書を提出(キャンパスを持たない「市民大学」を提案)
1986(昭和61)年		名護市で大学誘致を断念し大学設置を検討
1991(平成3)年	3月29日	名護市議会が『名護市総合学園設立審議会条例』制定が可決
	5月1日	名護市に『総合学園設立準備室』発足
	7月5日	名護市に『名護市総合学園設立審議会』発足。大学の基本計画、敷地等について検討
	7月14日	『学校法人名護総合学園設立準備委員会発起人会』開催
		『学校法人名護総合学園設立準備委員会』発足
		『学校法人名護総合学園設立準備事務局』発足
1992(平成4)年	3月31日	『名護市総合学園設立審議会』より名護市長へ大学の基本計画及び大学の位置・敷地の選定について答申
	4月30日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」及び「名科大学設置認可申請」[一次申請](文部大臣へ)
	7月31日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」[追加書類提出]及び「名科大学設置認可申請」[一次申請追加書類提出](文部大臣へ)
1993(平成5)年	5月6日	名科大学敷地造成工事地鎮祭
	6月30日	「学校法人名護総合学園寄附行為認可申請」及び「名科大学設置認可申請」[第二次書類提出](文部大臣へ)
	7月8日	名科大学校舎等建設工事合同安全祈願祭
	12月21日	学校法人名護総合学園寄附行為認可及び名科大学設置認可(文部大臣)

## 創設経費

創設経費	6,629,357千円		
補助金	6,629,357千円	沖縄県	1,030,000千円
		名護市	5,299,057千円
		北部11町村	300,300千円

## 学校法人名護総合学園設立準備委員会

1991(平成3)年 7月14日 発足  
1993(平成5)年 12月21日 学校法人名護総合学園設立認可及び名科大学設置認可(文部大臣)

氏名	所属・職名(当時)	備考
東江 康治	琉球大学名誉教授	委員長
外間 守善	法政大学文学部教授	副委員長
阿部 充夫	放送大学学園理事長	委員
瀬名波 榮喜	琉球大学教育学部教授	委員
山里 清	琉球大学理学部教授	委員
崎間 晃	琉球銀行代表取締役頭取	委員
稲嶺 恵一	株式会社りゅうせき代表取締役社長・沖縄県経営者協会会長	委員
比嘉 幹郎	ブセナリゾート株式会社代表取締役	委員
比嘉 茂政	恩納村長・北部市町村会会長	委員
安里 進	名護市議会議長	委員
比嘉 鉄也	名護市長	委員

# 沿革

(大学開学以降) History of the University

1994(平成6)年	4月1日	名科大学開学(国際学部 国際文化学科、経営情報学科、観光産業学科)
	4月15日	第1回名科大学入学式(入学生384人)
1995(平成7)年	4月15日 9月8日	名科大学開学記念式典 名科大学総合研究所設立(平成8年4月1日開所)
1997(平成9)年	10月14日 11月28日	名科大学後援会設立 名科大学完成記念植樹
1998(平成10)年	3月20日	第1回名科大学卒業式
1999(平成11)年	4月29日 7月17日	第50回沖縄県植樹祭が名科大学で開催 名科大学開学5周年式典
2000(平成12)年	6月30日 12月21日	名科大学大学院国際文化研究科設置認可申請 名科大学大学院国際文化研究科設置認可(文部大臣)
2001(平成13)年	4月1日 4月1日 5月23日	名科大学大学院国際文化研究科開設 名科大学言語学習センター設立・開室 名科大学メディアネットワークセンター設立(同年6月1日開室)
2002(平成14)年	2月16日	名科大学同窓会設立
2003(平成15)年	3月20日	名科大学大学院国際文化研究科第1期生 修了式
2004(平成16)年	9月29日 10月1日 12月21日	名科大学人間健康学部設置認可申請 北部生涯学習推進センター設立・開設 名科大学開学10周年記念式典
2005(平成17)年	1月28日 4月1日	名科大学人間健康学部設置認可(文部科学大臣) 名科大学人間健康学部スポーツ健康学科開設
2006(平成18)年	6月20日 7月26日 7月31日 11月30日	名科大学人間健康学部看護学科設置認可申請 名科大学教員養成支援センター設立・開室 名科大学国際学群国際学類設置届出(国際学部3学科を改組) 名科大学人間健康学部看護学科設置認可(文部科学大臣)、平成19年4月1日付けをもって保健師助産師看護師法第19条第1号、同第21条第1号に定める学校として指定(文部科学大臣)
2007(平成19)年	4月1日	名科大学国際学群国際学類(国際文化専攻、語学教育専攻、システムマネジメント専攻、情報システムズ専攻、観光産業専攻)開設 名科大学人間健康学部看護学科開設
2009(平成21)年	4月1日	名科大学国際学群国際学類に診療情報管理専攻を設置、システムマネジメント専攻を経営専攻に名称変更
	5月8日 12月21日	名科大学数理学習センター設立・開室 北部広域市町村圏事務組合より公立大学法人名科大学設立認可申請(沖縄県知事へ)、学校法人名護総合学園より名科大学の設置者変更認可申請及び学校法人解散認可申請(文部科学大臣へ)
2010(平成22)年	3月19日	公立大学法人名科大学設立認可(沖縄県知事)、名科大学の設置者変更認可(設置者変更に伴う学校法人名護総合学園解散認可(文部科学大臣))
	4月1日	名科大学の設置者変更による学校法人名護総合学園の解散、北部広域市町村圏事務組合が設立した公立大学法人名科大学により設置された名科大学の開学
	5月25日 10月29日	名科大学大学院看護学研究科設置認可申請 名科大学大学院看護学研究科設置認可(文部科学大臣)
2011(平成23)年	2月23日 4月1日	名科大学教養教育センター設立(同年4月1日開設) 名科大学大学院看護学研究科開設
2012(平成24)年	10月24日	名科大学健康・長寿サポートセンター設立(同年12月21日開設)
2013(平成25)年	3月21日	看護実践教育研究センター設立(同年4月1日開設)
	4月1日	北部生涯学習推進センター内にエクステンションセンター開設
	4月1日	名科大学保健センター開設(保健室を廃止・拡充)
2014(平成26)年	12月21日	名科大学開学20周年・公立大学法人化5周年記念式典
2015(平成27)年	3月19日 3月31日	名科大学国際交流センター設立(同年4月1日開設) 名科大学国際学部(国際文化学科、経営情報学科、観光産業学科)廃止
	4月1日	名科大学リベラルアーツ機構設立(教養教育センターを廃止・拡充)
	4月1日	名科大学ライティングセンター設立(2016(平成28)年5月16日開室)
2016(平成28)年	10月13日	名科大学助産学専攻科 保健師助産師看護師法第20条第1号に定める学校として指定申請
2017(平成29)年	1月31日	名科大学助産学専攻科 平成29年4月1日付けをもって保健師助産師看護師法第20条第1号に定める学校として指定(文部科学大臣)
	4月1日	名科大学助産学専攻科開設
	4月1日	地域連携機構開設(エクステンションセンターを廃止・拡充)
2018(平成30)年	3月30日	名科大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)設置認可申請
	8月31日	名科大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)設置認可(文部科学大臣)
2019(平成31)年	4月1日	名科大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)開設

## 歴代理事長・学長・客員教授等

歴代理事長	歴代	氏名	就任
	初代	東江 康治	平成6年4月1日
	第2代	比嘉 鉄也	平成12年1月1日
	第3代	嘉数 啓	平成22年4月1日
	第4代	比嘉 佑典	平成24年6月1日
第5代	比嘉 良雄	平成26年4月1日	
第6代	高良 文雄	平成31年4月1日	

歴代学長	歴代	氏名	就任
	初代	東江 康治	平成6年4月1日
	第2代	東江 平之	平成12年4月1日
	第3代	安田 晃次	平成15年4月1日
	第4代	瀬名波 榮喜	平成18年2月17日
第5代	山里 勝己	平成26年4月1日	

名誉学長	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	東江 康治	平成13年5月30日
	第2号	瀬名波 榮喜	平成26年6月28日

名誉客員教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	外間 守善	平成15年9月24日
	第2号	島袋 嘉昌	平成20年10月22日
	第3号	比嘉 幹郎	平成20年10月22日
	第4号	平 恒次	平成25年11月17日

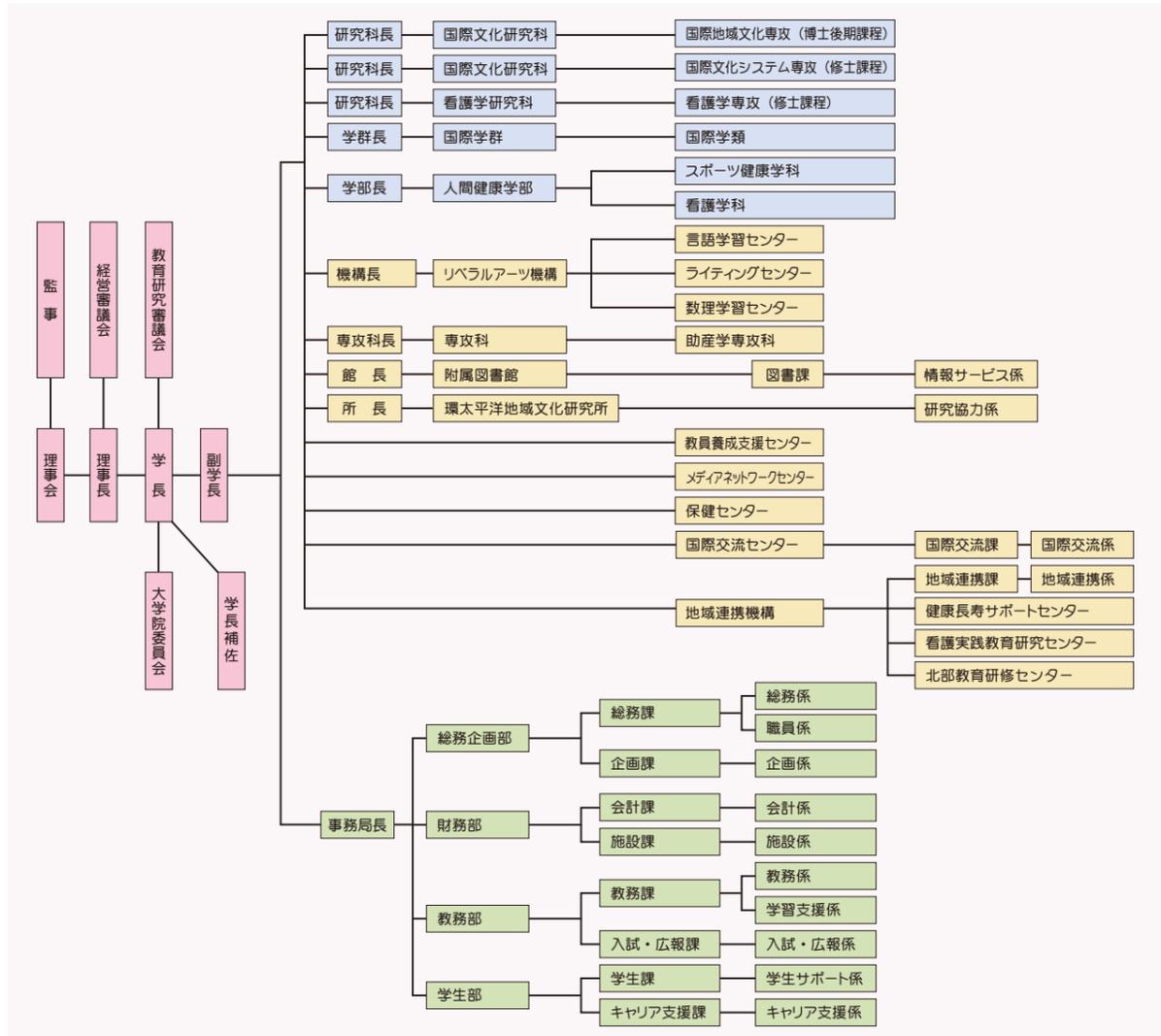
名誉教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	伊江 朝章	平成11年4月30日
	第2号	古波倉 正偉	平成11年4月30日
	第3号	外間 完和	平成11年4月30日
	第4号	平敷 浩邦	平成11年4月30日
	第5号	島袋 哲	平成12年4月21日
	第6号	山里 将晃	平成12年4月21日
	第7号	宮平 進	平成12年4月21日
	第8号	小谷 達男	平成12年4月21日
	第9号	上江洲 均	平成15年9月24日
	第10号	東江 平之	平成15年9月24日
	第11号	山間 隆則	平成15年9月24日
	第12号	山里 清	平成15年9月24日
	第13号	瀬名波 榮喜	平成16年5月27日
	第14号	屋比久 浩	平成16年5月27日
	第15号	宮城 真宏	平成16年5月27日
	第16号	芝野 治郎	平成18年5月29日
	第17号	安井 祐一	平成18年5月29日
	第18号	新城 敏男	平成20年6月18日
	第19号	山端 清英	平成20年6月18日
	第20号	石川 清治	平成20年6月18日
	第21号	内間 直仁	平成21年4月28日
	第22号	西平 守孝	平成21年4月28日
	第23号	竹内 伸也	平成21年4月28日
	第24号	杉本 英夫	平成21年4月28日
	第25号	久手堅 憲一	平成21年4月28日
	第26号	ガイエル、ティモシー C.	平成23年6月3日
	第27号	シーキンス、トナルド M.	平成23年6月3日
	第28号	清水 則之	平成23年6月3日
	第29号	吉川 安一	平成24年6月23日
	第30号	眞喜屋 尚美	平成24年6月23日
	第31号	高宮城 繁	平成24年9月4日
	第32号	仲地 清	平成25年6月22日
	第33号	中村 誠司	平成25年6月22日
	第34号	上間 篤	平成25年6月22日
	第35号	宮里 捷	平成25年6月22日
	第36号	レイサムキャロライン C.	平成26年6月28日
	第37号	平議 善盛	平成27年6月28日
	第38号	稲垣 綱代	平成27年6月28日
	第39号	金城 祥教	平成28年3月26日
	第40号	金城 やす子	平成29年3月29日
第41号	金城 利雄	平成29年3月29日	

客員教授	氏名		
		小和田 恆	
		川嶋 辰彦	
		山谷 正己	
		西平 守孝	
		船戸 高樹	
		吉原 真理	
		ゲーリー・Y・オキヒロ	
		フランク・スチュアート	
		根路銘 国昭	
		野村 一成	
		我那覇 宗孝	
		佐藤 優	
	中路 重之		
	我部 政男		

# 組織図 教職員数

Organizational Chart/  
Number of Administrative and Teaching Staff

## 組織図



## 教員数

令和元年5月1日現在

区分	教授			上級准教授			准教授			助教			合計			助手			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
学長	1	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	-	-	-	
大学院	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	
国際学群	22	2	24	11	2	13	4	3	7	0	0	0	37	7	44	0	0	0	
人間健康学部	国際学類	3	2	5	3	0	3	5	3	8	1	1	2	12	6	18	0	0	0
	スポーツ健康学科	1	8	9	1	5	6	4	3	7	1	6	7	7	22	29	2	3	5
リベラルアーツ機構	0	1	1	1	1	2	2	2	4	1	0	1	4	4	8	0	0	0	
教員数総計	30	13	43	16	8	24	15	11	26	3	7	10	61	39	103	2	3	5	

## 職員数

令和元年5月1日現在

事務局長	部長・参与		課長・主幹		係長・主査		主任		係員		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	0	5	1	11	1	6	3	4	4	13	5	40
												14
												54

# 役員／教育研究審議会委員／ 経営審議会委員／大学役職員

Officers/  
Education and Research Council Members/  
Management Council Members/  
University Executive staff

## 役員(理事・監事)

令和元年6月1日現在

役職	氏名	所属先役職
理事長	高良 文雄	公立大学法人名桜大学理事長
副理事長	山里 勝己	名桜大学学長
理事	鈴木 啓子	名桜大学副学長
理事	金城 秀郎	名護市副市長

役職	氏名	所属先役職
理事	岸本 能子	名護市母子寡婦福祉会会長
理事	仲間 一	金武町長
監事	宮里 猛	開法律事務所 弁護士
監事	原田 泰人	やんばる会計事務所 公認会計士・税理士

## 教育研究審議会委員

令和元年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	山里 勝己	名桜大学学長
委員	鈴木 啓子	名桜大学副学長
委員	新垣 裕治	名桜大学国際学群長
委員	砂川 昌範	名桜大学人間健康学部長
委員	小川 寿美子	名桜大学附属図書館長

役職	氏名	所属先役職
委員	仲尾次 洋子	名桜大学環太平洋地域文化研究所長
委員	波照間 永吉	名桜大学大学院国際文化研究科長(博士後期課程)
委員	中村 浩一郎	名桜大学大学院国際文化研究科長(修士課程)
委員	永田 美和子	名桜大学大学院看護学研究科長(修士課程)
委員	小番 達	名桜大学リベラルアーツ機構長

## 経営審議会委員

令和元年6月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	高良 文雄	公立大学法人名桜大学理事長
委員	山里 勝己	名桜大学学長
委員	鈴木 啓子	名桜大学副学長
委員	砂川 昌範	名桜大学人間健康学部長
委員	山城 耕政	名桜大学事務局長

役職	氏名	所属先役職
委員	荻堂 盛秀	前名桜大学後援会会長
委員	比嘉 克雄	北部広域市町村圏事務組合事務局長
委員	比嘉 幹郎	ザ・テラスホテルズ特別顧問・名桜大学名誉客員教授
委員	宮里 好一	医療法人タビック沖縄リハビリテーション病院理事長
委員	新垣 力太	新垣産業株式会社代表取締役社長

## 大学役職員

令和元年5月1日現在

氏名	職名
高良 文雄	理事長
山里 勝己	学長・副理事長
鈴木 啓子	副学長
新垣 裕治	国際学群長
砂川 昌範	人間健康学部長
小番 達	リベラルアーツ機構長
小川 寿美子	附属図書館長
仲尾次 洋子	環太平洋地域文化研究所
波照間 永吉	大学院国際文化研究科長(博士後期課程)
中村 浩一郎	大学院国際文化研究科長(修士課程)
永田 美和子	大学院看護学研究科長(修士課程)
新垣 裕治(再掲)	学長補佐(COC+担当)
高安 美智子	学長補佐(北部地域教育担当)
金城 正英	学長補佐(法人企画戦略担当)
渡慶次 正則	国際学群国際文化教育研究学系長
木村 堅一	国際学群経営情報教育研究学系長
宮城 敏郎	国際学群観光産業教育研究学系長
奥本 正	人間健康学部スポーツ健康学科長
横川 裕美子	人間健康学部看護学科長
屋良 健一郎	国際学群国際文化専攻長

氏名	職名
フィーウェル,ノーマン	国際学群語学教育専攻長
金城 亮	国際学群経営専攻長
佐久本 功達	国際学群情報システムズ専攻長
木村 堅一(再掲)	国際学群診療情報管理専攻長
伊良皆 啓	国際学群観光産業専攻長
島田 友子	助産学専攻科長
渡慶次 正則(再掲)	外国語教育主任(言語学習センター長)
高安 美智子(再掲)	数理学習センター長
奥本 正(再掲)	ライティングセンター長
天願 健	メディアネットワークセンター長
板山 勝樹	教員養成支援センター長
大城 真理子	保健センター長
大谷 健太郎	国際交流センター長
前川 美紀子	地域連携機構長
大城 凌子	健康長寿サポートセンター長
比嘉 憲枝	看護実践教育研究センター長
平野 貴也	広報室長
佐久本 功達(再掲)	IR室長
高安 美智子(再掲)	北部教育研修センター長
山城 耕政	大学事務局長

# 大学の使命・目的および全学的三つのポリシー

## 国際社会で活躍できる人材育成

名桜大学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標として、次のような人材を育成することを目指します。

1. グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的・分析能力、ICT 活用能力を持った人材
2. 豊かな教養と専門性、総合的な判断力と論理的な思考力、創造性、協調性、積極性、自立性、主体性を併せ持ち、生涯学び続けることができる人材
3. 自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人

このような人材を育成するために、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

### I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

### II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語、母語によるライティング力）、数理的・分析能力、ICT 活用能力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

名桜大学の教育目標を達成するために、本学に入学を希望する人には以下のことを求めます。

### III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢をもっていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 入学を希望する学群・学部・学科等の特徴を正しく理解し、その教育課程で学ぶために必要な知識・技能を持っていること。

## 国際学群の三つのポリシー

国際学群は、「平和・自由・進歩」の建学の精神に基づいた幅広い教養を持ち、言語文化、経営情報および観光産業分野で国際的に活躍する人材を育成します。

### I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

#### I-(1) 国際文化専攻／語学教育専攻

▶ 国際学群(国際文化専攻／語学教育専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(国際文化学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 高度な言語運用能力と多文化理解力を兼ね備え、地域社会や国際社会に貢献する力

#### I-(2) 経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

▶ 国際学群(経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(経営情報学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に加え、優れた実践力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力と組織運営力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力と自己検証力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現するとともに、調整し統合する力
5. 社会変化や科学技術の革新を数量的に分析し、評価する力

#### I-(3) 観光産業専攻

▶ 国際学群(観光産業専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(観光産業学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 社会の変化に対応し、地域社会や国際社会において観光産業の発展に貢献する力

### II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

#### II-(1) 国際文化専攻／語学教育専攻

▶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的・分析能力、ICT 活用能力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・

- 論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 沖縄を含む国内外の諸地域における言語と文化の体系的学習を行い、知識を実践する機会として実習科目を配置する。
6. 専門知識や技術を統合し、問題解決力と創造力を育成するため、卒業研究を実施し、丁寧な個別指導を行う。

#### II-(2) 経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

▶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的・分析能力、ICT 活用能力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 学生が自主的に計画・行動・検証・改善できる実習・演習を重視したカリキュラムを編成する。

#### II-(3) 観光産業専攻

▶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的・分析能力、ICT 活用能力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 地域社会や国際社会で観光産業の発展に貢献できる人材を育成するため、観光ビジネスや観光政策、環境・エコツーリズム、観光文化などの専門科目を設置する。

### III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

▶ 国際学群の教育目標を達成するために、本学群に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 国際学群の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科（英語、数学、国語、理科、社会等）の内容をバランスよく修得していること。

# 人間健康学部スポーツ健康学科の三つのポリシー

スポーツ健康学科は、健康に生きるために、人間の「からだ」と「こころ」や人間をとりまく「社会」について科学的に探究し、知・徳・体のバランスのとれた能力を備え、健康寿命の延伸に寄与できる健康支援人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ スポーツ健康学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(スポーツ健康学)の学位を授与します。

1. 高い倫理観を持ち、社会人として必要な幅広い教養およびスポーツ健康科学分野における専門的知識・技能
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見・設定し、批判的・論理的に思考・判断しつづ解決する力。また、その内容をわかりやすく表現する力
4. 多様な視点を尊重し、協働して問題を解決していくために必要なチームワークやリーダーシップ
5. 心身ともに健康に生きるため、自己の可能性を肯定的に考え、自らを律しながら、主体的・計画的に行動する力

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を 4 年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。

3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、3 年次および 4 年次における卒業研究演習を必修科目と位置づけ、卒業論文等により最終評価を行う。
5. スポーツおよび健康に関する専門基礎科目群を配置する。専門性を高めるため、2 年次から「スポーツ領域」または「健康領域」を選択し、より探究的な専門科目群を配置する。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ スポーツ健康学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. スポーツ健康学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科を全般的に修得していること。また、スポーツ健康科学に必要な保健および体育の内容について基礎的・基本的な知識および技能を身につけていることが望ましい。
4. 健康を科学的視点から探究し、地域社会や国際社会において健康づくりを支援する意欲があること。
5. スポーツ科学や健康科学に興味・関心があり、大学においても習慣的な運動や健康づくりの意欲があること。

# 人間健康学部看護学科の三つのポリシー

看護学科は、人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し、自己評価能力・自己教育力を身につけ、広く社会に貢献できる看護職者を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 看護学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(看護学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護する力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力を身につけ、人々の健康と福祉に寄与する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 看護を必要とする人を全人的に捉え、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する力
6. 自律性と参画力を備え、関連する専門職者および地域と協働・連携する力

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、数理的分析能力、ICT活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。

4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 看護学の専門基礎教育科目および専門性を探求する専門教育科目を適切に配置する。
6. 4年間を通して学生主体・参画型の少人数教育を実施し、「自己との対話」「他者との対話」「地域社会との対話」を通して自己教育力を育む。
7. 専門的な知識・技術を統合し、看護の専門性を発展させる能力や態度を育む。

# 助産学専攻科の三つのポリシー

助産学専攻科は安心して健康な子どもを産み育てられる地域づくりに貢献する助産師を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー (学生が修了時に持つべき能力)

▶ 助産学専攻科では、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
2. 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力。
3. 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力。
4. 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力。
5. 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力。
6. 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。
7. 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

▶ 助産学専攻科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成している。

○編成方針

1. 助産学基礎領域では、生命尊重・倫理観を深めながら、沖縄のケアリング文化を理解し、保健・医療・福祉関係者との協働・連携について学ぶ。
2. 助産学実践領域では、現代社会における女性や子どもを取り巻く状況や、沖縄県が抱える周産期課題への理解を深め、課題を焦点化できる力を修得する。また、女性の生涯を通じて、リプロダク

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 看護学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを様々な方法で創造的に表現できること。
3. 看護学科の特徴を正しく理解し、文系・理系に偏ることなく高等学校教育における基礎的な学力を身につけていること。なお、生命科学の基礎となる生物、化学については、基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。

ティヘルス/ライツに焦点を当てて支援する健康教育技法を修得する。助産学実習では、最新の周産期医療および助産技術を学習し、対象の幅広いニーズに応えられる問題解決能力、実践能力を高める。

3. 助産学関連領域では、国際社会を視野に入れて、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自律して実践できる力を修得する。また、科学的探究心および研究能力を培い、生涯にわたり自己の資質の向上に努める力を修得する。

○実施方針

1. 知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を養成するために、1年を通して学生主体・ディスカッションを主軸とした教育を実施する。
2. 助産学専攻科専任教員のほか、妊娠期における超音波診断、新生児の蘇生などの演習など、様々な講師による授業を展開して、充実した実習環境で助産実践力を培う。
3. 助産学実習においては、周産期を中心に、地域・国際社会での助産師活動や助産管理など、助産師としての技術、知識を修得する。
4. 獲得した専門知識や助産技術を統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、1年を通して研究の基礎的知識を培う。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 助産学専攻科では、本学の教育理念に共感し、自ら考え行動しようとする、以下のような学習意欲の高い人を求める。

1. 助産に関心を持ち生命誕生に真摯に向き合える誠実な人
2. 相手の身になって考えることができ、周囲と積極的に協力し合える人
3. 目標に向かって粘り強く、自ら進んでチャレンジできる人
4. 将来助産師として社会に貢献できる意欲のある人
5. 社会に対し積極的に関わり、専門職としての役割を果たし、地域医療、国際貢献に意欲のある人

# 国際文化研究科(修士課程)の三つのポリシー

国際文化研究科(修士課程)は、グローバル化、情報化が進展する国内外の諸課題に対応できる高度専門職業人および研究能力を有する人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 国際文化研究科(修士課程)は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(国際文化)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続ける生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する力

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。
4. 国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」および以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。

### 【言語文化教育研究領域】

沖縄と日本に加え、環太平洋地域(アジア、中南米、北米地域)の言語と文化を探求する人材を養成するための科目等を配置する。

### 【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。

### 【経営情報教育研究領域】

グローバルな立場から地域社会や国際社会の問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。

### 【観光環境教育研究領域】

観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

### 【健康科学教育研究領域】

国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 国際文化研究科(修士課程)の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い研究意欲を有し、何事にも主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 専門分野の基本的な研究手法を活用し、現代社会の課題を正確に理解・分析したうえで、その結果を様々な方法で創造的に表現できること。
3. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有すること。

なお、各教育研究領域では次のような人材を求める。

### 【言語文化教育研究領域】

言語を中心とする人間の文化に関する独創的な研究を計画し遂行することを目的とし言語や文化の領域でグローバルな視点から貢献できる人材

### 【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景にして、国内諸問題に関心を寄せ、歴史、政治、経済、法律、国際関係などの視点から究明し、その解決策を提言する政策立案者、研究者を目指す人材

### 【経営情報教育研究領域】

専門的職業人として地域の経済、産業、情報化、人材育成に貢献できる高い研究意欲を有する人材

### 【観光環境教育研究領域】

観光を文化、亜熱帯性・海洋性・島嶼性に関する環境、政治経済の視点から総合的に研究するために、観光学についての基盤となる知識を有する人材

### 【健康科学教育研究領域】

人間の健康とスポーツの諸科学についての基本的な理解と、今後の展開について考究し、地域社会や国際社会の健康に関して、健康科学の視点から学術的に探求できる人材

# 看護学研究科(修士課程)の三つのポリシー

看護学研究科は、健康問題を創造的に解決できる専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 看護学研究科(修士課程)は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力
2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力
3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力
4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 看護専門職として実践・研究を遂行するにあたり、基盤となる批判的・論理的思考力を育成するために、共通必修科目と共通選択科目を配置する。
2. 看護実践および研究の質の向上に資する専門科目を配置し、志向する専門分野(基盤看護学分野、臨床看護学分野)における看護学の専門性を探求する能力を育成する。
3. 研究方法、研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目(専門演習)および修士論文を作成する研究科目(特別研究)を配置する。
4. 修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 看護学研究科(修士課程)の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 看護学の発展に向けて、自ら進んで取り組む意欲と探求する姿勢を持っていること。
2. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに応えるため、高度な知識、看護実践能力および研究能力の習得を目指していること。
3. 看護実践・教育・研究を通して地域社会や国際社会に貢献する意思を持っていること。
4. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有していること。

# 国際文化研究科(博士後期課程)の三つのポリシー

国際文化研究科 国際地域文化専攻(博士後期課程)は、普遍的研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指します。

## I ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

▶ 国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)は、以下の要件を満たした大学院生に博士(国際地域文化)の学位を授与します。

1. 国際地域文化という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる能力を有すること。
2. 本学が立脚する琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて国際感覚を磨くとともに、先端的な理論と知識を創造する能力を有すること。

## II カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

▶ ディプロマ・ポリシーで示した能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 「国際」「地域」「文化」を基本理念としてカリキュラムを編成し、高度の外国語運用力を含む研究能力を備えた研究者を育成する。
2. 総合的な判断能力を育成し、グローバルと地域の視点を備えた研究者を育成するために、研究分野間の学際的な連携を図る。
3. 博士の学位にふさわしい高度な専門知識と学識の習得及び研究遂行能力の醸成を目的に共通科目を編成する。
4. 専門科目は、複数の専門分野に関連する研究課題にも応用できる研究能力を醸成することを目的に、沖縄(琉球)・アジア研究及び(ハワイを含む)南北アメリカ研究に関する専門科目及び関連科目により編成する。
5. 博士論文執筆のための指導を行う研究指導科目を編成する。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

▶ 国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 環太平洋の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための修士課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。
2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。
3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。

## 名桜大学の教育目標

本学は、教育基本法および学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

## 教養教育の目標

自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。

## 共通コア科目の目標と科目群

共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。

科目区分	目標	科目
アカデミックスキル	アカデミックスキル科目は、大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養演習Ⅰ～Ⅱ</li> <li>コンピュータ・リテラシー</li> <li>アカデミックライティングⅠ～Ⅱ</li> <li>アカデミックスキル特別講義</li> </ul>
ライフデザイン	ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学と人生</li> <li>キャリアデザイン</li> <li>プロジェクト学習</li> <li>ライフデザイン特別講義</li> </ul>
思想と論理	思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間と環境</li> <li>生命と倫理</li> <li>科学入門</li> <li>論理学</li> <li>現代思想</li> <li>思想と論理特別講義</li> </ul>
沖縄理解	沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄学</li> <li>沖縄の自然</li> <li>沖縄の言語</li> <li>沖縄理解特別講義</li> </ul>
健康スポーツ	健康スポーツ科目は、健康・体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育実技Ⅰ～Ⅱ</li> <li>健康・スポーツ科学</li> <li>健康スポーツ特別講義</li> <li>健康スポーツ特別実技</li> </ul>

## 共通選択科目の目標と科目群

共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。

科目区分	目標	科目
外国語	外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシック・イングリッシュ</li> <li>イングリッシュ・コミュニケーション</li> <li>アカデミック英語基礎</li> <li>ドイツ語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>フランス語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>スペイン語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>ポルトガル語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>中国語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>韓国語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>タイ語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>プラクティカルイングリッシュⅠ～Ⅱ</li> <li>ビジネス英語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>外国語特別講義Ⅰ～Ⅱ</li> </ul>
国際理解	国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際学入門</li> <li>異文化接触論</li> <li>国際社会と日本</li> <li>人権と平和</li> <li>国際コミュニケーション論</li> <li>海外スタディツアー</li> <li>国際理解特別講義</li> </ul>
人文科学	人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の歴史と鑑賞</li> <li>美術の歴史と鑑賞</li> <li>哲学</li> <li>心理学</li> <li>歴史学</li> <li>教育学</li> <li>ヒューマンケアリング</li> <li>文学</li> <li>人文科学特別講義</li> </ul>
社会科学	社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法学</li> <li>憲法</li> <li>政治学</li> <li>経済学</li> <li>経営学</li> <li>社会学</li> <li>人文地理学</li> <li>社会科学特別講義</li> </ul>
自然科学	自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学</li> <li>統計学</li> <li>物理学</li> <li>化学</li> <li>生物学</li> <li>地学</li> <li>情報科学と社会</li> <li>自然科学特別講義</li> </ul>

リベラルアーツ機構は、豊かな感性と知性を持った円満な人格形成を目指す「名桜大学型リベラルアーツ教育」を推進し、多様化する学生のニーズに対応するリベラルアーツ教育プログラムの開発・運用および学習支援を図ることを目的として平成27年に開設した。

## リベラルアーツ機構の業務内容

リベラルアーツ機構の目的を達成するために(1)全学的な教養教育課程の運営、(2)全学的な学生の教育交流の実施、(3)全学的な学習支援の実施、(4)全学的な教養教育方法の改善、(5)全学的な教養教育課程の運営並びに学習支援実施の自己点検・評価、(6)全学的な教養教育課程の学年暦、時間割編成、登録等の手続き、(7)リベラルアーツ機構および学習支援センターの運営、(8)学生会館SAKURAUM運営に係る連絡調整などを行うとともに、学習支援を行う言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンターを設置し運用している。

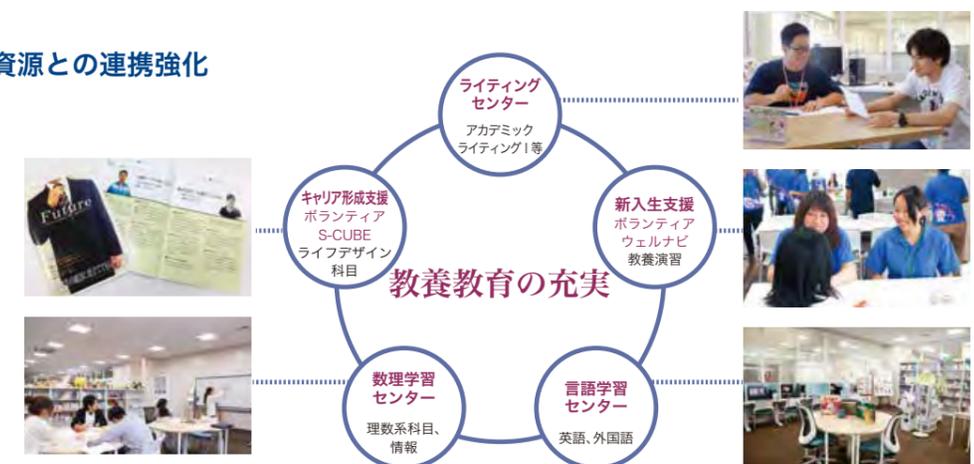
また、機構の活動の拠点を学生会館SAKURAUMに置き、教養教育の運営、学習支援センターの運営、学習環境づくりのマネジメントが連携できる体制を整えつつある。

## 教育スタッフ

令和元年5月1日現在

リベラルアーツ機構	機 構 長	小 番 達 教授(国際学群所属)
	副 機 構 長	玉 井 なおみ 上級准教授(人間健康学部看護学科所属)
言語学習センター	セ ン タ ー 長	渡 慶 次 正 則 教授(国際学群所属)
	副 セ ン タ ー 長	メ ー ガ ン ク ッ ク ル マ ン 准 教 授(国際学群所属)
	担 当 教 員	笠 村 淳 子 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
数理学習センター	セ ン タ ー 長	高 安 美 智 子 教 授(リベラルアーツ機構所属)
	副 セ ン タ ー 長	立 津 慶 幸 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
ライティングセンター	セ ン タ ー 長	奥 本 正 教 授(人間健康学部スポーツ健康学科所属)
	副 セ ン タ ー 長	清 水 か お り 上 級 准 教 授(人間健康学部看護学科所属)
	担 当 教 員	真 喜 屋 美 樹 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
外国語教育	中 国 語 教 育	山 城 智 史 上 級 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
		賀 南 上 級 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
	英 語 教 育	タ ン エ ン ハ イ 准 教 授(リベラルアーツ機構所属)
		玉 城 本 生 助 教(リベラルアーツ機構所属)

## 学内資源との連携強化



リベラルアーツ機構は教養教育カリキュラムや学習支援プログラムの開発と運用に力を入れている。具体的には、新入生の学力把握(入学時共通テスト)、GPA制度の実質化、授業評価アンケートに基づく新カリキュラムの評価・点検を、科目責任教員とともに推進し、また、教養教育を担う教員用のFD(ファカルティ・ディベロップメント)や、専任講師と非常勤講師との連携の場をつくることに力を入れている。通常の授業時間だけでは十分な教育効果は保証されないため、先輩・後輩コミュニティを活用した学習支援・学生支援プログラムの開発と運用、そしてTA・SA制度の点検・改善を積極的に行い、着実に教養教育および学習支援のPDCAサイクルを運用することが目標となっている。

## 言語学習センター(LLC) 学生会館 SAKURAUM 4階

平成13年4月開設



Language Learning Center(通称LLC)は国際語としての英語と留学生を対象とした日本語の二つをメインに、名桜大学で科目を開設しているスペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タイ語、ドイツ語、フランス語などの辞書や資料を揃え、学生の自主学習の場を提供している。

また、留学生を含む専属の学生チューターが利用者へのアドバイス、自主学習へのサポートを行っている。トレーニングプログラムを修了した学生チューターは、米国のいくつかの教育機関からなるCollege Reading and Learning Association(CRLA)が発行認定しているInternational Tutor Training Program Certification(ITTPC)のチューター資格を得ることができる。学生チューターによる語学ワークショップも開催しており、利用者に異文化交流も提供している。

## 数理学習センター(MSLC) 学生会館 SAKURAUM 4階

平成21年5月開設



Mathematical Science Learning Center(通称MSLC)。数理学習センターでは学生チューターが中心となり、数理系科目を中心とした学習支援とセンター運営を行っている。数理系の教科書、参考書、問題集の他、SPI問題集や公務員試験対策問題集等も取り揃えており、施設内で自習をしながらチュータリングを受けることもできる。また、センターにはSPSSが使えるPCがあり、卒業研究の資料作りなどにも気軽に利用できる。

数理学習センターの特色は、数理系科目の授業連携で学期末試験までの15週を通して計画的・継続的に受講生の学習支援を行っていることである。数学が苦手な学生にとって、心強い学習支援センターとなっている。さらに、専任教員とチューターが協働でチューター育成プログラムを開発し、チューターの数理能力の向上と社会人基礎力の向上を目指して、毎週チュータートレーニングを行っている。チューター同士の学び合いでMSLC運営を継承・発展させているのもMSLCの特徴である。

## ライティングセンター(MWC) 学生会館 SAKURAUM 4階

平成27年4月開設



ライティングセンター(Meio Writing Center:MWC)は、日本語によるアカデミック文章を書く力の向上をサポートすることを目的として2016年に開設された。MWCは学生のレポートや論文作成をサポートし、よりよい文章を作成していく場所である。本学MWCは学部生がチューターとなり、学部生のレポート支援を行うという全国的にも珍しいセンターである。

MWCのチュータリングでは、持ち込まれたレポートを添削するのではなく、対話を通して書き手の考え方や意図を明確化し、より良いレポートの完成を目指している。このようなチュータリングを通して、自立した書き手を育てることがMWCの目標である。

## その他、学生支援機関

### メディアネットワークセンター(MNC)

平成13年6月開設



Media Network Center(通称MNC)では、情報関連技術を用いて本学の教育・研究に係る情報処理の高度化を推進している。学内外のネットワーク監視を行い、安全かつ安定したネットワーク環境の提供を実現している他、PC・ソフトウェア操作指導や導入に係る検討を行っている。

また、「アクティブラーニング教室」を設置し、PCやタブレットの貸出、大型モニターを使用し、プレゼンテーションが行える環境を整え、自主学習の推進を行っている。

### 教員養成支援センター 本部棟 2階

平成18年7月開設



教員養成支援センターでは、教職経験豊かなスタッフが教職を希望する学生の支援活動を行っている。1年次から4年次までの体系的な教員養成プログラムを提供し、教育現場に適応した質の高い教育実践者の育成をめざしている。センター内には、教員採用試験対策の関連書籍や教育関連図書等を揃えている。

### 名桜ウェルナビ(ウェルカムナビゲーション) 学生会館 SAKURAUM 4階

平成19年4月開設



ウェルカムナビゲーション(通称名桜ウェルナビ)は、2年次から4年次の学生ボランティアで構成される新入生支援組織である。主に新入生支援、学内イベントの企画・運営を学生目線で行っている。新入生支援は先輩学生が実際の学校生活での経験をもとに履修や学生生活全般についての相談、教養演習のボランティアチューター、入学式やオープンキャンパスといった学校行事のスタッフ、北部地域の自然環境を活かしたイベントなどを行う。学内イベントとしては全年次を対象とした学内美化活動、名桜杯(草野球大会)、名桜大運動会などの企画・運営を行い、年次・学科間交流を図るとともに学生生活の更なる向上を目指している。

### S-CUBE(キャリア形成支援の学生団体) 学生会館 SAKURAUM 5階

平成22年3月開設



S-CUBE(エス・キューブ)は、「名桜生の名桜生による名桜生のためのキャリア形成支援を行う学生団体」であり、学生の目線でキャリア支援課に対し、学生のキャリア形成に関する提案を行っている。また、キャリアコーチやキャリア支援課と連携し、就活意欲向上のためのイベントやセミナーの企画、名桜生に特化した就活冊子(Future)を発行している。さらに、学生へキャリア開発委員会及びキャリア支援課が提供する「就職ガイダンス」の参加を促すメッセージ、キャリア支援課及び就職相談員の活用を促すナビゲーターの役割を果たしている。

## 個性豊かな人材の育成を目指す6つの専攻

国際学群は、21世紀地球市民として、「地域社会及び国際社会で活躍できる人材」を育成する。すなわち、地球規模での協調・共生と、一方で国際競争力の強化が求められる時代の中で、柔軟かつ総合的に判断できる能力の育成が重要であるという認識のもとに、多様なニーズに対応できる人材を育てることを教育目標としている。

### 取得できる免許

- 中・高等学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(商業)
- 高等学校教諭一種免許状(情報)

### 取得できる資格

- 観光ビジネス実務士
- 診療情報管理士受験資格

### 目指す進路・就職先

- 公務
- 教育・学習支援業
- 専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 流通
- 金融業・技術サービス業
- 情報通信業
- 医療、福祉
- 宿泊業・飲食店
- 生活関連サービス業、レジャー産業
- 中学校教諭(英語)
- 高等学校教諭(英語、商業、情報)
- 診療情報管理士
- 国内外への大学院進学
- その他

### 現地実習・インターンシップ(派遣実績推移)

#### 1. 現地実習派遣学生数(人)

コース	1996~2012 198~平24		2013		2014		2015		2016		2017		2018		合計
	平25	平26	平27	平28	平29	平30	平31	平32	平33	平34	平35	平36			
中南米コース	669	12	8	—	ポルトガル語コース 2	ポルトガル語コース 0	ポルトガル語コース 5	ポルトガル語コース 4	スペイン語コース 5	スペイン語コース 7	スペイン語コース 4			712	
アジアコース	265	23	7	東アジアコース 6	東アジアコース 6	東アジアコース 18	東アジアコース 16	東南アジアコース 6	東南アジアコース 5	東南アジアコース 2	東南アジアコース 0			354	
英語圏コース	134	5	6	3	6	2	3							159	
沖縄・日本コース	130	5	13	10	7	5	15							185	
日本コース	—	—	12	4	5	1	8							30	
国際協力コース	9	7	8	13	14	8	12							71	
教育支援コース	—	9	11	7	10	4	3							44	
合計	1,207	61	65	49	60	47	66							1,555	

※国際学部国際文化学科(～平成20年度)・国際学群(平成21年度～)

#### 2. インターンシップ派遣学生数(人)

派遣地	1996~2012 198~平24		2013		2014		2015		2016		2017		2018		合計
	平25	平26	平27	平28	平29	平30	平31	平32	平33	平34	平35	平36			
県内企業・事業所等	2,190	142	130	131	110	62	127							2,960	
県外企業・事業所等	—	2	20	20	12	6	8							—	
合計	2,190	144	150	151	122	68	135							2,960	

※国際学部経営情報学科・観光産業学科(～平成20年度)、国際学群(経営専攻、情報システムズ専攻、診療情報管理専攻、観光産業専攻。平成21年度～)

#### 3. 海外インターンシップ派遣学生数(人)

年度	2001~2012 平13~平24	2013 平25	2014 平26	2015 平27	2016 平28	2017 平29	2018 平30	合計
派遣数	38	9	5	4	2	7	4	69

※国際学部観光産業学科(～平成20年度)・国際学群観光産業専攻(平成21年度～)

※派遣地:マレーシア、台湾、韓国

### 国際学群教育スタッフ 令和元年5月1日現在

学群長	新垣 裕治
<b>国際文化教育研究学系</b>	
教授	板山 勝樹、上江洲 基、嘉納 英明、小番 達、シャイヤステファロック、住江 淳司、高嶺 司、渡慶次 正則、中村 浩一郎、ノーマン・フィーウェル、李 鎮榮
上級准教授	小嶋 洋輔、菅野 敦志、坪井 祐司、照屋 理、屋良 健一郎
准教授	上原 なつき、メーガン・クックルマン
<b>経営情報教育研究学系</b>	
教授	アリ、ファテヘルアリム、F、大城 渡、木村 堅一、金城 亮、佐久本 功達、田邊 勝義、仲尾次 洋子、中里 収、林 優子、宮平 栄治
上級准教授	アラスーン・ピーターM、大城 真理子、天願 健
准教授	上門 要、大城 美樹雄、草野 泰宏
<b>観光産業教育研究学系</b>	
教授	新垣 裕治、田代 豊、朴 在徳
上級准教授	伊良 啓、大谷 健太郎、角谷 尚久、許 点淑、宮城 敏郎
准教授	卯田 卓矢、柳 銀珠

(職階内五十音順)

### 6つの専攻

#### 国際文化専攻



沖縄県が持つ地理的、歴史的、文化的条件を活用し、アジア、中南米、日本などの環太平洋地域で活躍できる国際性豊かな人材を育成する。

- 教育分野
- 沖縄コース
- アジアコース
- 国際協力コース
- 日本コース
- 中南米コース

学士(国際文化学)

#### 語学教育専攻



国際共通語としての英語力、および母語である日本語力を実践的、専門的レベルにおいて養成する。言語を通して自己を深く探究し他者に広く関わり、幅広い教養と高い専門力を持った、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成する。

- 教育分野
- 英語コミュニケーション
- 英語教師養成
- 日本語教師養成

学士(国際文化学)

#### 経営専攻



社会や企業経営の諸問題の解決に必要な経営の専門的知識、課題設定力、情報収集力、情報分析力、プレゼンテーション能力、グループ力、マネジメント力を理論と実践を通じて育成する。

- 教育分野
- 人間行動(心理)
- 企業(経営)
- 社会政策(経済・法律)
- 情報(情報管理)

学士(経営情報学)

#### 情報システムズ専攻



情報技術と社会人基礎力を磨くとともに情報活用能力、システム思考能力、問題解決能力を有する人材を育成する。

- 教育分野
- ネットワーク技術
- システム開発
- 情報管理
- デジタルコンテンツ

学士(経営情報学)

#### 診療情報管理専攻



医療現場の現象を数量化・文章化した医療情報を作成し、可視化することで業務改善ができる医療情報のプロフェッショナルを育成する。

- 教育分野
- 医学的知識領域
- IT技術領域
- 経営管理領域
- 診療情報管理領域

学士(経営情報学)

#### 観光産業専攻



観光・ホスピタリティ産業を通して国際社会と地域社会に貢献できる多様な能力を持ったスペシャリストを育成する。

- 教育分野
- 観光政策・ビジネス
- 環境・エコツーリズム
- 観光文化

学士(観光産業学)

### 副専攻(提供専攻)

副専攻は、他の専攻に所属している学生でも、ある特定の目的に沿って専攻教育科目などの履修を終えると、卒業時にその専門性を認定する制度です。所属している専攻が提供している副専攻は、認定できません。  
※副専攻プログラムは卒業要件ではありません。

- 国際貢献(国際文化専攻)
- 英語(語学教育専攻)
- ビジネスマネジメント(経営専攻)
- ネットワーク技術(情報システムズ専攻)
- システム開発(情報システムズ専攻)
- 情報管理(情報システムズ専攻)
- デジタルコンテンツ(情報システムズ専攻)
- 観光ビジネス(観光産業専攻)
- 名桜大学副専攻<地域マネジメント>(一)



### 専門教育科目

#### 学類共通専門教育科目

##### 人文科学系科目

- 日本語理解論
- 日本文化概論
- 文化人類学
- 人間関係論
- 日本語表現論
- 日本史入門

##### 社会科学系科目

- 経営統計学
- 観光学概論
- 地域研究方法論
- 社会調査法
- 経営情報論
- 地域社会論
- 社会心理学

##### 自然科学系科目

- コンピュータ概論
- 情報処理論
- 情報化社会論
- 自然保護論
- 沖縄の天然記念物
- 島嶼環境論
- 情報と職業

##### 学際・統合系科目

- 国際学群特別講義
- 国際文化系基礎演習
- 語学教育系基礎演習
- 経営系基礎演習
- 情報システムズ系基礎演習
- 診療情報管理系基礎演習
- 観光産業系基礎演習
- 国際文化専門演習Ⅰ～Ⅳ
- 経営情報専門演習Ⅰ～Ⅳ
- 観光産業専門演習Ⅰ～Ⅳ

合計	国際学群の総科目数 350科目 (教養教育科目 80科目、 外国人留学生対象科目21科目含)	卒業要件	教養教育科目 42単位以上 専門教育科目 56単位以上 自由選択科目 26単位以上 卒業要件単位数 合計124単位以上
学位	学士(国際文化学) 学士(経営情報学) 学士(観光産業学)	授業期間等	1学年の学期区分 2学期 1学期の授業期間 15週 1時限の授業時間 90分
学位の分野	文学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係		

#### 専攻専門教育科目

##### 人文科学系科目

- 漢文講読
- 書写・書道概論
- 中級英語リスニング
- 中級オーラルコミュニケーション
- 中級英語講読
- 中級英作文
- 比較芸術論
- 比較宗教論
- 比較思想論
- 日本の歴史
- 英米文化概論Ⅰ
- 英米文化概論Ⅱ
- 異文化コミュニケーション論
- 沖縄地域文化論
- 島嶼文化論
- 観光文化論
- 比較映像文化論
- 言語学概論Ⅰ
- 言語学概論Ⅱ
- 日本語学概論
- 南島歌謡
- 日本言語史
- 中南米の言語と文化
- 英語音声学
- 英文法
- イギリス文学
- 沖縄の文学
- 準高等英語リスニング
- 準高等オーラルコミュニケーション
- 準高等英語講読
- 準高等英作文
- 高等英語リスニング
- 高等オーラルコミュニケーション
- 高等英語講読
- 高等英作文
- 観光実用英語Ⅰ
- 観光実用英語Ⅱ
- ビジュアルコミュニケーション入門

- 沖縄の社会
- アジアの宗教
- 国際文化特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 語学教育特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 言語と文学
- 日本史料講読
- 観光実用韓国語
- 観光実用中国語
- 中南米の歴史
- 日本古典文学史
- 日本近代文学史
- 日本古典文学概論
- 日本近代文学概論
- 日本の社会
- 日本の宗教
- 移民と異文化
- 中南米の社会
- 地域文化演習
- 現地実習
- アジアの言語
- 英語学概論
- アメリカ文学
- アジアの文学
- アジアの歴史
- アジアの文化
- 通訳技法
- 外書講読
- 小学校英語教育教授論
- 職業指導Ⅰ
- 職業指導Ⅱ
- 日本語教授法
- ディベート
- 現代日本語論
- 日本近代文学論
- 日本古典文学論
- 中南米の民俗
- 英語リサーチ・ライティング
- 日本語教育実践演習

##### 社会科学系科目

- 民法と市民生活
- 簿記原理
- 上級簿記
- 経営学総論
- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 観光産業特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 観光学総論
- 地誌学
- レジャー・レクリエーション論
- 観光関連法規
- 会社法
- 行政法
- 西欧経済史
- 財政学
- 沖縄観光
- 観光行動論
- 流通論
- 観光開発論Ⅰ
- マーケティング論
- 観光調査法
- 観光交通論
- 中小企業論
- 原価計算
- 経営組織論
- 経営戦略論
- 会計学原理
- イベント事業論
- エコツーリズムⅠ
- 国際機構論
- ホスピタリティ概論
- 観光事業論
- 国際経済論
- 金融論
- ベンチャービジネス
- 経営特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 観光地理学
- 観光産業論
- 経営管理論
- 問題解決の心理学

- 旅行業経営論
- 旅行業法と約款
- 人的資源管理論
- 地方自治論
- 国際関係論
- 国際政治論
- 市場調査論
- 情報系インターンシップⅠ
- 病院実務Ⅰ
- 交通産業論
- 経済政策
- 観光政策論
- 地域経済学
- 観光経済学
- 観光開発論Ⅱ
- ホテル計画論
- グローバル・ビジネス論
- 産業情報論
- ホスピタリティマーケティング論
- 経営分析論
- ホテル実務
- 海外インターンシップ
- エコツーリズムⅡ
- ホテル経営論
- 国際コンベンションビジネス
- ホスピタリティマネジメント論
- 観光資源論
- アジアの政治と社会
- 組織心理学
- 対人コミュニケーション論
- チームマネジメントの心理学
- 余暇社会学
- 地域マーケティング論
- 観光関連実務
- 情報系インターンシップⅡ
- 病院実務Ⅱ
- 病院実務Ⅲ
- 観光産業系インターンシップⅠ
- 観光産業系インターンシップⅡ

##### 自然科学系科目

- プログラミング入門
- コンピュータ・グラフィックス
- ウェブデザイン
- ウェブグラフィックス
- 診療情報管理論Ⅰ・Ⅱ
- 人体構造・機能及び医療用語
- 医療概論及び臨床医学総論
- 臨床医学各論Ⅰ
- 医療管理総論
- 医療管理各論
- 保健医療情報学
- ゴルフⅠ
- ゴルフⅡ
- スクーバダイビング
- 野外活動演習
- 救急処置
- データ処理入門
- 地球の環境とその保全
- 医療統計学
- 診療情報管理特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 沖縄の植物と保護
- 自然地理学概論
- 国際ネットワーク論
- ネットワークの構築と運用
- プログラミング言語論
- 上級プログラミング
- アルゴリズム論
- データベース概論
- データベース実践
- ネットワーク技術Ⅰ
- ネットワーク技術Ⅱ
- ウェブコンテンツ実践
- 臨床医学各論Ⅱ
- 臨床医学各論Ⅲ
- 臨床医学各論Ⅳ
- 国際統計分類Ⅰ
- 国際統計分類Ⅱ

## 健康支援人材の育成を目指す

人間健康学部は、「人間の生き方」、「人間が心身を充実させてよりよく生きること」を学ぶことを基本理念とし、「スポーツ」、「健康」、「看護」を通して科学的に探求・究明することにより「健康支援人材」及び「看護職」を養成する。



### 取得できる免許

#### スポーツ健康学科

- 中・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 養護教諭一種免許状
- 第一種衛生管理者免許

### 取得できる資格

#### スポーツ健康学科

- 健康運動指導士受験資格
- 健康運動実践指導者受験資格
- トレーニング指導者（JATI）受験資格
- 日本体育協会公認スポーツ指導者受験資格（共通科目免除、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー）
- 社会福祉主事任用資格

#### 看護学科

- 養護教諭二種免許状
- 第一種衛生管理者免許
- ※ 養護教諭二種免許・第一種衛生管理者免許は保健師資格取得後申請により取得可能

#### 看護学科

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格
- ※ 保健師国家試験受験資格は選択コースのみ取得

### 人間健康学部教育スタッフ

令和元年5月1日現在

学部長 砂川 昌範

#### スポーツ健康学科

教授 小川 寿美子、奥本 正、高瀬 幸一、平野 貴也、前川 美紀子  
 上級准教授 伊礼 優、小賦 肇、遠矢 英憲  
 准教授 石橋 千征、大峰 光博、岡部 麻理、神田 奈津子、玉城 将、仲田 好邦、東恩納 玲代、山本 健司  
 助教 神谷 義人、砂川 恵子

#### 看護学科

教授 大城 凌子、小西 清美、島田 友子、鈴木 啓子、砂川 昌範、田場 真由美、永田 美和子、松下 聖子、横川 裕美子  
 上級准教授 鬼頭 和子、清水 かおり、玉井 なおみ、名城 一枝、比嘉 憲枝、本村 純  
 准教授 安里 葉子、伊波 弘幸、木村 安貴、佐和田 重信、下地 幸子、下地 紀晴、鶴巻 陽子、  
 助教 浦添 美和、大浦 早智、島袋 尚美、新里 美智子、長嶺 絵里子、西田 涼子、野崎 希元  
 助手 安仁屋 優子、久津見 彩子、新城 慈、仲村 怜、溝口 広紀

（職階内五十音順）

## スポーツ健康学科

こころとからだを一体として捉え、人間の健康を理解した健康支援を担う人材を育成する。



### 教育の特色

多様で充実した専門分野を、学際的に横断するという斬新な方法論でスポーツと健康を科学的に探究し、グローバル化に対応した専門教育を実践している。

- 1 スポーツ・健康活動支援の人材育成**  
生涯にわたってスポーツを健康増進や生活習慣病予防に応用できる知識と技能を備えた人材育成。
- 2 多様で充実した実践・実習・演習**  
保健体育免許取得のための教育実習、養護教諭免許取得のための看護臨床実習及び養護実習、健康運動指導士資格取得のための健康増進施設における実習、企業・社会福祉施設・地方公共団体・野外教育施設等におけるインターンシップなど。
- 3 社会と人間理解のための多角的研究**  
人体の構造と生理的特性、社会における体育・スポーツの位置づけ、ウェルネス・ヘルスプロモーション・保健・栄養などから捉える健康教育などのあらゆる観点からスポーツと健康を探究する。
- 4 特色ある実技科目**  
沖縄の地の利を生かした海洋スポーツ実技（ウィンドサーフィン、スクーバダイビングなど）、沖縄ならではの伝統種目（空手・古武道、琉球舞踊など）、県外で行うウィンタースポーツ（スキー・スノーボード）、その他トレーニングルーム、室内温水プールで行う各種実技科目を提供。

### 学士（スポーツ健康学）

### 目指す進路・就職先

- 中・高等学校教諭（保健体育）
- 養護教諭
- 公務
- 医療・福祉現場などでの心理・福祉職
- スポーツ団体やトレーニング施設
- 一般企業での衛生管理職
- 大学院進学など

## 看護学科

あらゆる人々の「人間としての尊厳」と「健康に生きる権利」を擁護できる看護職を育成する。あわせて自己教育力・自己評価能力を身につけ成長し続ける看護職として、広く地域に貢献できる看護職を育成する。



### 教育の特色

看護実践能力の向上を目標とし、学生が主人公となり主体的な学習者として成長していく教育課程を参画型看護教育として展開している。看護実践能力の最も重要なコンピテンシー（competency）は協働参画力、自己教育力、自己評価力であり、更にこれらのコア（核）となる能力をコミットメント能力として概念化し、下記の3つの対話を教育理念に掲げて多くのプログラムを実践している。

- 1 自己との対話：**  
学生は自分自身との対話を通して自己理解を深め看護職としてのキャリア開発をめざす。
- 2 他者との対話：**  
学生は授業や課外活動・学内行事などにおいて友人・教師・職員との対話を通して自らが授業や大学における教育活動に参画していく。
- 3 地域との対話：**  
学生はフィールド活動や看護実習を通して地域の人々とふれあい、人々との対話を通してケアリング文化を継承し発展させる。

### 学士（看護学）

### 目指す進路・就職先

- 看護師・保健師（病院、診療所、保健施設、福祉施設、保育園、訪問看護ステーション、保健所、保健センター、企業の健康管理室、行政職、看護教育機関）
- 養護教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）
- 助産学専攻科進学
- 大学院進学など

# スポーツ健康学科専門教育科目一覧 (平成31年度入学者適用)

Subject List for The Department of Sports And Health

## 専門基礎教育科目

- スポーツ健康学総論
- スポーツ健康演習
- ウェルネス概論
- 発育発達学
- 救急処置
- 生涯スポーツ論
- 人体機能学
- 社会福祉概論
- 医学一般
- 解剖学
- 生理学・運動生理学
- 衛生学・公衆衛生学
- 栄養学

## 専門教育科目

- 体育原理
- スポーツ健康学特別講義I
- スポーツ健康学特別講義II
- スポーツ健康学特別実技I
- スポーツ健康学特別実技II
- 運動学
- 体育心理学
- 体育社会学
- 体育経営管理学
- コーチ学
- トレーニング論
- 体力・健康測定と評価
- スポーツ指導論
- スポーツ栄養学
- スポーツマネジメント
- スポーツ障害と予防
- 運動処方論
- 安全管理論及び方法
- 野外教育論
- レジャー・レクリエーション論
- 空手・古武道概論
- 体育・スポーツ史
- スポーツバイオメカニクス
- 球技論
- 健康教育
- 学校保健
- 精神保健
- 養護概説
- 看護学Ⅰ
- 看護学Ⅱ
- 学校救急看護学
- 健康相談活動の理論及び方法
- 医学一般Ⅱ
- 病理学
- 免疫学
- 微生物学
- 薬理概論
- 心の健康
- 健康心理学
- 保健衛生学
- 労働衛生学概論
- 労働法規Ⅰ
- 労働法規Ⅱ
- 介護概論
- 社会福祉援助技術
- 児童福祉
- 障害者・高齢者福祉
- グローバルヘルス
- 生理学・運動生理学演習
- 衛生学・公衆衛生学演習
- 動作学演習
- スポーツ心理学演習
- トレーニング論演習
- 海洋スポーツ演習
- 看護臨床実習Ⅰ
- 看護臨床実習Ⅱ
- 運動負荷試験
- 健康産業施設等現場実習
- コーチング演習
- 体づくり運動
- 器械運動
- 陸上競技
- 水泳
- バスケットボール
- ハンドボール
- サッカー
- バレーボール
- 卓球
- ソフトボール
- 柔道
- 剣道
- 空手
- 舞踊
- 琉球舞踊
- エアロビクスⅠ
- エアロビクスⅡ
- レクリエーション実技
- ゴルフⅠ
- ゴルフⅡ
- ウインドサーフィン
- スクーバダイビングⅠ
- スクーバダイビングⅡ
- スキー・スノーボード
- テーピング・マッサージ
- インターンシップⅠ
- インターンシップⅡ
- 地域ウェルネスプロジェクト
- 卒業研究演習Ⅰ
- 卒業研究演習Ⅱ
- 卒業研究演習Ⅲ
- 卒業研究演習Ⅳ

自由選択科目に「ライフデザイン科目」(教養教育科目)、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」及び「教職に関する科目」を含めることができる。

合計	卒業要件及び履修方法
スポーツ健康学科の総科目数205科目 (教養教育科目80科目、 外国人留学生対象科目21科目含)	教養教育科目 32単位以上 専門基礎教育科目 必修12単位、選択10単位、合計22単位以上 専門教育科目 必修8単位、選択52単位以上、合計60単位以上 自由選択科目 10単位以上 卒業要件単位数 124単位以上
学位	授業期間等
学士(スポーツ健康学)	1 学年の学期区分 2 学期 1 学期の授業期間 15 週 1 時限の授業時間 90 分
学位の分野	
保健衛生学	

# 看護学科専門教育科目一覧 (平成31年度入学者適用)

Subject List for The Department of Nursing

## 専門基礎教育科目

- 人間の理解**
  - 解剖生理学
  - 病態生理学(含:病理学)
  - 生化学
  - 人間関係論
  - 生涯発達論
  - 家族社会学(含:ジェンダー論)
  - 精神保健
- 健康の理解**
  - 健康相談活動の理論と方法
  - 病態治療学Ⅰ(内科系疾患)
  - 病態治療学Ⅱ(外科系疾患)
  - 病態治療学Ⅲ(小児疾患)
  - 病態治療学Ⅳ(母性疾患)
  - 病態治療学Ⅴ(精神疾患)
  - 老年学
  - 薬理学
  - 免疫学
  - 微生物学
  - 栄養学Ⅰ
  - 栄養学Ⅱ
- 環境の理解**
  - 公衆衛生学
  - 保健統計学
  - 疫学
  - 保健福祉行政論
  - 看護と福祉
  - 学校保健
  - 産業看護学
  - 保健医療と法
  - 医療英語
  - 養護概説
  - 保健行動論

## 専門教育科目

- 専門分野Ⅰ**
  - 基礎看護**
    - 看護学概論
    - 看護援助論
    - 基礎看護技術Ⅰ
    - 基礎看護技術Ⅱ
  - 看護実践方法論**
  - フィジカルアセスメント**
  - 基礎看護実習Ⅰ**
  - 基礎看護実習Ⅱ**
- 専門分野Ⅱ**
  - 成人看護**
    - 成人看護学概論
    - 成人看護学方法論Ⅰ
    - 成人看護学方法論Ⅱ
    - リハビリテーション看護論
    - 成人看護実習Ⅰ
    - 成人看護実習Ⅱ
  - 母性看護**
    - 母性看護学概論
    - 母性看護学方法論
    - 母性看護実習
  - 高齢者看護**
    - 高齢者看護学概論
    - 高齢者看護学方法論
    - 高齢者看護実習
  - 小児看護**
    - 小児看護学概論
    - 小児看護学方法論
    - 小児看護実習
  - 精神看護**
    - 精神看護学概論
    - 精神看護学方法論
    - 精神看護実習
- 統合分野**
  - 在宅看護**
    - 在宅ケア論
    - 在宅ケア実習
  - 総合看護**
    - ケアリング文化実習
    - 感染看護
    - 看護研究方法
    - 卒業研究
    - 沖縄の文化と看護
    - ターミナルケア論
    - 看護実践と理論
    - 看護管理
  - 看護政策論
  - 家族看護学
  - 看護教育論
  - 国際看護学Ⅰ
  - 国際看護学Ⅱ
  - 災害看護論
  - 島嶼・過疎地看護論
  - 総合実習
- 保健師教育分野**
  - 公衆衛生看護**
    - 公衆衛生看護学概論
    - 公衆衛生看護活動論
    - 公衆衛生看護方法論Ⅰ
    - 公衆衛生看護方法論Ⅱ
    - 公衆衛生看護管理論
    - 公衆衛生看護実習Ⅰ
    - 公衆衛生看護実習Ⅱ
    - 公衆衛生看護実習Ⅲ

合計	卒業要件及び履修方法
看護学科の総科目数183科目 (教養教育科目80科目、 外国人留学生対象科目21科目含)	教養教育科目 28単位以上 専門基礎教育科目 33単位以上 専門教育科目 68単位以上 卒業要件単位数 129単位以上
学位	授業期間等
学士(看護学)	1 学年の学期区分 2 学期 1 学期の授業期間 15 週 1 時限の授業時間 90 分
学位の分野	
保健衛生学	

# 助産学専攻科



安心して健康な子どもを  
産み育てられる  
地域づくりに貢献する  
助産師を育成

## 専攻科の 特色

助産学専攻科は、沖縄の地理・歴史的文化的特性、とりわけ健康長寿社会の中で育まれた人々の豊かなケアリング文化に根ざした助産ケアを提供できる助産師の養成を目指し、地域社会の保健・医療・福祉との連携を推進することを特色とする。

## 養成する人材像

助産学専攻科は、以下のような人材を養成する。

- (1) 安全で質の高い助産実践能力および他職種と協働できる能力を身につけ、地域住民と相互にパートナーシップを築く存在として自己研鑽し、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる助産師。
- (2) 豊かな人間性と倫理観に基づき、地域特性や対象のニーズを踏まえた適格な対応ができ、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自立して実践できる助産師。

## 教育目的

助産学専攻科は、看護学を基盤に、人間の生命の尊厳を守り、人権を擁護できる豊かな人間性を培うとともに、女性、母子やその家族を全人的に理解し、寄り添い、かつ、継続的に健康教育支援ができる助産師を養成する。また、安全で質の高い助産実践能力を維持し、他職種と協働して、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる自律した助産師を養成することを目的とする。

## ディプロマ・ポリシー(学生が修了時にもつべき能力)

助産学専攻科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- (1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
- (2) 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力。
- (3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力。
- (4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力。
- (5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力。
- (6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。
- (7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

## 取得できる資格・免許

- 助産師国家試験受験資格
- 受胎調節実地指導員申請資格
- 新生児蘇生法修了認定(Aコース)受験資格

## 目指す進路・修了後の進路

- 病院などの医療機関
- 助産所
- 保健所・保健センター
- 大学院進学

## 助産学専攻科教育スタッフ

令和元年7月1日現在

専攻科長 教授 島田 友子  
上級准教授 小嶋 理恵子 准教授 鶴巻 陽子

## 教育課程編成の基本的な考え方

助産学専攻科の教育課程は、助産師国家資格取得に必要な指定規則28単位を含む「助産学基礎領域」、「助産学実践領域」、「助産学関連領域」の3つの領域で構成し、以下の編成方針及び実施方針に基づき体系的に編成する。

## 教育課程の編成方針

- (1) 助産学基礎領域では、生命尊重・倫理観を深めながら、沖縄のケアリング文化を理解し、命に寄り添う助産師の役割や、保健医療福祉関係者との協働・連携について学ぶ。
- (2) 助産学実践領域では、現代社会における女性や子どもを取り巻く状況や、沖縄県が抱える周産期課題への理解を深め、課題を焦点化できる力を修得する。また、女性の生涯を通じて、リプロダクティブヘルス/ライツに焦点を当てて支援する健康教育技法を修得する。助産学実習では、最新の周産期医療および助産技術を学習し、対象の幅広いニーズに応えられる問題解決能力、実践能力を高める。
- (3) 助産学関連領域では、国際社会を視野に入れて、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自律して実践できる力を修得する。また、科学的探究心および研究能力を培い、生涯にわたり自己の資質の向上に努める力を修得する。

## 教育課程の実施方針

- (1) 知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を養成するために、1年を通して学生主体・ディスカッションを主軸とした教育を実施する。
- (2) 助産学専攻科専任教員のほか、妊娠期における超音波診断、新生児の蘇生などの演習など、様々な講師による授業を展開して、充実した実習環境で助産実践力を培う。
- (3) 助産学実習においては、周産期を中心に、地域・国際社会での助産師活動や助産管理など、助産師としての技術、知識を修得する。
- (4) 獲得した専門知識や助産技術を統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を養成するために、1年を通して研究の基礎的能力を培う。

## 修了要件

助産学専攻科の修了要件は、専攻科に1年以上在学し、所定の単位(助産学基礎領域から7科目9単位、助産学実践領域から14科目21単位、助産学関連領域から必修1科目2単位及び選択1科目1単位以上、合計33単位以上)を修得した者について修了を認定する。

## 入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)

助産学専攻科は、本学の教育理念に共感し、自ら考え行動しようとする、以下のような学習意欲の高い人を求めます。

1. 助産に関心を持ち生命誕生に真摯に向き合える誠実な人
2. 相手の身になって考えることができ、周囲と積極的に協力し合える人
3. 目標に向かって粘り強く、自ら進んでチャレンジできる人
4. 将来助産師として社会に貢献できる意欲のある人
5. 社会に対し積極的に関わり、専門職としての役割を果たし、地域医療、国際貢献に意欲のある人

## 教育課程

区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び修了要件
			必修	選択		
助産学基礎領域	助産学概論	1前	1		15	必修7科目9単位を履修
	助産ケアと倫理	1前	1		15	
	沖縄のケアリング文化と女性	1前	1		15	
	生殖医学	1前	1		15	
	周産期医学	1前	2		15	
	新生児・乳児学	1前	1		15	
	助産管理学	1通	2		15	
小計			9		—	9
助産学実践領域	リプロダクティブヘルス支援	1通	1		30	必修14科目21単位を履修
	妊娠期の助産診断・技術学	1前	1		30	
	分娩期の助産診断・技術学	1前	1		30	
	産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学	1通	2		30	
	助産過程の展開	1前	1		30	
	健康教育技法	1通	1		30	
	分娩期助産演習	1前	1		30	
	母子の栄養・薬理学	1前	1		30	
	やんばるの母子保健	1前	1		30	
	助産学実習Ⅰ(妊娠・継続ケース)	1通	2		45	
	助産学実習Ⅱ(分娩・産褥・新生児期)	1通	6		45	
助産学実習Ⅲ(NICU)	1後	1		45		
助産管理学実習	1通	1		45		
母子ケアリング実習(僻地・離島)	1後	1		45		
小計			21		—	21
助産学関連領域	国際母子保健学	1通		1	30	必修1科目2単位、選択1科目1単位以上を履修
	母子の癒し援助論	1通		1	30	
	助産学研究	1通	2		30	
小計			2	2	—	3単位以上
修了要件単位数						33単位以上
助産師国家試験資格を取得する場合の最低必要単位数						33単位以上

# 大学院 国際文化研究科

## 修士（国際文化）

- 言語文化教育研究領域
- 社会制度政策教育研究領域
- 経営情報教育研究領域
- 観光環境教育研究領域
- 健康科学教育研究領域

### グローバル化、情報化が進展する 国内外の諸課題に対応できる 高度専門的職業人および研究能力を有する人材を育成

本研究科では、さまざまな文化を理解する能力を持ち、国内外における地域課題の解決に必要な視野を持った高度の専門的職業人および高度の研究能力を有する人材の養成に努めている。社会人や留学生の就学環境を考慮し、昼夜開講制や Semester（学期）制等を採用している。中学校教諭専修免許状（英語）および高等学校教諭専修免許状（英語および商業）も取得できる。



#### 国際文化研究科教育スタッフ 令和元年5月1日現在

国際文化研究科長 中村 浩一郎	
<b>言語文化教育研究領域</b>	
教授	山里 勝己 …… 米文学特論 嘉納 英明 …… 比較教育文化思想特論 小番 達 …… 日本古典文学特論 住江 淳司 …… 中南米文化特論 渡慶次 正則 …… 英語教育評価特論 中村 浩一郎 …… 言語学特論 I 李 鎮榮 …… 異文化接触特論
上級准教授	小嶋 洋輔 …… 日本近代文学特論 照屋 理 …… 琉球文学特論 屋良 健一郎 …… 日本史特論
准教授	メーガン・クックマン 英文学特論
<b>社会制度政策教育研究領域</b>	
教授	高嶺 司 …… 国際政治特論 大城 渡 …… 公法学特論
上級准教授	菅野 敦志 …… 東アジア地域特論 宮城 敏郎 …… 地域開発政策特論
<b>経営情報教育研究領域</b>	
教授	アリファテヘルアリム.F… 情報知能特論 木村 堅一 …… 社会心理学特論 金城 亮 …… 小集団心理学特論 田邊 勝義 …… 経営活動情報特論 仲尾次 洋子 …… 会計学特論 中里 収 …… 情報交流特論 宮平 栄治 …… 産業組織特論 林 優子 …… 経営戦略特論
<b>観光環境教育研究領域</b>	
教授	新垣 裕治 …… エコツーリズム特論 田代 豊 …… 環境科学特論 朴 在徳 …… 観光市場分析特論
上級准教授	大谷 健太郎 …… 観光開発特論 許 点淑 …… 観光文化特論
<b>健康科学教育研究領域</b>	
教授	小川 寿美子 …… グローバル・ヘルス特論 平野 貴也 …… スポーツレニング・コーチング特論 高瀬 幸一 …… 健康・スポーツ指導特論(兼任) 大峰 光博 …… スポーツ文化特論 玉城 将 …… バイオメカニクス特論

五つの教育研究領域		共通科目	教育研究領域科目				
言語文化教育研究領域 Language and Culture	<b>言語の特質や文化についての専門的な知識を持つ人材を育成</b> 琉球列島や東南アジアおよび中南米諸国などの環太平洋地域および英米における特色ある言語文化と地域文化の研究を行い、言語の特質や文化についての専門的な人材を養成する。	人文科学特論	言語文化研究演習 I・II 英文法特論 理論言語学特論 中南米文化特論 日本古典文学特論 琉球精神文化特論	言語学特論 I・II 英語音声学特論 比較教育文化思想特論 第2言語習得特論 日本近代文学特論	英文学特論 英語教授法特論 I・II 琉球歴史学特論 琉球文学特論 日本史特論	米文学特論 英語教育評価特論 沖縄地域文化研究特論 言語文化特別講義 I・II 中琉関係史基礎特論	地域言語学特論 I・II リサーチ方法特論 東南アジア文化特論 教育学特論 琉球・沖縄文化特論序説
社会制度政策教育研究領域 Social Systems and Policies	<b>政治・経済の改革や産業の在り方について政策提言できる人材を育成</b> 地方、国、国際社会の各レベルにおける組織の構造と機能および制度の在り方について研究し、政治・経済・法学的な立場で政策提言ができる人材を養成する。	政策科学特論	社会制度政策研究演習 I・II 地域活性化特論 社会制度政策特別講義 I・II	国際政治特論 I・II 経済政策特論 国際経済特論	地域開発政策特論 公法学特論 産業政策特論	都市政策特論 東アジア地域特論	地方自治特論 国際協力・ボランティア特論
経営情報教育研究領域 Management and Information Science	<b>情報科学を理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を育成</b> グローバル化、情報化、福祉化が進展しつつある社会の中で高度の情報技術を有し、産業活動を文化や福祉等の視点から理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を養成する。	社会心理学特論	経営情報研究演習 I・II 小集団心理学特論 会計学特論	経営活動情報特論 人的資源管理特論 マーケティング特論	経営戦略特論 比較経営学特論 情報・通信技術特論	産業組織特論 e-ビジネス特論 経営情報特別講義 I・II	情報交流特論 情報知能特論
観光環境教育研究領域 Tourism and Environmental Science	<b>総合科学としての観光環境を理解し地域特性を活かした国際的提言のできる人材を育成</b> 総合科学と呼ばれる観光学を文化および自然環境の視点から、熱帯・亜熱帯性、海洋性、島嶼性等について観光政策的および環境科学的に研究し、国内外で政策提言ができる人材を養成する。	環境科学特論	観光環境研究演習 I・II 異文化接触特論 島嶼生態学特論	観光開発特論 ホテル実務特論 観光文化特論	観光政策特論 エコツーリズム特論 観光調査法特論	島嶼開発特論 観光市場分析特論 観光環境特別講義 I・II	島嶼文化特論 観光資源特論
健康科学教育研究領域 Health Sciences	<b>知識技能はもとより、ヒューマニズムを基礎とした実践力や行動力を持ち、人間と人間がおかれている環境との関係を深く理解でき、社会と自分の関わりを、人間健康科学をキーワードに探求できる人材を育成</b> 人間の健康を科学的に究明し「こころ」と「からだ」の理解とヒューマニズムの精神を基礎に、積極的に国内外に情報を発信し、かつ社会貢献できる学際的な人材を養成する。	学術研究方法特論	健康科学研究演習 I・II 伝統武道特論 健康栄養学特論	グローバル・ヘルス特論 スポーツレニング・コーチング特論 社会福祉学特論	健康心理学特論 健康科学特別講義 I・II	地域保健学特論 ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	健康・スポーツ指導特論

**修了要件**  
●大学院国際文化研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、講義科目22単位以上、演習科目8単位の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。

# 大学院 看護学研究科

## 修士（看護学）

### やんばるのケアリング文化に根ざした看護学を探究

#### ■ 養成する人材像

本研究科は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の養成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指し、高度専門職業人および教育・研究者の養成を目的としている。

##### (1) 高度専門職業人の養成

地域の看護需要に対応して問題を解決するための指導的役割を果たす看護実践のリーダーを養成する。

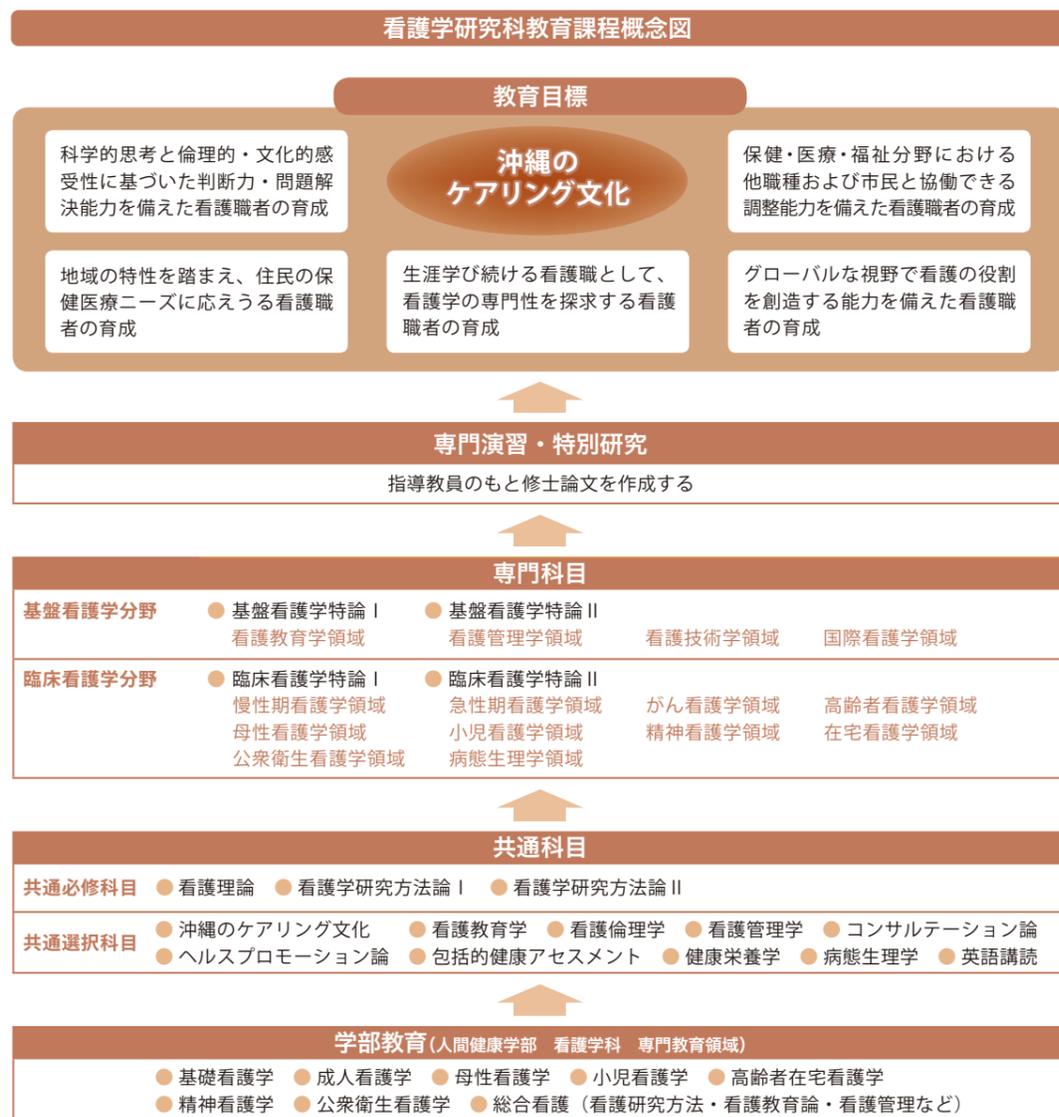
##### (2) 教育・研究者の養成

ケアリング文化に根ざした看護教育を探究する教育者および研究者を養成する。

#### ■ 社会人も学べる教育環境

現場の看護師や保健師等の社会人が仕事をつづけながら学修できる教育環境を整備している。

- ①昼夜開講制の導入、②長期履修制度の導入、③施設の夜間利用



#### 大学院教育スタッフ 令和元年5月1日現在

看護学研究科長 永田 美和子

<b>教授</b>	永田 美和子 …… 看護理論、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
鈴木 啓子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ、看護管理学、コンサルテーション論、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
横川 裕美子 …… 看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
砂川 昌範 …… 看護学研究方法論Ⅰ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
小西 清美 …… 看護倫理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
島田 友子 …… 沖縄のケアリング文化、看護管理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ	
大城 凌子 …… 看護理論、沖縄のケアリング文化、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
松下 聖子 …… 看護学研究方法論Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
田場 真由美 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
高瀬 幸一 …… ヘルスプロモーション論	
渡慶次 正則 …… 英語講読(兼任)	
嘉納 英明 …… 看護教育学(兼任)	
奥本 正 …… 健康栄養学	
<b>上級准教授</b>	伊礼 優 …… 看護学研究方法論Ⅱ、看護理論、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
清水 かおり …… 看護理論、看護教育学、看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
比嘉 憲枝 …… 看護理論、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習	
玉井 なおみ …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究	
鬼頭 和子 …… 臨床看護学特論Ⅰ、看護学研究方法論Ⅱ、専門演習、特別研究	
名城 一枝 …… 看護管理学	
本村 純 …… 看護学研究方法論Ⅰ、看護学研究方法論Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ、臨床看護学特論Ⅱ	
<b>准教授</b>	木村 安貴 …… 看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究

#### 看護学研究科授業科目

授 業 科 目			
共通科目	共通必修科目	看護理論 看護学研究方法論Ⅰ 看護学研究方法論Ⅱ	
	共通選択科目	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">沖縄のケアリング文化 看護教育学 看護倫理学 看護管理学 コンサルテーション論</td> <td style="width: 50%;">ヘルスプロモーション論 包括的健康アセスメント 健康栄養学 病態生理学 英語講読</td> </tr> </table>	沖縄のケアリング文化 看護教育学 看護倫理学 看護管理学 コンサルテーション論
沖縄のケアリング文化 看護教育学 看護倫理学 看護管理学 コンサルテーション論	ヘルスプロモーション論 包括的健康アセスメント 健康栄養学 病態生理学 英語講読		
専門科目	基盤看護学分野	基盤看護学特論Ⅰ 基盤看護学特論Ⅱ	
	臨床看護学分野	臨床看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅱ	
科目 演習・ 研究		専門演習 特別研究	
<b>修了要件</b>		看護学研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、共通科目14単位以上、専門科目4単位以上、演習・研究科目12単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。	

#### 教育課程の特色

修士課程において、次の3つの構成で体系的な教育課程を編成している。

- ① 研究方法の開発を広い視野で追及するために有効となる共通科目を設定。
- ② 看護実践の質の向上に直結した研究の効果的展開を目指した専門科目を設定。
- ③ 研究方法や研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目(専門演習)、研究指導および修士論文に直結する研究指導を行う演習、特別研究を設置。

##### 【共通科目】

グローバルな視野に立った看護の高度専門職として実践・研究を遂行するにあたり、共通科目として13科目を配置した。看護理論と看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱの6単位は共通必修科目、共通選択科目は8単位以上になるように科目を選択とし、うち4単位は国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修することができる。共通科目は、計14単位以上を履修要件としている。

##### 【専門科目】

基盤看護学分野と臨床看護学分野の2つの専門分野からなる。基盤看護学分野は、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱを配置し、専門領域として看護教育学、看護管理学、看護技術学、国際看護学から探求したい領域を選択する。臨床看護学分野は、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱを配置し、専門領域として慢性期看護学、急性期看護学、がん看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、病態生理学から探求したい領域を選択する。2つの専門分野から1つ選択し、2科目4単位以上を履修要件としている。

##### 【演習・研究科目】

学生の研究テーマに関連する専門分野ごとに研究指導教員を配置し、「専門演習」「特別研究」を設置している。研究指導教員および研究指導補助教員の指導により、専門演習4単位および特別研究8単位の計12単位、合計30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件としている。



## 環太平洋という視点に立って沖縄(琉球)・アジアと (ハワイを含む)南北アメリカの地域文化研究を深化する

### ■ 教育研究上の目的

本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。

### ■ 養成する人材

本博士後期課程は、普遍的研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指す。

- (1) 高度の普遍的な研究能力を有する研究者の養成
- (2) 地域の社会文化振興の諸課題に的確かつ柔軟に対応できる研究者の養成

### (1) 教育課程編成の基本方針



### (2) 教育課程の特色

共通科目に配置する「国際地域文化総合演習Ⅰ」、「国際地域文化総合演習Ⅱ」は、本課程の特色科目として、本学のおかれた地域的特性に鑑み、すべての学生にとって必修科目とし、本博士後期課程の研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表、報告等について質疑応答・討論を行う演習方式の科目である。学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋地域について理解を深めることを目的としている。

### (3) 教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由
共通科目	国際地域文化総合演習Ⅰ	1前	2		
	国際地域文化総合演習Ⅱ	2前	2		
専門科目	琉球・沖縄文化特論	1前		2	
	琉球文学特論	1前		2	
	南島民俗文化特論	1前		2	
	中国琉球関係史特論	1前		2	
	アメリカ環境文学特論	1前		2	
	中南米地域文化特論	1前		2	
	東アジア地域文化特論	1前		2	
	東南アジア地域文化特論	1休		2	
	言語学特論	1前		2	
	英語教育特論	1前		2	
	現代沖縄教育特論	1前		2	
アジア太平洋国際関係特論	1前		2		
研究指導科目	特別演習Ⅰ	1前	2		
	特別演習Ⅱ	1後	2		
	特別演習Ⅲ	2前	2		
	特別演習Ⅳ	2後	2		
	特別演習Ⅴ	3前	2		
	特別演習Ⅵ	3後	2		

※「1前」「1後」「1休」… 数字は学年、「前」は前学期、「後」は後学期、「休」は夏季休暇を指す。

### 教員組織

#### 研究指導(博士論文指導)教員

No.	研究分野	教員名	担当授業科目
1	琉球文学に関する研究	波照間 永吉(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 琉球・沖縄文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
2	南島地域の民俗文化に関する研究	山里 純一(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 南島民俗文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
3	中国・琉球関係史に関する研究	赤嶺 守(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 中国琉球関係史特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
4	アメリカ環境文学に関する研究	山里 勝己(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ アメリカ環境文学特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ
5	中南米地域文化に関する研究	住江 淳司(教授)	国際地域文化総合演習Ⅰ～Ⅱ 中南米地域文化特論、特別演習Ⅰ～Ⅵ

#### 講義科目担当教員

No.	教員名	担当授業科目	No.	教員名	担当授業科目
1	中村 浩一郎(教授)	言語学特論	4	高嶺 司(教授)	アジア太平洋国際関係特論
2	渡慶次 正則(教授)	英語教育特論	5	菅野 敦志(上級准教授)	東アジア地域文化特論
3	嘉納 英明(教授)	現代沖縄教育特論	6	照屋 理(上級准教授)	琉球文学特論

### 社会人も学べる教育環境

#### ● 昼夜開講制を導入

社会人学生の事情を考慮して、昼間に加えて、平日の夜間や週末及び夏季休業等にも授業又は研究指導を行うことができる教育環境を整備。

#### ● 長期履修制度を導入

長期履修制度を適用する場合には、6年を上限とする長期履修期間を設定する。要件として、職業を有している等の事情で授業科目の受講が制限され、学業専念が困難であると認められる場合、又はやむを得ない事情を有している場合とする。入学手続き時に所要の申請を行うこととする。長期履修生は、3年間の学費で最長6年間在籍し、計画的に履修することができる。

#### ● 施設の夜間利用

図書館は、大学院学生の修学時間に合わせて、月～金曜日においては午前8時50分～午後10時まで、土曜日は午後12時～17時まで開館。また、大学院生専用の研究室・共同演習室を整備している。

#### ● 学生の教育研究環境

学生の研究室には、ネットワーク環境を整備したパソコン及び周辺機器、机、椅子及び個人ロッカーを学生全員分整備する。



環太平洋地域文化研究所(平成31年4月1日、名称変更)は、外部の研究機関と連携しながら主として沖縄県北部の地域社会へ研究成果を還元し、地域のシンクタンクとしての機能を果たすべく1996年に設置された研究施設である。主な活動としては以下の項目がある。

- 1 環太平洋地域文化研究所紀要の発行、研究発表会の開催
  - 2 研究助成(学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成)
  - 3 基盤形成事業、地域貢献研究萌芽的プロジェクト
  - 4 科学研究費および外部の研究助成・受託研究・共同研究の受入
  - 5 コンプライアンス教育研修会の開催
  - 6 環太平洋地域文化研究所主催シンポジウム・講演会
- また、70名収容の研修室は、学外機関の研修会や講習会の会場として地域市民に開放されている。

【問い合わせ先】名桜大学環太平洋地域文化研究所 TEL 0980-51-1107 FAX 0980-51-1136

## 活動実績

### 学際的共同プロジェクト研究助成 平成30年度実績

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	備考
1	本村 純	8名	遺伝的要因に対応させた糖尿病PDAプログラムの開発	継続
2	仲尾次 洋子	2名	グローバルビジネスの会計課題に関する研究 - 沖縄の台湾進出企業を対象に -	継続
3	平野 貴也	2名	国際スポーツイベントにおける観戦者の動機と満足度 - ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀大会観戦者調査から -	継続
4	下地 幸子	7名	個別支援から始まるチュイシージーによるシマづくりの推進 - 金武町Z区における地域と大学との共同連携 -	継続
5	島袋 尚美	5名	伊江村島民のヘルスリテラシーの向上を目指す「肝臓を守る健康教育プログラム」の開発	新規
6	小柳 弘恵	9名	"やんばる母乳育児支援プロジェクト" - 沖縄県北部医療圏の母乳育児率向上のための支援体制の構築 -	新規

### 特定研究助成 平成30年度実績

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	備考
1	嘉納 英明	4名	沖縄社会の貧困と格差に関する研究	継続

### 新規採用者助成 平成30年度実績

	研究代表者	研究テーマ
1	新城 慈	沖縄県内の一般病院に勤務する看護師の日常倫理に関連する要因の検討
2	神谷 義人	"健康づくり推進員"活動が地域住民の健診受診行動に及ぼす影響の検討 - 南城市A地区の事例から -

### 講演会等 平成30年度実績

部門	タイトル	開催日	講演者及びシンポジスト
シンポジウム	沖縄社会の貧困と格差 教育・文学・歴史・移民	平成31年2月2日(土)	森本雅人(宜野湾市立志真志小学校)、嘉納英明(名桜大学国際学群教授)、小嶋洋輔(名桜大学国際学群上級准教授)、屋良健一郎(名桜大学国際学群上級准教授)、李顕榮(名桜大学国際学群教授)
シンポジウム	英語教育再生にむけての提言	平成31年2月23日(土)	江利川春雄(和歌山大学教授)、鳥飼玖美子(立教大学名誉教授)、大津由紀雄(明海大学教授)、斎藤光史(東京大学教授)、中村浩一郎(名桜大学国際学群教授)
シンポジウム	沖縄とオリンピック・パラリンピック - 東京2020に向けて -	平成31年2月24日(日)	大峰光博(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科准教授)、田原亮二(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授)、吉本久也(アトランタシドニーオリンピックウエイトリフティン代表選手)、喜納 翼(車いすマラソン日本代表選手)、奥本 正(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授)、小賦 肇(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科上級准教授)
シンポジウム	歴史シンポジウム種子島と東アジア海域	平成31年3月10日(日)	村井章介(立正大学教授/東京大学名誉教授)、伊川健二(早稲田大学教授)、屋良健一郎(名桜大学国際学群上級准教授)、村川元子(松寿院研究家)、鮫島安豊(種子島開発総合センター「鉄砲館」参与)

### 総合研究所発表会 平成30年度実績

発表者	開催日	研究テーマ
1 平野貴也	平成30年 9月18日(月)	国際スポーツイベントにおける観戦者の動機と満足度 - ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀大会観戦者調査から -
2 田場真由美		北部12市町村における健康づくりに活かせるソーシャルキャピタルの発掘
3 大浦早智		A市における3歳児を持つ母親の趣味と子育て環境についての検討
4 下地幸子	平成30年 9月25日(月)	個別支援から始まるチュイシージーによるシマづくりの推進 - 金武町Z区における地域と大学との共同連携 -
5 吉岡 萌		沖縄県内の生活困窮者への学生教員協同健康相談支援活動の効果と課題 - 対象者と学生双方の視点から -
6 玉城本生		名桜大学と国頭地区中学校による初級アカデミック英語学習教材集の共同作成
7 仲尾次洋子	平成30年 9月25日(月)	グローバルビジネスの会計課題に関する研究 - 沖縄の台湾進出企業を対象に -
8 本村 純		遺伝的要因に対応させた糖尿病PDAプログラムの開発
9 小柳弘恵		臨床助産師に対する継続教育 - 妊娠中から出産後の骨盤ケア研修の効果 -

### その他共催事業 平成30年度実績

共催	タイトル	開催日	主催
総合研究所 西平 守孝	サンゴ確保全シンポジウム〜知る・共有する・発信する〜	平成30年12月6日(木)	沖縄美ら島財団総合研究センター
総合研究所 西平 守孝	サンゴの分類と同定 2019	平成31年3月21日(木)〜3月24日(日)	沖縄美ら島財団総合研究センター

### 文部科学省選定事業

事業名およびプログラム名	取組名	採択期間
平成27年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)	新たな地域社会を創造する「ミライカナイ(未来叶い)プロジェクト」	H27年〜30年度

### 平成30年度 科学研究費助成事業

研究種目	研究課題名	研究代表者	採択期間	備考
基盤研究(C)	長寿県沖縄の復活に向けての基礎研究 - 高齢者の身体活動状況、生活習慣、健康状態 -	東恩納 玲代	H26〜30年度	継続
若手研究(B)	種子島史料の研究	屋良 健一郎	H26〜30年度	継続
基盤研究(C)	「認知症もナンノソノ」公民館を拠点とした地域住民が創る認知症ケアに関する研究	永田 美和子	H27〜30年度	継続
基盤研究(C)	高等教育機関における人権教育についての基礎的研究	板山 勝樹	H27〜30年度	継続
挑戦的萌芽研究	精神疾患患者へのハンドマッサージを用いたケア技術の開発に関する研究	鈴木 啓子	H27〜30年度	継続
基盤研究(C)	琉球弧における島尾敏雄受容史の構築	小嶋 洋輔	H28〜30年度	継続
基盤研究(C)	沖縄の字公民館幼稚園を支える地域の教育自治に関する研究	嘉納 英明	H28〜30年度	継続
基盤研究(C)	乳がん患者の生命予後に影響するオーダーメイドのウォーキングプログラムの開発と普及	玉井 なおみ	H28〜31年度	継続
基盤研究(C)	終の棲家で最期を安心して迎えるための入所者参画型看取り看護ガイドラインの構築	伊波 弘幸	H28〜30年度	継続
挑戦的萌芽研究	困難事例を抱えるイマドキ看護大学生のピアサポート効果の検討	平上 久美子	H28〜30年度	継続
若手研究(B)	卓球において打球の時空間特徴が得点に与える影響の定量化	玉城 将	H28〜30年度	継続
基盤研究(C)	「オオキナ和」プロジェクトによる相互扶助を活かした地域包括ケアシステム開発	佐久川 政吉	H29〜31年度	継続
基盤研究(C)	『離島の子育て“届ける”支援プロジェクト』 - 村・区・学連携システムの構築 -	小柳 弘恵	H30〜32年度	新規
基盤研究(C)	都市部と農漁村部における地域力を活かした「近助」ケアシステムの開発	安仁屋 優子	H30〜32年度	新規
基盤研究(C)	ヘルスリテラシーの向上に着目した島民の「肝臓を守る健康教育プログラム」の開発	島袋 尚美	H30〜32年度	新規
若手研究	台湾進出日本企業を対象とした国際財務報告基準の戦略的適用に関する研究	仲尾次 洋子	H30〜32年度	新規
若手研究	近現代の比叡山におけるツーリズム空間化による教団システムの変容	卯田 卓矢	H30〜32年度	新規
若手研究	明治期における条約改正交渉と「琉球処分」政策のトランスナショナルな運動性	山城 智史	H30〜32年度	新規
挑戦的研究(萌芽)	沖縄の地域文化に根ざした自死遺族支援の構築 - 相互扶助の中で忌避される自死 -	鈴木 啓子	H30〜32年度	新規
挑戦的研究(萌芽)	島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究	小川 寿美子	H30〜32年度	新規
基盤研究(C)	筋の活動・活動様式を考慮した呼吸筋のウォーミングアップ・トレーニングに関する研究	千野 謙太郎	H30〜32年度	新規
基盤研究(C)	国民国家建設期の東南アジアにおけるマレー・ムスリムのネットワーク	坪井 祐司	H29〜31年度	継続

### 研究分担者採択状況

研究種目	研究課題名	研究分担者	備考
基盤研究(C)	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援	島田 友子、吉岡 萌、稲垣 絹代	継続
基盤研究(C)	精神疾患患者のエンパワメントと参画型糖尿病教育プログラムの開発	金城 祥教	継続
基盤研究(C)	沖縄と朝鮮半島を跨ぐトランスナショナルな戦争記憶の歴史的考察	許 点淑	継続
基盤研究(C)	高齢者の運動・移動障害発症の予知因子としての歩数の有用性に関する研究	東恩納 玲代	継続
基盤研究(B)	発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成	金城 祥教	継続
基盤研究(B)	琉球史科学の基礎的構築に基づく近世琉球史研究	屋良 健一郎	継続
基盤研究(C)	要介護高齢者が組織的コミュニティへの参加を継続する支援方法の提案	佐久川 政吉	継続
基盤研究(C)	健康の社会格差の視点を包含した社会的弱者に対する保健師活動支援方略の検討	本村 純	継続
基盤研究(B)	鹿児島県の歴史資料ネットワークの実践と展開	屋良 健一郎	継続
基盤研究(A)	世界遺産の創造と場所の商品化に関わる理論的・実証的研究	卯田 卓矢	継続
基盤研究(C)	<私>性の調査と<自己語り>ジャンルとの比較による日本「私小説」の総合的研究	小嶋 洋輔	継続
基盤研究(C)	地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価	佐久川 政吉	継続
新学術領域研究	市民による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての研究	菅野 敦志	継続
基盤研究(B)	地域連携型による自律的な教職課程の質保証に向けた評価システムの開発	嘉納 英明	新規
基盤研究(C)	小児救急医療機関における子育て支援プロモートモデルの開発	本村 純	新規
基盤研究(C)	河川・内湾水中マイクロプラスチック挙動解明と代替物質利用による将来濃度予測	田代 豊	新規
基盤研究(C)	中間小説誌の研究 - 昭和期メディアの読者獲得戦略 -	小嶋 洋輔	新規

### 補助金・学術研究助成基金助成金・一部基金の連携研究者

研究種目	刊行物の名称	研究者	備考
基盤研究(C)	へき地等における退院支援・調整に関する教育プログラムの開発	佐久川 政吉	新規
新学術領域	アンデス先史文化の継承性に関する実証	上原 なつき	継続

### 平成30年度受託研究・事業等

#### 受託研究・事業

受託者	事業名	委託者
1 砂川昌範	ヒト臍帯静脈血管内皮細胞におけるeNOS mRNA発現に対するシークワサーの効果	一般財団法人沖縄美ら島財団
2 本村 純	平成30年度沖縄・ハワイ協力推進事業委託業務における研究テーマ: 「ウチナーンチュの認知症有病率に影響を与える先天的要因と後天的要因の検討」	公益財団法人沖縄科学技術振興センター
3 名桜大学	「真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点」	国立研究開発法人科学技術振興機構

#### 宇流麻学術研究助成基金

研究代表者	研究課題
上原 なつき	琉球・沖縄の纂算とアンデス文明のキープに関する結縄文化の比較研究

### 平成30年度外部資金受入状況実績

区分	平成30年度	
	件数	受入額(千円)
文部科学省選定事業	2	33,112
科学研究費補助金	33	23,131
受託研究・事業	8	20,765
寄附金(使途特定あり)	13	8,453
寄附金(使途特定なし)	—	—

# 地域貢献 I REGIONAL CONTRIBUTIONS

## 名桜大学と地域をつなぐ総合窓口

### 地域連携機構

平成25年4月1日、エクステンションセンターを北部生涯学習推進センター施設内に設置(平成29年4月1日、地域連携機構に名称変更)。名桜大学における教育研究の成果を積極的に地域社会へ還元し、地域への貢献及び地域との連携活動を推進する目的で設置され、大学と地域をつなぐ総合窓口です。

当機構を中心に、その下に委員会を設置し、国際学群・人間健康学部、総合研究所、事務局、健康・長寿サポートセンター、看護実践教育研究センター、北部教育研修センターとの連携を図り、大学の使命の一つである地域貢献を果たしていきます。



### 平成30年度 公開講座 開講実績

講座名	開催日	講師
救急法救急員養成講習会 (赤十字救急法救急員養成講習会)	5月19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日)	前川 美紀子(名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 上級准教授) 学外講師 4名
沖縄の米軍基地による生活環境問題	6月3日(日)	田代 豊(名桜大学国際学群観光産業専攻教授) 学外講師 2名
ハブ対策講座	6月21日(木)	新垣 裕治(名桜大学 国際学群 観光産業教育研究学系 教授) 学外講師 1名
東屋部川ナイト・カヌー探検	7月14日(土)	新垣 裕治(名桜大学 国際学群 観光産業教育研究学系 教授) 学外講師 5名
騎馬武者像ならびにマンジ紋をあしらった発掘史料の文化史的意義	8月18日(土)	上間 篤(名桜大学 名誉教授)
日本語と英語の比較対照と英文法再考―両者の共通点・相違点から捉える英語と英文法―	9月22日(土)	中村 浩一郎(名桜大学 国際学群言語学教育専攻 教授)
母乳で育てたいママのためのクラス ～基礎編～	10月14日(日)	小柳 弘恵(名桜大学 人間健康学部看護学科 助教) 学外講師 1名
母乳で育てたいママのためのクラス ～実践編～	11月18日(日)	小柳 弘恵(名桜大学 人間健康学部看護学科 助教) 学外講師 1名
スケジュール表で覚えるやさしい中国語	12月1日(土)、2日(日)	賀 南(名桜大学 リベラルアーツ機構 上級准教授)
医療通訳入門講座(基礎編)-日本で外国の人たちが安心して医療を受けられるようにサポートしよう!-	2月3日(日)	横川 裕美子(名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授) 学外講師 2名
水辺野外活動のためのOFA (Oxygen First Aid:酸素ファーストエイド法)	2月9日(土)	遠矢 英恵(名桜大学 人間健康学部スポーツ健康学科 上級准教授) 学外講師 2名

### 平成30年度 地域出前講座 開講実績

講座タイトル	開催日	講師	機関・団体名
認知症のこともっと知りたいと思いませんか	5月21日(月)	永田 美和子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授)	有限会社 介護センターかんな
看取り(End-of-life-care) -誰かを看とり、誰かに看とられるために-	6月19日(火)	大城 凌子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授)	沖縄県さわかや介護連絡会北部支部
認知症のこともっと知りたいと思いませんか	7月27日(金)	永田 美和子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授)	伊江村ふさと苑
自宅でエクササイズ!	8月7日(火)	東恩納 玲代 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護特別支援学校寄宿舎
自宅でエクササイズ!	9月21日(金)	東恩納 玲代 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護市役所生活支援課
健康の維持・増進、老化防止に役立つ食べ物	10月10日(水)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	本部町「つわぶきの会」
最新の知見を応用しながら健康寿命について考えよう	11月9日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	嘉陽公民館
ちゃーがんじゅう健康セミナー	12月8日(土)、9日(日)	比嘉 恵枝 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 上級准教授)	東村地域包括支援センター
ジュニアアスリートのための食事法 ～強くなるための食品選び～	12月14日(金)	奥本 正 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	介護老人保健施設 もとぶくぎの里
介護予防、機能回復運動を楽しく実践 FESTAを利用した易しい運動教室	1月11日(木)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	宮里100歳体操クラブ
最新の知見を応用しながら健康寿命について考えよう	1月11日(木)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	瀬嵩公民館
糖尿病ってなあに-急増する沖縄県の糖尿病-	2月15日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護市健康増進課
介護予防、機能回復運動を楽しく実践 FESTAを利用した易しい運動教室	2月18日(月)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	本部町役場地域包括支援センター

### 健康・長寿サポートセンター

#### MEIO COOL HEALTH PROJECT

健康・長寿サポートセンターは、スポーツ・健康科学、看護科学、医学に関する知見を応用し、科学的根拠に基づく健康支援活動を北部12市町村の人々に提供するための中核機能を果たすことを目的として、平成24年12月21日に設立。

主な活動として、「ヘルスサポート(健康支援活動)」、「食育劇活動」、「名護市宮里地区朝市健康相談活動」などがあり、大学で学んだ専門知識を学生が地域に積極的に健康支援という形で還元(展開)しています。平成26年には、厚生労働省スマートライフプロジェクト「第3回健康寿命を伸ばそうアワード」において健康局長優良賞を受賞。また平成29年2月には、第1回沖縄県健康づくり表彰「がんじゅうさびら賞:知事表彰」においてヘルスサポートが準グランプリを受賞。平成30年3月には、スポーツ庁ガイドライン(スポーツ推進アクションガイド～Enjoy Sport, Enjoy Life～)に国の先進的な活動事例として掲載。



### 平成30年度 ヘルスサポート 活動実績

市町村	活動内容	実施回数	活動時間	参加人数
沖縄県	平成30年度みんなでヘルスアクション創出事業共催:JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	4	32	1,454
沖縄県医師会	第2回うらぐんフェスタ:JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	1	8	532
うるま市	うるまん健康増進プロジェクト:JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	12	41	321
大宜味村	大宜味村健康長寿復活支援プログラム:健康講話、スポーツレク、JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談など	12	48	336
東村	JOYBEAT運動教室、健康教室、健康相談	56	125	720
名護市	北部生涯学習推進センター:JOYBEAT運動教室、FESTA運動教室、健康測定、健康相談	12	48	306
	古我知区自治会:JOYBEAT運動教室、健康測定など	11	33	96
	宮里病院:健康支援交流会	4	8	77
伊平屋村	JOYBEAT運動教室	4	10	79
伊江村	JOYBEATによる運動教室、健康測定	7	28	198
本部町	JOYBEATによる運動教室、健康測定(本部町福祉まつり)	1	8	210
その他	沖縄県内における健康支援活動等	10	44	354
<b>地域活動総計</b>		<b>134回</b>	<b>433時間</b>	<b>4683人</b>
JOYBEATルーム	JOYBEATによる運動教室開催(北部生涯学習推進センター2F研修室2)	242回	1,210	4,846
感謝状	大宜味村:「健康増進活動への貢献、村民の健康づくりの普及啓発への寄与」として			
ガイドライン	スポーツ庁ガイドライン:スポーツ推進アクションガイド～Enjoy Sport, Enjoy Life～ 掲載			

### 平成30年度 食育劇活動 活動実績

主に12市町村の小学校や地域住民に、食育劇や食育に関する講話を年間通して10回実施しました。また、4月に発刊した絵本を12市町村の教育関係機関等に配布しました。今年度は劇と併せて、食育絵本や紙芝居も活用することで、より一層の食育推進につながりました。

### 平成30年度 名護市宮里地区朝市健康相談活動 活動実績

宮里区が主催する『朝市』の場を活用して、住民の健康チェックおよび健康相談活動等を毎月1回開催し、4月～3月までに延べ人数で484名の住民の健康づくりを支援しました。また、宮里地区以外の5地域で同様に健康支援活動を行い、総勢1,146名の住民の参加がありました。

### 弘前大学COI (Center of Innovation) ・連携拠点

名桜大学は平成30年度より弘前大学COIの連携拠点大学としてやんばるの健康長寿復活を目的とした調査研究を始めました。この研究は、沖縄県北部地区住民の健康状態の現状とその問題点を医学的観点から包括的かつ詳細に調査し、①住民の健康維持・増進、日常生活活動(quality of life;QOL)の向上に資すること、②疾病の予防及び健康の保持・増進を包括的に研究することを目的としています。名桜大学と北部12市町村の協力自治体による共同プロジェクトでもあり、「社会貢献」、「学生教育」及び「研究推進」への寄与を企図しています。

### 看護実践教育研究センター

#### “実践・教育・研究”の地域拠点 (Center of Community)

名桜大学看護実践教育研究センターは、北部地域の保健・医療・福祉施設におけるケアの質の向上を目的とした看護系職員の継続教育・研究の支援を行っています。関係自治体や機関等と連携し、少子・高齢化社会に対応するケアの“実践・教育・研究”の地域拠点(Center of Community)を目指します。やんばるの地に根ざしたケアリング文化並びに社会の発展に貢献する看護系人材養成を目的とした事業を行っています。



### 平成30年度 看護実践教育研究センター 活動実績

	活動内容	開催日	参加人数
1	臨床で活かす看護・介護研究 ～ケアの質の向上をめざして～	6/2、6/30、7/7、7/28	100
2	北部地域看護・介護実践報告会および表彰式	3/9	54
3	北部地域看護管理者懇談会	7/6、7/22	32
4	キネステティックneoに基づく最先端介助技術 お互い楽になる介助法	9/15	30
5	ケアに携わる人が知っておきたい足と爪の機能と手入れ	9/15	18
6	小児看護講演会・事例検討会	6/30、11/22	34
7	北部広域保健師事例検討会	12/18、1/15	25
8	保健師スキルアップ研修会	10/20	49
9	やんばる母子支援情報交換会	5/19、8/30、10/12、12/14、2/10	155
10	高齢者・在宅ケア情報交換会	5/19、11/23	33
11	高齢者の摂食嚥下機能と口腔ケア	9/15	46
12	介護サービス第三者評価事業の視点	1/26	11
13	やんばるを訪れる外国人の保健医療サポート検討会	7/14、2/2	27
14	フリースタイル出産～その支援～	7/8	12
15	"安心、安全、満足"な出産のための最新エビデンス ～「助産ガイドライン」を携え、女性を中心としたケアを実践しよう～	6/24	69
16	保健看護職・介護職に活かすストレスマネジメント研修会	5/28	60
17	メンタルヘルス・精神看護事例検討会～2回シリーズ～	1/26	12
18	救急救命センターに勤務する看護師の感情労働について	4/21	13
19	看護職の心身の緊張をほぐすリラクゼーション ～呼吸法の基礎を学び自身または患者さんのリラックスに役立てよう～	10/20	8
20	やんばるで暮らす精神疾患を持つ人を地域で支えよう!	5/26	30
21	認知機能を高める看護援助を学ぼう!	12/22	10
22	「回復するとはどういうことなのか共に考えよう」 ―統合失調症のお母さんをもつ精神科医夏刈先生のお話から―	2/23	53
23	第1回 臨床看護スキルアップセミナー HIV/AIDSコーディネーターナース(CN)の患者支援体制の現状と課題	11/2	20
24	第2回 臨床看護スキルアップセミナー がん患者に必要な精神的ケアとコミュニケーションスキル	12/8	21
25	第3回 臨床看護スキルアップセミナー 臨床で活躍できるアロマハンドマッサージと音楽療法	1/25	32
26	動機づけ面接入門セミナー フォロアップ研修inやんばる	6/15	6
27	動機づけ面接入門セミナーinやんばる ～いつもの面接・カウンセリングでのスキルアップを目指そう!～	7/20	7
28	ICLSコース (Immediate Cardiac Life Support Course)	11/25	26
29	沖縄県手術室看護研究会inやんばる(共催)	1/26	80
30	周産期のメンタルヘルス	3/10	32
参加者合計			1,105

## 地域貢献 II REGIONAL CONTRIBUTIONS

### 名桜大学のさまざまな機能・施設を地域みなさんに提供します。



名桜大学は、沖縄県北部12市町村とその住民に支えられて開学した経緯があり、地域住民に開かれた大学を目指しています。そのため本学の機能・施設を地域住民に開くことは、本学の重要なサービスの一つです。

現在、名桜大学が地域に提供している機能・施設として、図書館の一般利用、授業科目の公開、各種体育施設の団体利用、さまざまなイベントに対応できる多目的ホールなどがあります。それらの利用に関してご案内します。

### 施設の利用案内

#### 学生会館 SAKURAUUM 利用案内

「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や、教員、職員、学生、市民が自律的に学習できる環境の実現を目的に名桜大学学生会館SAKURAUUMが建設されました。教職員、学生、市民の教育・学習・研究活動が「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトとしており、学内外の交流の場として有効に活用されています。

開館時間等	○月～金／8:00～20:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金／8:00～18:00
休館日	○土・日・祝祭日 ○6月23日（慰霊の日） ○夏季休暇（教職員） ○12月28日～1月3日までの日

#### 学生会館 SAKURAUUM の主な館内施設

6階	スカイホール（ホールA・ホールB）	会議等
5階	キャリア支援課・国際交流センター・S-CUBE 学生会館運営室・アクティブラーニングスペース・研修室B カンファレンスルームB・カンファレンスルームC	学生支援関連
4階	言語学習センター・数理学習センター・ライティングセンター ウェルナビ・アクティブラーニングスペース・研修室A カンファレンスルームA	学習・講義関連
3階	大講義室A・大講義室B・学生ラウンジ	学習・講義関連
2階	カフェ	学習・講義関連
1階	総合窓口・ウェルカムホール・ ホームカミングコーナー・プレゼンテーションコーナー	エントランス

問い合わせ先 学生会館運営室 TEL 0980-51-1200

#### 多目的ホール

多目的ホールは名護市と本学との合意により建設された施設で、名護市における教育、文化及び産業活動、そして名桜大学の教育研究活動の活性化を図るために行われる各種事業に供されています。

外部利用が可能な施設としては、講堂、研修室、マルチメディア講義室、マルチメディア編集室、屋外ステージがあります。これらの施設は、名桜大学生や名護市民はもちろん、県内の各種団体、公共機関のみならずが利用できます。使用料や申し込み等の詳細については、下記の担当窓口までお問い合わせください。

利用日	原則として次に挙げる日以外の日 ・土曜日、日曜日 ・祝祭日 ・12月28日～翌年1月4日
時間	原則として9:00から21:00までの間

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

#### その他の大学施設利用案内

学内の教育研究活動及び行事が優先となりますが、講義棟の教室やグラウンド、体育館、テニスコート等の体育施設も支障がない範囲で地域の皆様への借用が可能となります。利用を希望する場合、下記の担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

#### 名桜大学附属図書館

約16万冊の図書資料を学外のみなさんにも提供しています。館外貸出を希望されるみなさんは「図書館利用者証」の発行手続きをとってください。開館時間、その他の問い合わせなどは下記まで。

開館時間等	●月～金／ 8:45～22:00 ●土曜日／12:00～18:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金／8:45～17:00 土曜日／12:00～18:00																		
休館日	●日・祝祭日 ※開館時間の変更、臨時休館は随時館内に掲示お知らせします。																		
図書館のサービス	●図書等の貸出 学外者で図書の貸出を希望する場合は図書館利用者証の発行手続きが必要です（無料）。その際、現住所（県内在住）の証明できる身分証（運転免許証など）、顔写真1枚（縦3cm、横2.5cm）をご持参ください。 なお、県内在住の高校生を含む15歳以上19歳未満の方は保護者の同意書が必要です。利用者の有効期限は発行日から1年間です。 ●端末機で図書情報を検索 ●文献複写サービス ●インターネットの利用 ●視覚聴覚サービス																		
名桜大学懸賞作品コンクール	高校生以上の県内在住者及び県出身者を対象とした小説と詩歌の懸賞作品コンクールを平成17年より毎年実施しています。平成28年度より小説部門、詩部門、短歌部門の3部門に分け、それぞれの受賞作品の作者には賞状と賞金が授与されます。																		
館外貸出冊数及び期間	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>冊数</th> <th>期間</th> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>大学院生</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>学部学生</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>事務局職員</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>学外者</td> <td>2冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> </table>	区分	冊数	期間	教員	10冊以内	4週間以内	大学院生	10冊以内	4週間以内	学部学生	5冊以内	2週間以内	事務局職員	5冊以内	2週間以内	学外者	2冊以内	2週間以内
区分	冊数	期間																	
教員	10冊以内	4週間以内																	
大学院生	10冊以内	4週間以内																	
学部学生	5冊以内	2週間以内																	
事務局職員	5冊以内	2週間以内																	
学外者	2冊以内	2週間以内																	

問い合わせ先 名桜大学附属図書館 TEL 0980-51-1062

#### 名桜大学環太平洋地域文化研究所

名桜大学環太平洋地域文化研究所は「地域に根差した研究所」をモットーに日頃の研究成果を広く地域社会へ還元することを目的とし、以下のような事業に取り組んでいます。

1. 環太平洋地域文化研究所紀要の発行、研究発表会の開催
2. 研究助成（学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成）
3. 基盤形成事業、地域貢献研究萌芽的プロジェクト
4. 科学研究費および外部の研究助成・委託研究・共同研究の受入
5. コンプライアンス教育研修会の開催
6. 環太平洋地域文化研究所主催のシンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会等の開催については、ウェブサイト等を通じて随時お知らせします。詳しくは下記の担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先 名桜大学環太平洋地域文化研究所 TEL 0980-51-1107

### 名桜大学 授業科目の公開

名桜大学は、社会人の生涯教育、リフレッシュ教育の推進を図るため、平成13年度後学期から正規の授業科目を広く社会人に公開しています。前学期（4月～7月）、後学期（10月～1月）の受講生の募集受付は、ウェブサイトでご案内します。学期の始まる1ヶ月程度前までのお申し込みとなります。

受講対象者	一般社会人、シニアシティズン（60歳以上）
公開される授業科目	実習、演習、実技科目を除くすべての科目
受講の条件と資格等	名桜大学に入学して、学生とともに15週にわたって受講できる社会人であること。1週間における授業回数は1科目で1回または2回です。社会人であれば学歴を問いません。1人2科目まで受講できます。
受講料	1科目につき、7,000円（テキスト代は別）（シニアシティズンの方は、1科目は受講料を徴収しない。）その他、問い合わせは下記まで。

問い合わせ先 教務課 TEL 0980-51-1055

### 名桜大学出張講座 一中・高等学校対象一

名桜大学では、沖縄県内の高等学校、北部所在の中学校、奄美地域所在の高等学校を対象に「出張講座」を実施します。総合学習の時間、ロングホームルームの時間をご利用ください。

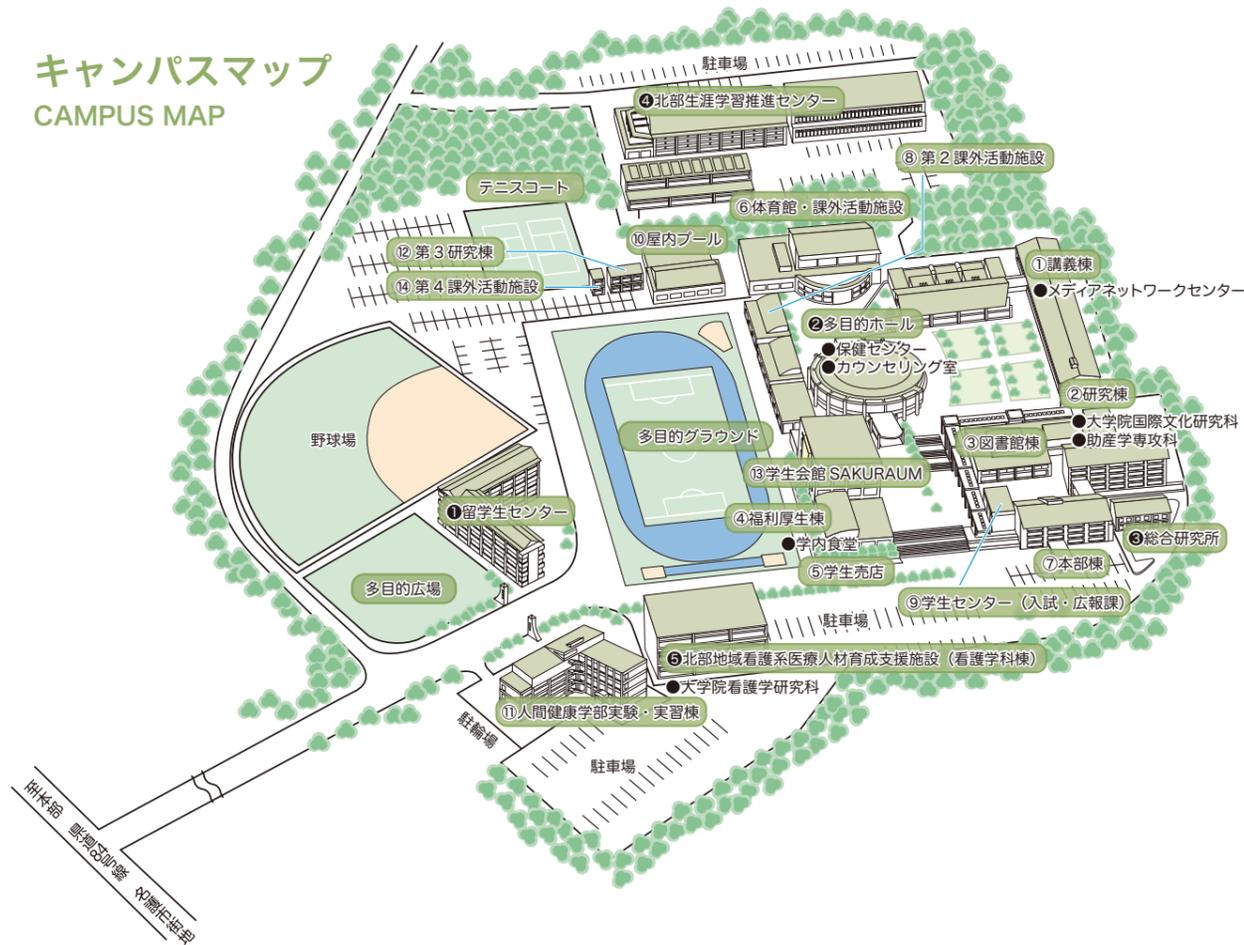
#### 【令和元年度 名桜大学出張講座 一中・高等学校向け一】

講座名称	講師名/専門分野	講座名称	講師名/専門分野
シルクロードとインターネット	シャヤステファロック(比較芸術学)	沖縄＝長寿？沖縄の健康が危ない！ 長野＝長寿！健康長寿県長野に学ぼう！ ファーストフードの驚くべき秘密「知ると怖～い食べ物」 健康で長生きするにはどうしたい？元気で「ワルな100歳の秘密」 同窓会で差をつけよう！「売れない老けない太らない私へ！」	高瀬 幸一(運動生理学)
沖縄の教育の歩み	嘉納 英明(教育学)	ダイエット情報のウソ・ホント？ スポーツ選手の体の秘密 スポーツ科学を目指す君たちへ～数学や理科は何故必要？～ ストレッチでも体力は高まる？ スポーツ選手の栄養摂取方法	奥本 正(スポーツ栄養学)
『おもろさうし』からみる地域の歴史・民俗文化	照屋 理(琉球文学)	スポーツトレーニングにおける科学的データの活用法 スポーツとコーチング スポーツを生涯楽しむためのコツ スポーツ大会で街づくり！	平野 貴也(スポーツコーチング)
短歌をよむ 琉球と薩摩 江戸時代の日本と外国	屋良 健一郎(日本史、日本文化)	スノーケリングを利用した水泳教室	遠矢英憲(野外教育)
インカ帝国の文化と信仰	上原 なつき(文化人類学)	統計に惑わされないために	山本 健司(心理学)
英語圏留学をしてみませんか	渡慶次 正則(英語教育)	科学の眼から見たアスリートの巧み バスケットボールクリニック	石橋 千征(スポーツ心理学)
日本語と英語の比較・対照	中村 浩一郎(言語学)	レクリエーション・スポーツ	東恩納 玲代(健康・スポーツ科学)
小説作品における沖縄本島北部の描かれ方	小嶋 洋輔(日本近・現代文学研究)	スポーツと人種～黒人アスリートの歴史～ スポーツマンシップについて考えよう オリンピックの歴史	大峰 光博(スポーツ哲学)
Learning English with American Comics	メーガン クックルマン(イギリス文学)	スポーツに役立つ映像の基礎知識 スポーツとコンピュータビジョン 生涯スポーツとしての卓球 スポーツにおけるデータ分析の最新事例	玉城 将(スポーツ工学、卓球)
ヒューマン・エラーの心理学(問題解決の心理学入門①) 古いハマる心理(問題解決の心理学入門②) リーダーシップの心理学(人間関係論入門①) あなたの気持ち、うまく伝わってる？(人間関係論入門②)	金城 亮(産業組織心理学)	発展途上国の生活と健康 医者のお仕事	岡部 麻里(医学)
偏見・差別を乗り越えよう！(社会心理学入門) 相手をその気にさせる心理学(対人コミュニケーション論入門)	木村 堅一(心理学)	自己肯定感を高めるライフスキル教育	神谷 義人(健康教育)
起業する(会社をつくる)	林 優子(経営戦略)	感情労働と看護－「白衣の天使」像の矛盾と葛藤－ 若い皆さんにとって看護を学ぶ意義と可能性について 誰にでも起こりうる精神的トラブル －身近な人から「死にたい」と訴えられたら－	鈴木 啓子(精神看護学)
おこづかい帳と簿記	仲尾次 洋子(会計学)	月経に伴う症状に対するセルフケアについて	小西 清美(母性看護学)
創業者の想い 企業は、ヒトなり！ 経営学と経済学 地域活性化と経営学	大城 美樹雄(経営学)	赤ちゃんってすごいを学ぼう 更年期～輝年期を学ぼう いのちを考える～背守りを作る体験から学ぼう	島田 友子(母性看護学)
大学へのプログラミング ロボットと話をする日	中里 収(情報)	認知症について知ろう＆できることを始めよう！ 高齢者に優しく接していますか。 看護のいるはにほへ	永田 美和子(高齢者在宅看護)
検索システムってどうなってるの？ －googleって、すごいねえー	田邊 勝義(情報)	看護の魅力(Part1・∞)「命の誕生から命を看取るその日まで」 キネステティックー持ち上げない体の動かし方を体験しようー 進路に悩んでいるあなたへ	大城 凌子(基礎看護学)
コンピュータがコンピュータになったワケ －シャノンの情報理論を理解しよう！－	佐久本 功達(情報科学)	「相手の立場になって考える」とは 誰にでも簡単にできるリラクゼーション技法 －足浴・足のマッサージを体験して学ぼうー 身体を温めリラックスしよう！ハーバルボール体験	名城 一枝・安里葉子(基礎看護学)
30分で相撲ゲーム作成 Linuxってすごいよ！ 無料ソフトで自分の家をデザインしてみない？ 短いアニメの作成を目標に、小学生でもわかるプログラミング入門を体験する	アラスーン、ピーターM. (コンピュータ・グラフィックス)	国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」 性と生について考えようー思春期の心とからだについてー 思春期がやってきた～身体と心の変化、デートDVについて～	浦添美和・横川裕美子(総合看護)
SEとPGって？何が違うの？ IT業界の業種と職種	天願 健(情報)	統計がわかると得をする 数学家から学ぶ数学との関わり方	鶴巻 陽子(助産学・母性看護学)
目でみる「がん細胞」のかたち	大城 真理子(医学、病理診断学)	「你好！」あいさつで覚える中国語	長嶺給里子、大浦早智(母性看護学)
「エコツーリズム」、沖縄の観光の魅力はこれに尽きる！ グレートバリアリーフでの環境保全と観光 沖縄のマンガースと移入種 ヤンバルクイナが絶滅の危機！現状と対策	新垣 裕治(生物学、ITツリム)		高安 美智子(数学教育)
やんばると奄美の赤土汚染 必殺！！「環境調査人」のお仕事 人間と環境－なぜ木を植えるのか？－ 米軍基地の環境問題	田代 豊(環境科学)		賀 南(中国語教育)
世界はなぜ不平等なんだろう？～貧困と健康格差社会について～ 「ボランティア」と「奉仕」って違うの？ ソーラークッキングでエコ体験！	小川 寿美子(公衆衛生学)		
科学的に捉える世界最速スプリンターホルト選手の秘密 なぜアフリカのランナーは速いの？ 私ってなぜ運動オンチなの？ 筋肉の種類で決まる運動種目の適正「トレーニングを科学する」 ハピネス幸せも健康も手にするシークレッド・メソッド 「遺伝」するもの、しないもの！性格・頭脳・運動神経・病気…	高瀬 幸一(運動生理学)		

問い合わせ先 入試・広報課 TEL 0980-51-1056

# 校舎等施設

## キャンパスマップ CAMPUS MAP



### 1 校地面積 ..... 令和元年10月1日現在

(1)自己所有地	116,843.00㎡
(2)無償貸借地	140,405.98㎡



### 2 校舎面積 ..... 令和元年10月1日現在

(1) 自己所有	① 講義棟	5,076.58㎡
	② 研究棟	2,985.82㎡ (大学院 466.98㎡含む)
	③ 図書館棟	2,502.27㎡ (研究室 568.31㎡含む)
	④ 福利厚生棟	985.15㎡
	⑤ 学生売店	92.74㎡
	⑥ 体育館・課外活動施設	1,770.35㎡
	⑦ 本部棟	2,081.88㎡
	⑧ 第2 課外活動施設	717.94㎡
	⑨ 学生センター (入試・広報課)	338.34㎡
	⑩ 屋内プール	929.42㎡
	⑪ 人間健康学部実験・実習棟	2,367.60㎡
	⑫ 第3 研究棟	683.15㎡
	⑬ 学生会館 SAKURAUM	6,191.12㎡
	⑭ 第4 課外活動施設	160.38㎡
(2) 名護市指定 管理施設	① 留学生センター	2,099.67㎡ (大学所有分 799.44㎡含む)
	② 多目的ホール	2,872.00㎡
	③ 総合研究所	854.00㎡
	④ 北部生涯学習推進センター	6,379.00㎡
	⑤ 北部地域看護系医療人材育成支援施設	3,762.00㎡

### 本部棟 ..... 平成8年3月完成



4階	理事長室、学長室、事務局長室、副学長室、第一会議室
3階	人間健康学部長室、総務企画部、財務部、第二会議室
2階	国際学群長室、教務部、非常勤講師控室
1階	守衛室、防災センター

### 研究棟 ..... 平成6年4月完成



2～5階	教員研究室
1階	大学院国際文化研究科、助産学専攻科

### 講義棟 ..... 平成6年4月完成



大講義室3室
中講義室6室
語学系講義室9室、多目的教室2室、事務室1室
ゼミ室3室
自然系実験室1室
情報系講義室4室 (内準備室1)

### 多目的ホール ..... 平成11年6月完成



名護市により建設されたドーム型の多目的施設。大ホールは451席のスペースを有し、授業や講演会、学会、シンポジウム、コンサートなど、学内外に広く開放・利用されている。

### 附属図書館 ..... 平成6年4月完成



教育研究に必要な図書資料・情報を収集・整理・保存し、学生・教員そして市民に利用を提供している。蔵書数は次のとおり。

平成31年4月1日現在		
資料種別	資料種別	蔵書数
図書(冊)	和	126,893
	洋	39,342
	合計	166,235
雑誌(種)	和	949
	洋	279
	合計	1,228
A V(点)	和	3,000
	洋	383
	合計	3,383

### 北部地域看護系医療人材育成支援施設 (看護学科棟) ..... 平成21年3月完成



看護学科棟は、北部地域看護系医療人材育成支援機能を兼ねて、高度な教材備品と、充実した設備が完備されている。開放的な空間が広がり、各階のピロティには、ポップカラーのテーブルと椅子が配置され、学生の憩いの場となっている。

※各日付は、建物完成年月

人間健康学部実験・実習棟 …… 平成18年3月完成



トレーニング機器や筋機能測定装置、トレッドミル・エルゴメーターなどを備えた運動学・運動生理学実験室、看護・介護・養護実習室、プレイルーム・心理学実験室などの充実した設備が完備されている。

保健センター ……



保健センターでは、保健室、学生相談室で学生、教職員がセルフメディケーションを行えるようサポートしている。さらに、学業・人間関係・健康の保持増進(身体面・精神面)・疾病の予防・活動(部活動・サークル活動・アルバイト等)を通し、よりよい学生生活を営むことができるよう、自己管理を目標とし、学生を中心にびあ活動を行っている。

【保健室利用時間】 8:30~19:00  
【学生相談室利用時間】 保健室にてご確認ください。 ※要予約

体育館 …… 平成7年1月完成



講義での使用はもちろん、バスケットボール、ハンドボール、バレーボールなどのサークル活動でも使用されている。

野球場 …… 平成16年3月完成



硬式野球部のサークル活動で利用されている。充実した課外活動が行えるよう、夜間照明設備も整備されている。

留学生センター …… 平成6年4月完成(1階)  
平成11年1月増築分完成(2・3・4階)



留学生センターはキャンパス内の宿舎で、全室個室でキッチン、バス、トイレ、冷蔵庫、食器棚、ベッド、クーラーを完備した95室が用意され、主に外国人留学生を対象に学習・生活の支援を行っている。

学内食堂・売店 …… 平成6年4月完成



学内食堂 名護湾を見下ろせるコーナーやボックスシート、ランチタイムを快適に過ごせるような空間となっている。メニューは栄養バランスが配慮され、価格は280円から480円。座席数は320席、営業時間は11時から15時まで。施設は8時から20時まで開放。

売店 8時から19時まで営業。教科書をはじめ、書籍、雑誌、文具、日用雑貨、弁当、菓子パン、スナック菓子や飲料水等を販売。

屋内プール …… 平成17年3月完成



屋内プールは、25mのプールと水深5mのダイビング訓練用潜水プールを備えており、授業やサークル活動は勿論のこと消防の訓練でも使用されている。

北部生涯学習推進センター …… 平成16年10月完成



沖縄県北部地域における生涯学習や地域振興に資する人材育成などを目的とした、産官学の連携による名護市公共施設としてキャンパス内に建設され、管理・運営が名桜大学に委託されている。施設内には、研修室、パソコンルームなどが整備されている。

学生会館 SAKURAUM …… 平成26年12月完成  
～「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトにした交流の場～

名桜大学開学20周年・公立大学法人化5周年記念事業の一環で「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や教員、職員、学生が自律的に学習できる環境の実現を目的に、名桜大学学生会館SAKURAUMが建設された。学内外の交流の場としても有効に活用されている。



オープンスペース	学習環境の充実	学習支援の充実	プレゼンテーションスペース	集う空間	食・憩・話	相談窓口の充実	学習情報の一元化
敷地面積	218,228.00㎡						
階数	地上6階						
高さ	最高の高さ29.65m 軒高28.25m						
面積	6,191.12㎡						

SAKURAUMとは

名桜大学の桜=サクラのイメージとドイツ語で空間を意味するラウム (Raum) を合わせて、サクラ+ラウムの造語。サクラウム=桜生むということで、この施設で新たな教育の原動力を生むことにもつながります。

**1F ウェルカムホール**  
開放感のあるエントランスの一角には仕切りのないプレゼンテーションコーナーが設置されている。

**2F カフェ**  
コミュニケーションスペースとして利用。琉球畳を敷いたスペースもある

**3F 大講義室(2室)**  
248人収容の大講義室

**4F 学生支援**  
言語学習センター  
数学学習センター  
ライティングセンター  
アクティブラーニングスペース  
ウェルナビ

**5F 学生支援**  
キャリア支援課  
国際交流センター  
アクティブラーニングスペース  
S-CUBE

**6F スカイホール**  
名護湾・名護市街が一望できる最上階のスカイホール

多目的グラウンド… 平成8年3月完成(平成28年11月改修)  
テニスコート …… 平成12年4月完成(平成28年11月移設)  
多目的広場 …… 平成16年3月完成(平成29年6月改修)

全天候型ウレタン舗装の400mトラック(6レーン、直線部6レーン)、フィールド競技として走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投を設置し、日本陸連4種公認取得の陸上競技場及びインフィールドに人工芝のサッカー場とラグビー場を設けた。講義・課外活動をはじめ各種大会等も行われている。

また、周辺整備として全面人工芝2面のテニスコートを移設整備し、多目的広場をソフトボールおよび軟式野球場の練習場として改修した。平成29年8月から夜間の使用も可能。

面積：多目的グラウンド	17,465.00㎡
テニスコート	1,277.80㎡
多目的広場	3,261.00㎡



国際学群・人間健康学部

在籍者数

令和元年5月1日現在

学部	学科	入学定員 (編入)	1年次			2年次			3年次			4年次			合計			収容 定員	定員 超過率
			男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計		
国際学群	国際学類	280(15)	106	195	301	129	181	310	132	176	308	171	199	370	538	751	1,289	1,150	1.12
人間健康 学部	スポーツ健康	95(5)	60	43	103	68	40	108	54	46	100	62	41	103	244	170	414	390	1.06
	看護	80(5)	11	80	91	19	63	82	11	78	89	13	77	90	54	298	352	330	1.07
	小計	175(10)	71	123	194	87	103	190	65	124	189	75	118	193	298	468	766	720	1.06
合計		455(25)	177	318	495	216	284	500	197	300	497	246	317	563	836	1,219	2,055	1,870	1.10

国際学群国際学類専攻別在籍者数

令和元年5月1日現在

学群	学類	専攻	3年次				4年次				合計			
			男	女	男女計	学年全体比	男	女	男女計	学年全体比	男	女	男女計	専攻全体比
国際学群	国際学類	専攻なし	3	4	7	2.3%	0	0	0	0.0%	3	4	7	1.0%
		国際文化	25	35	60	19.5%	31	44	75	20.3%	56	79	135	19.9%
		語学教育	25	41	66	21.4%	40	45	85	23.0%	65	86	151	22.3%
		経営	32	25	57	18.5%	37	37	74	20.0%	69	62	131	19.3%
		情報システムズ	8	1	9	2.9%	12	9	21	5.6%	20	10	30	4.4%
		診療情報管理	2	8	10	3.3%	2	11	13	3.5%	4	19	23	3.4%
		観光産業	37	62	99	32.1%	49	53	102	27.6%	86	115	201	29.7%
合計		132	176	308	100%	171	199	370	100%	303	375	678	100%	

※国際学群学生は、3年次から専攻に所属する教育システムとなっている。

留学生・外国人学生在学数(再掲)

令和元年5月1日現在

国籍	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
中国	9	4	3	4	20
韓国	1	2	0	1	4
ベトナム	1	0	0	0	1
ミャンマー	1	0	0	0	1
台湾	0	0	0	2	2
マレーシア	0	1	2	0	3
ブラジル	0	1	0	0	1
合計	12	8	5	7	32

科目等履修生・特別聴講学生・研究生

令和元年5月1日現在

科目等履修生	特別聴講学生	研究生	合計
11	28	0	39

都道府県別在籍者数

令和元年5月1日現在

都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
北海道	14	13	9	7	43	滋賀県	1	4	1	0	6
青森県	1	3	0	5	9	京都府	2	2	5	5	14
岩手県	4	3	1	14	22	大阪府	3	5	7	8	23
宮城県	2	4	4	0	10	兵庫県	9	10	8	9	36
秋田県	1	4	1	1	7	奈良県	2	1	3	0	6
山形県	1	1	1	1	4	和歌山県	3	0	1	2	6
福島県	2	3	2	2	9	鳥取県	3	3	2	3	11
茨城県	11	10	13	6	40	島根県	2	1	1	2	6
栃木県	3	4	3	2	12	岡山県	5	2	3	6	16
群馬県	2	1	4	2	9	広島県	14	12	10	11	47
埼玉県	3	4	1	3	11	山口県	2	1	2	3	8
千葉県	0	2	0	3	5	徳島県	1	4	5	2	12
東京都	6	5	6	2	19	香川県	0	2	0	0	2
神奈川県	2	3	0	1	6	愛媛県	9	3	3	5	20
新潟県	3	1	2	3	9	高知県	0	0	0	1	1
山梨県	1	2	1	2	6	福岡県	23	26	22	26	97
長野県	2	1	2	4	9	佐賀県	2	6	6	7	21
富山県	2	0	3	1	6	長崎県	10	9	23	19	61
石川県	2	0	1	4	7	熊本県	15	12	15	15	57
福井県	3	2	0	5	10	大分県	19	16	13	17	65
岐阜県	3	2	1	2	8	宮崎県	12	19	15	19	65
静岡県	12	8	5	8	33	鹿児島県	28	21	34	39	122
愛知県	8	11	6	5	30	沖縄県	228	242	245	271	986
三重県	2	4	2	3	11	海外	12	8	5	7	32
合計						495	500	497	563	2,055	

※統計上、出身校の所在都道府県を学生の出身都道府県とした。  
ただし、編入生及び大検学生については、帰省先を出身都道府県とした。

学生数推移(直近10年)

※年度ごとの学生総数。各年度5月1日現在

学部 学科	年度	2010 (平成22)			2011 (平成23)			2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
学 国 部 際	国際文化・経営情報・ 観光産業学科	85	24	109	31	5	36	11	1	12	2	0	2	1	0	1
学 国 群 際	国際学類	607	326	933	592	428	1,020	583	531	1,114	581	640	1,221	587	699	1,286
人 間 健 康 学 部	スポーツ健康学科	288	152	440	299	154	453	277	167	444	239	187	426	234	185	419
	看護学科	62	292	354	60	298	358	61	290	351	65	301	366	69	288	357
	小計	350	444	794	359	452	811	338	457	795	304	488	792	303	473	776
合計		1,042	794	1,836	982	885	1,867	932	989	1,921	887	1,128	2,015	891	1,172	2,063

学部 学科	年度	2015 (平成27)			2016 (平成28)			2017 (平成29)			2018 (平成30)			2019 (平成31)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
学 国 部 際	国際文化・経営情報・ 観光産業学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学 国 群 際	国際学類	588	697	1,285	574	708	1,282	567	717	1,284	563	721	1,284	538	751	1,289
人 間 健 康 学 部	スポーツ健康学科	225	191	416	230	185	415	233	185	418	232	177	409	244	170	414
	看護学科	79	277	356	74	285	359	68	282	350	67	283	350	54	298	352
	小計	304	468	772	304	470	774	301	467	768	299	460	759	298	468	766
合計		892	1,165	2,057	878	1,178	2,056	868	1,184	2,052	862	1,181	2,043	836	1,219	2,055

※1 2010年(平成22年)公立大学法人へ移行  
※2 国際学部は2007年(平成19年)学生募集停止。2015年(平成27年)3月31日付廃止。

大学院・専攻科

在籍者数

研究科	専攻	教育研究領域	入学定員	令和元年5月1日現在								
				1年次			2年次			合計		
				男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際文化	国際地域文化専攻(博士後期課程)	—	2	3	2	5	—	—	—	3	2	5
	国際文化システム(修士課程)	言語文化	6	0	3	3	2	0	2	2	3	5
		社会制度政策	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		経営情報	6	0	0	0	0	1	1	0	1	1
		観光環境	6	0	0	0	0	1	1	0	1	1
		健康科学	6	1	0	1	1	2	3	2	2	4
小計	6	1	3	4	3	4	7	4	7	11		
看護学	H28年度から	基礎看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		臨床看護学	6	2	6	8	2	5	7	4	11	15
	H27年度まで	基礎看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		看護学教育	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		地域在宅看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		高齢者リハビリテーション看護学	6	0	0	0	0	1	1	0	1	1
		母性看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小児看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		精神看護学	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	6	2	6	8	2	6	8	4	12	16
合計		6	11	17	5	10	15	11	21	32		

留学生・外国人学生

国籍	1年次	2年次	合計
中国	1	3	4
台湾	2	1	3
合計	3	4	7

科目等履修生・特別聴講学生・研究生(大学院)

科目等履修生	0
特別聴講学生	0
研究生	3
合計	3

大学院学生数推移(直近10年)

研究科	専攻	※(年度ごとの学生総数。各年度5月1日現在)																													
		2010(平成22)			2011(平成23)			2012(平成24)			2013(平成25)			2014(平成26)			2015(平成27)			2016(平成28)			2017(平成29)			2018(平成30)			2019(平成31)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際文化	国際地域文化専攻(博士後期課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	言語文化	1	2	3	0	3	3	1	3	4	1	2	3	0	2	2	2	3	5	3	5	8	2	5	7	3	4	7	2	3	5
	社会制度政策	2	4	6	3	2	5	2	0	2	2	0	2	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0
	経営情報	3	0	3	3	0	3	1	0	1	2	1	3	4	2	6	3	1	4	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	
	観光環境	3	0	3	2	0	2	1	0	1	2	2	4	2	2	4	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1		
	人間健康科学	0	1	1	1	1	2	2	0	2	1	0	1	0	2	2	1	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康科学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小計	9	7	16	9	6	15	7	3	10	8	5	13	8	8	16	7	6	13	7	7	14	5	9	14	6	9	15	4	7	11	
看護学	基礎看護学分野	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	臨床看護学分野	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	基礎看護学	—	—	—	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	看護学教育	—	—	—	0	3	3	0	5	5	0	4	4	0	4	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	地域在宅看護学	—	—	—	0	1	1	0	2	2	1	2	3	1	3	4	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	高齢者リハビリテーション看護学	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	5	6	0	3	3	0	2	2	0	1	1	0	1	
	母性看護学	—	—	—	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	
	小児看護学	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	精神看護学	—	—	—	0	1	1	1	2	3	1	2	3	2	1	3	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	—	—	—	1	5	6	2	10	12	2	10	12	4	12	16	3	12	15	1	13	14	3	13	16	5	15	20	4	12	16
合計	9	7	16	10	11	21	9	13	22	10	15	25	12	20	32	10	18	28	8	20	28	8	22	30	11	24	35	11	21	32	

令和元年度助産学専攻科 在籍者数

専攻科	入学定員	在籍者数
助産学専攻科	6	6

※1 (2010年(平成22年)公立大学法人化へ移行)  
 ※2 看護学専攻科は、平成23年4月開設  
 ※3 国際地域文化専攻(博士後期課程)は、平成31年4月開設

志願・入学状況

平成31年度大学院入学状況

研究科	募集人員	志願者数総計			入学者数総計		
		男	女	計	男	女	計
国際文化研究科(博士後期課程)	2	3	2	5	3	2	5
国際文化研究科(修士課程)	6	2	4	6	1	3	4
看護学研究科(修士課程)	6	1	4	5	0	4	4
合計	14	6	10	16	4	9	13

平成31年度学群・学部入学状況

学群・学部	学科	募集人員	志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
国際学群	国際学類	280	501	632	1,133	105	195	300
人間健康学群	スポーツ健康学科	95	289	150	439	59	43	102
	看護学科	80	45	267	312	10	77	87
合計		455	835	1,049	1,884	174	315	489

平成31年度学群・学部編入学状況

学群・学部	学科	募集人員	志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
国際学群	国際学類	15	17	16	33	4	5	9
人間健康学群	スポーツ健康学科	5	5	2	7	2	1	3
	看護学科	5	5	14	19	1	4	5
合計		25	27	32	59	7	10	17

平成31年度助産学専攻科入学状況

専攻科	募集人員	志願者数(女)	入学者数(女)
助産学専攻科	6	15	6

沖縄県北部地域所在高等学校入学者

学部	入学年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		(平成20)	(平成21)	(平成22)	(平成23)	(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)	(平成31)
国際学群(2007から)		40	33	62	22	30	30	38	34	22	23	34	21
県内高校入学者比率		20%	22%	28%	15%	22%	23%	28%	25%	17%	16%	24%	16%
人間健康学部		40	38	34	26	26	21	27	24	24	26	29	18
県内高校入学者比率		23%	21%	20%	27%	30%	25%	27%	24%	24%	27%	32%	19%

※沖縄県内入学者数

人間健康学部	学部	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		(平成20)	(平成21)	(平成22)	(平成23)	(平成24)	(平成25)	(平成26)	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)	(平成31)
国際学群		197	150	224	149	135	131	137	137	130	143	144	131
人間健康学部	スポーツ健康学科	88	100	84	42	40	29	38	37	35	34	30	30
	看護学科	85	77	82	56	46	54	61	64	63	63	61	64
	小計	173	177	166	98	86	83	99	101	98	97	91	94

平成31年度沖縄県北部地域所在高等学校入学者数

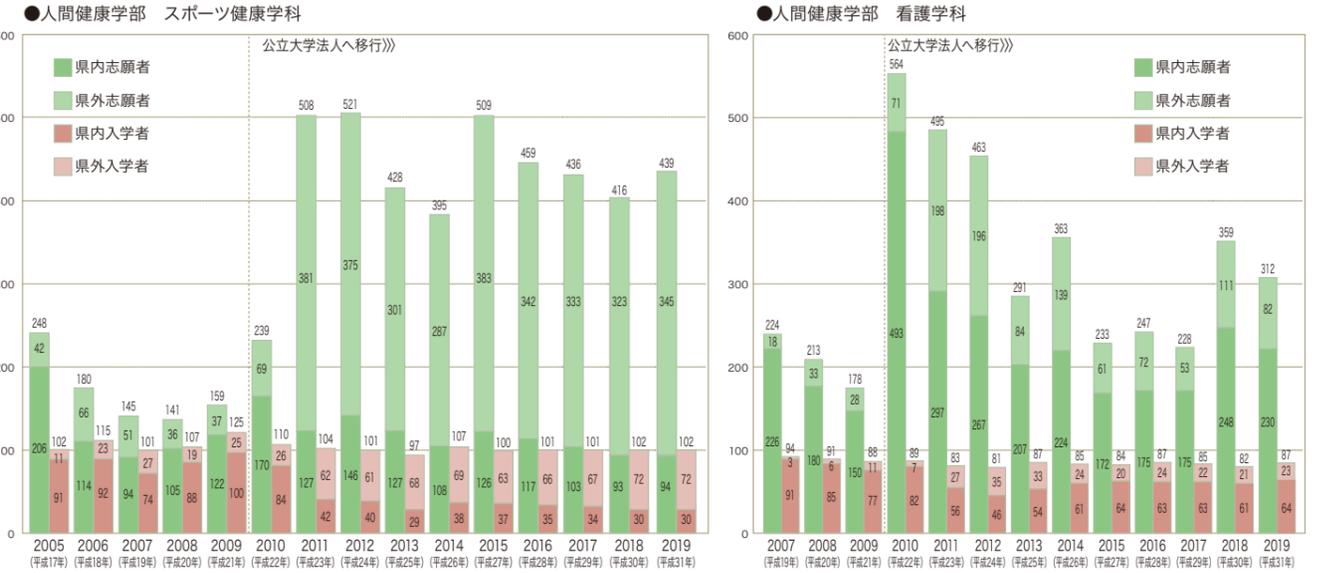
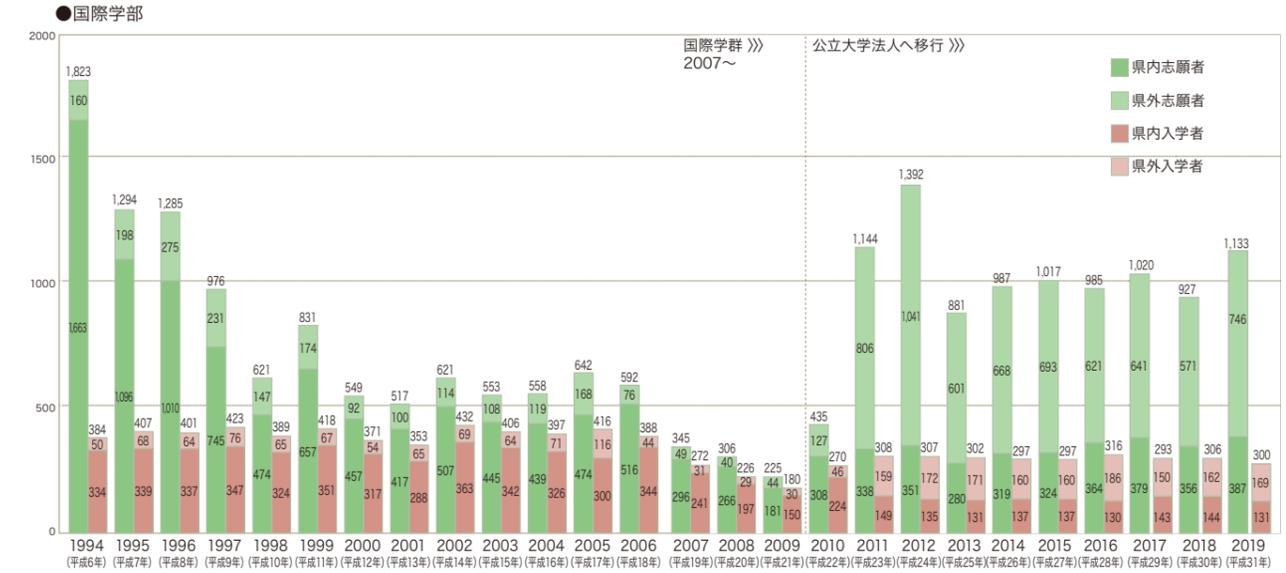
高校名	入学者数									全学計		
	国際学群			スポーツ健康学科			看護学科					
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
名護高等学校	3	9	12	1	1	2	2	10	12	6	20	26
名護商工高等学校	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
北部農林高等学校	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
辺土名高等学校	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
北山高等学校	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0	3	3
本部高等学校	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
宜野座高等学校	0	3	3	1	0	1	0	2	2	1	5	6
合計	4	17	21	2	1	3	2	13	15	8	31	39
入学者数全体比	7%			3%			17%			8%		
沖縄県内高校入学者数比	16%			10%			23%			17%		

大学院 志願者・入学者数推移

志願・入学状況

学群・学部 志願者・入学者数推移(県内・県外別)

※各年度、4月1日現在



卒業・修了状況

学部卒業生数

卒業年度	1997~2006 (平成9~18)			2007 (平成19)			2008 (平成20)			2009 (平成21)			2010 (平成22)			2011 (平成23)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際学部 年度別 (内留学生)	-	-	-	229	118	347	205	85	290	214	87	301	32	13	45	16	3	19
学部累計 (内留学生)	2,032	1,264	3,296	2,261	1,382	3,643	2,466	1,467	3,933	2,680	1,554	4,234	2,712	1,567	4,279	2,728	1,570	4,298
国際学群 年度別 (内留学生)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	113	69	182	108	54	162
学群累計 (内留学生)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	113	69	182	221	123	344
人間健康学部 スポーツ健康学科	-	-	-	-	-	-	65	43	108	69	45	114	39	41	80	60	30	90
看護学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	66	79	15	72	87
学部年度計	-	-	-	-	-	-	65	43	108	69	45	114	52	107	159	75	102	177
累計	-	-	-	-	-	-	65	43	108	134	88	222	186	195	381	261	297	558
全学 年度合計 (内留学生)	-	-	-	229	118	347	270	128	398	283	132	415	197	189	386	199	159	358
総数累計 (内留学生)	2,032	1,264	3,296	2,261	1,382	3,643	2,531	1,510	4,041	2,814	1,642	4,456	3,011	1,831	4,842	3,210	1,990	5,200

2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27年)			2016 (平成28)			2017 (平成29)			2018 (平成30)		
男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
7	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(0)	(0)	(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2,735	1,571	4,306	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	(141)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
111	52	163	113	102	215	122	159	281	135	158	293	116	146	262	121	165	286	121	154	275
(1)	(8)	(9)	(11)	(13)	(24)	(4)	(3)	(7)	(5)	(6)	(11)	(3)	(2)	(5)	(4)	(3)	(7)	(4)	(1)	(5)
332	175	507	445	277	722	567	436	1,003	702	594	1,296	818	740	1,558	939	905	1,844	1,060	1,059	2,119
(4)	(19)	(23)	(15)	(32)	(47)	(19)	(35)	(54)	(24)	(41)	(65)	(27)	(43)	(70)	(31)	(46)	(77)	(35)	(47)	(82)
72	34	106	55	40	95	57	43	100	51	46	97	43	44	87	60	47	107	47	50	97
10	67	77	17	76	93	16	74	90	18	69	87	16	80	96	17	66	83	21	64	85
82	101	183	72	116	188	73	117	190	69	115	184	59	124	183	77	113	190	68	114	182
343	398	741	415	514	929	488	631	1,119	557	746	1,303	616	870	1,486	693	983	1,676	761	1,097	1,858
200	154	354	185	218	403	195	276	471	204	273	477	175	270	445	198	278	476	189	268	457
(1)	(8)	(9)	(11)	(13)	(24)	(4)	(3)	(7)	(5)	(6)	(11)	(3)	(2)	(5)	(4)	(3)	(7)	(4)	(1)	(5)
3,410	2,144	5,554	3,595	2,362	5,957	3,790	2,638	6,428	3,994	2,911	6,905	4,169	3,181	7,350	4,367	3,459	7,826	4,556	3,727	8,283
-	-	(164)	-	-	(188)	-	-	(195)	-	-	(206)	-	-	(211)	-	-	(218)	-	-	(223)

※国際学部平成19年度学生募集停止、平成27年3月31日付廃止。人間健康学部スポーツ健康学科平成17年開設、同看護学科平成19年開設。

修士課程修了生数

修了年度	2002~2006 (平成14~18)			2007 (平成19)			2008 (平成20)			2009 (平成21)			2010 (平成22)			2011 (平成23)			2012 (平成24)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際文化研究科 年度別 (内留学生)	-	-	-	4	0	4	4	2	6	4	0	4	2	4	6	5	3	8	2	2	4
累計 (内留学生)	47	32	79	51	32	83	55	35	90	59	35	94	61	39	100	66	42	108	68	44	112
看護学研究科 年度別 累計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4
全大学院 年度合計 (内留学生)	-	-	-	4	0	4	4	3	7	4	0	4	2	4	6	5	3	8	3	5	8
全大学院 累計 (内留学生)	47	32	79	51	32	83	55	35	90	59	35	94	61	39	100	66	42	108	69	47	116

助産学専攻科修了生数

修了年度	2017 平成29年度	2018 平成30年度
	女	女
助産学専攻	6	6
累計	6	12

※看護学研究科平成23年開設





# 学費・奨学金等 STUDY FEES & SCHOLARSHIPS

## 公立大学法人名城大学 学費等納入金

### 入学金・学費(学群・学部・専攻科)

		平成31年度入学生適用 (単位:円)								
学群・学部・大学院・専攻科		国際学群		人間健康学部		大学院		専攻科		
学類・学科・研究科・専攻科		国際学類	スポーツ健康学科	看護学科	修士課程		博士後期課程	助産学専攻科		
入学検定料		17,000				30,000		18,000		
学費	入学金	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000	(地域内) 125,000		
		(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000	(地域外) 250,000		
学費	授業料	前期	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900		
		後期	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900		
諸経費	後援会費	大学4年間分						大学院2年間分	大学院3年間分	専攻科1年分
		40,000		40,000		40,000		20,000	30,000	10,000
		学生教育研究災害傷害保険	3,300	3,300	3,300	1,750	2,600	1,000	1,000	
		学研災付帯賠償責任保険	1,360	1,360	2,000	—	—	500	500	
総合保障制度		—	—	18,000		—	—	4,500(総合保障制度「Will2」)		
合計	入学手続時納入金	(地域内) 437,560	(地域内) 437,560	(地域内) 456,200	(地域内) 414,650	(地域内) 425,500	(地域内) 408,900	(地域内) 408,900		
		(地域外) 562,560	(地域外) 562,560	(地域外) 581,200	(地域外) 539,650	(地域外) 550,500	(地域外) 533,900	(地域外) 533,900		
	入学検定料除く。授業料は前期分のみ計上。									
合計	初年度納入総額	(地域内) 705,460	(地域内) 705,460	(地域内) 724,100	(地域内) 682,550	(地域内) 693,400	(地域内) 676,800	(地域内) 676,800		
		(地域外) 830,460	(地域外) 830,460	(地域外) 849,100	(地域外) 807,550	(地域外) 818,400	(地域外) 801,800	(地域外) 801,800		
入学検定料除く。授業料は前期・後期計上。										
2年次以降の授業料納付金	2年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	535,800	535,800	535,800	—		
	3年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	—	535,800	—	—		
	4年次(前期・後期)	535,800	535,800	535,800	—	—	—	—		
4年間(大学院修士2年間/博士後期3年間/専攻科1年間)授業料等納付金(総額)(入学検定料除く)		(地域内) 2,312,860	(地域内) 2,312,860	(地域内) 2,331,500	(地域内) 1,218,350	(地域内) 1,765,000	(地域内) 676,800	(地域内) 676,800		
		(地域外) 2,437,860	(地域外) 2,437,860	(地域外) 2,456,500	(地域外) 1,343,350	(地域外) 1,890,000	(地域外) 801,800	(地域外) 801,800		

地域内…沖縄県北部12市町村関係者等、地域外…地域内以外の者(公立大学法人名城大学学費等及び諸納入金に関する規程)  
外国人留学生は本学の規定により入学金が地域外の半額となります。

### 研究生(1年間)

		平成31年度入学生適用 (単位:円)						
学群・学部・大学院		国際学群		人間健康学部		大学院		
学類・学科・研究科		国際学類	スポーツ健康学科	看護学科	国際文化研究科	看護学研究科	助産学専攻科	
入学検定料		9,800						
入学金		30,000						
学費	授業料	前期	100,000	119,000	137,000	100,000	100,000	
		後期	100,000	119,000	137,000	100,000	100,000	
諸経費	学生教育研究災害傷害保険	入学手続時	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
		入学手続時納入金	131,000	150,000	168,000	131,000	131,000	
合計	年間納入総額	入学検定料除く。授業料は前期分のみ計上。						
		231,000	269,000	305,000	231,000	231,000	231,000	
入学検定料除く。授業料は前期・後期計上。								

### 学生支援:

名城大学では、学生の学業、体育活動及び学生諸活動等の奨励並びに経済的支援を目的に、各種奨学金や授業料免除制度を整備している。

### 名城大学奨学金

平成31年度入学生適用 (単位:円)			
奨学金	種別	支給額	支給対象年次
学業奨励奨学金	第一種	200,000	1年~4年次
	第二種	100,000	
スポーツ奨励金	第一種	200,000	1年~4年次
	第二種	100,000	

\*支給対象年次とは、願書の提出・選考を経て奨学金(1年間)を支給される年次をいう。  
\*令和2年度からは対象年次が2年次からとなります。

### やんばる奨学金

平成31年度入学生適用 (単位:円)			
奨学金	種別	支給額	支給対象年次
やんばる奨学金	第一種	200,000	1年次
	第二種	100,000	

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)					
名城大学奨学金(1年次)	奨学金	種別	1人当たり支給額	平成30年度	
				採用人数	支給合計
学業奨励奨学金	第一種	200,000	200,000	4	800,000
	第二種	100,000	100,000	4	400,000
スポーツ奨励金	第一種	200,000	200,000	0	0
	第二種	100,000	100,000	3	300,000
やんばる奨励金	第一種	200,000	200,000	28	5,600,000
	第二種	100,000	100,000	6	600,000
合計			46	7,700,000	

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)					
名城大学奨学金(2年次~4年次)	奨学金	種別	1人当たり支給額	平成30年度	
				採用人数	支給合計
学業奨励奨学金	第一種	200,000	200,000	10	2,000,000
	第二種	100,000	100,000	30	3,000,000
スポーツ奨励金	第一種	200,000	200,000	2	400,000
	第二種	100,000	100,000	13	1,300,000
合計			55	6,700,000	

### 名城大学学長奨学金(平成30年5月制定)

本学の教育目標である国際社会で活躍できる人材の育成に資する者で、在学中に所定の検定試験等に合格したものに、奨学金を給付することにより、修学を奨励することを目的に奨学金を支給している。

#### 言語に関する検定等

言語	検定等名称	認定された等級	奨学金額	
英語	実用英語技能検定	1級合格	100,000	
		準1級合格	50,000	
	TOEFL iBT	100点以上	100,000	
		80点以上	50,000	
	TOEIC	908点以上	100,000	
		751点以上	50,000	
IELTS	7.0以上	100,000		
		6.0以上	50,000	
ドイツ語	ドイツ語技能検定	1級合格	100,000	
		準1級合格	50,000	
フランス語	実用フランス語検定	1級合格	100,000	
		準1級合格	50,000	
スペイン語	スペイン語技能検定	1級合格	100,000	
		2級合格	50,000	
		C2(準上級)合格	100,000	
		C1(上級)合格	50,000	
ポルトガル語	国際ポルトガル語検定	大学級合格	100,000	
		上級合格	50,000	
		Celpe-Bras(ポルトガル語)	100,000	
		上級合格	50,000	
中国語	中国語検定	1級合格	100,000	
		準1級合格	50,000	
			6級(240点以上)	100,000
		HSK(中国語)	6級(180点以上)または5級(240点以上)	50,000
韓国語	ハングル能力検定	1級合格	100,000	
		2級合格	50,000	
			6級合格	100,000
		5級合格	50,000	
タイ語	実用タイ語検定	1級合格	100,000	
		2級合格	50,000	

#### その他の検定等

検定等名称	認定された等級	奨学金額
実用数学技能試験	1級合格	100,000
	準1級合格	50,000
統計検定	1級合格	100,000
	準1級合格	50,000

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)				
検定等名称	級・スコア	1人当たり支給額(年額)	平成30年度	
			採用者数	支給合計
実用英語技能検定	準1級合格者	50,000	8	400,000
TOEIC	908点以上	100,000	1	100,000
	751点以上	50,000	6	300,000
HSK(中国語)	6級(180点以上)または5級(240点以上)	50,000	1	50,000
韓国語能力試験	6級合格	100,000	1	100,000
合計			17	950,000

### 名城大学大学院奨学金

平成30年度入学生適用 (単位:円)	
奨学金名	1人当たり支給額
国際文化研究科	240,000
看護学研究科	総額480,000(採用人数によって決定する)
留学生奨学金	240,000

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)				
奨学金名	1人当たり支給額	平成29年度		
		採用者数	支給合計	
国際文化研究科	240,000	1	240,000	
看護学研究科	総額480,000(採用人数によって決定する)	2	480,000	
留学生奨学金	240,000	1	240,000	
合計		4	960,000	

### 名城大学専攻科奨学金

平成30年度入学生適用 (単位:円)	
奨学金名	1人当たり支給額
助産学専攻科	総額240,000(採用人数によって決定する)

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)			
奨学金名	1人当たり支給額	平成29年度	
		採用者数	支給合計
助産学専攻科	総額240,000(採用人数によって決定する)	3	240,000
合計		3	240,000

### 留学生授業料減免

外国人留学生を対象に、経済的支援並びに学習の奨励を図ることを目的として、単位取得状況及び成績に応じ、授業料減免を実施している。

### ■平成30年度支給実績

平成30年度入学生適用 (単位:円)		
	平成30年度	
	採用者数	支給合計
前期	26	3,482,700
後期	27	3,616,650
延人数/減免総額	53	7,099,350

体育系 部活/サークル	活動内容・目標
陸上競技部	週5日、主に多目的グラウンドで練習を行い、土日は大会やボランティア活動に積極的に参加している。また、九州インカレ・西日本インカレ入賞、全国大会出場、自己記録の更新を活動目標としている。
硬式野球部	各種公式戦への出場及び日々の練習。学則及び日本野球憲章並びに九州地区大学野球連盟規約に基づき、野球技術の向上、野球を通じての人間形成、全日本大学野球選手権大会・明治神宮野球大会への出場・勝利、野球部員相互の親睦を図ることを目的とする。
男子ハンドボール部	週6回、大会に向けて練習を行っている。また、地域への貢献としてボランティア活動も行っている。九州リーグで強豪大学を破り優勝を目指す。また、5年連続の全日本インカレ出場を達成し、1勝を果たす。
女子ハンドボール部	主に体育館を練習の場所とし、週6回個々やチーム全体の技術向上のために練習に励んでいる。また、地域貢献としてボランティア活動も行っている。九州学生リーグ1部での優勝、また、2年連続の西日本大会出場、3年ぶりの全日本大会出場も目標としている。
男子バスケットボール部	九州1部リーグ昇格という目標を達成するために、練習に励んでいる。
女子バスケットボール部	全九州大学バスケットボールリーグ1部昇格という目標を達成するために、練習に励んでいる。
男子バレーボール部	月・水・金は大学の体育館、土日・祝日は大学や他校の体育館にて合同練習及び練習試合を行っている。4部リーグからの昇格を目指し、部活動だけでなく、地域のボランティアにも積極的に取り組む。
女子バレーボール部	週4～5日の練習、ボランティア活動、ビーチバレー、高校生連の審判、高校生強化試合等。九州大学バレーボールリーグ2部優勝と1部昇格を目指している。
男子ソフトボール部	毎週月・水・金の放課後と土日の午前中に大学の多目的グラウンドで活動している。インカレ出場を目指している。
女子ソフトボール部	九州大会に向けた練習、練習試合、ボランティア活動を行っている。九州ベスト4を目指している。
サッカー部	平日は夕方から、土日・祝日は朝から多目的グラウンドやその他の場所で練習を行っている。現在、九州リーグ1部昇格を目標としている。
軟式野球部	週3で活動し、1日3時間練習を行っている。沖縄県大学軟式野球大会優勝、西日本大会ベスト4を目指している。
ゴルフ部	自主練習を基本に、県内学生選手権大会、諸大会へ参加する。ルール、マナー遵守を重んじ、他の選手との関わり合いの中で、社会性を身に付けることを目標とする。
水泳競技部	週6回の練習で、そのうち週2回はトレーニング室で筋トレをしてプールに向かう。全員で全国公立選手権水泳競技大会に出場することを目標としている。
硬式テニス部	水曜日と金曜日に2～3時間の練習と年2～3回大会に参加。積極的な大会参加を目標としている。
ソフトテニスサークル	週に2回、3時間 21世紀の森公園テニスコートで練習を行い、試合が近くなると大学のコートも利用し、練習を行っている。学生リーグ団体、個人優勝を目指している。
フットサルサークル	週2回、旧体育館にて、ミニゲームを中心としたフットサルを実施。また、定期的に北部のチームとミニマッチを実施している。フットサルを楽しみながら、技術、体力の向上を図る。また、フットサルを通じて、学部・学年、学校を超えた人脈形成を図る。
ラグビー部	多目的グラウンドでの練習、試合、県内の大会への参加。九州学生リーグ2部昇格を目指している。
FOOTBALLサークル	サッカーやフットサルを試合形式で毎週火曜日に行う。ボールを蹴ることの楽しさを知る。
空手道部	組手、型に別れてそれぞれの課題に向き合い個人に合った練習方法で日頃活動している。
卓球部	週2日という限られた練習時間の中、初心者から経験者まで、自分の課題を発見し、解決することで、自らの向上に努める。毎年8月に開催される全国公立卓球大会で実績を残せるよう日々努力する。
男女バドミントン部	週5回練習を行っている。沖縄県内の大会だけでなく、九州学生や中国、四国、九州の大会でも、上位入賞することを目指している。
剣道部	武道場における剣道の稽古及び大会や他大学との練習試合、運営補助を行っている。剣道を通じた心身の錬磨と良好な人間関係の構築及び地域の剣道の活動促進を目指している。
トライアスロンサークル	週3～4日のスイム・バイク・ランの練習。沖縄県内で開催されるトライアスロン、アクアスロン大会、ロードレース等への参加。インカレ予選(九州・沖縄)突破を目指している。
女子サッカー部	普段の練習は週5日、大学のグラウンド内で行っている。毎週金曜日は名護高校女子サッカー部と練習試合を行い、実践経験を積んでいる。今後は、公式戦に積極的に参加し、県外の大会への出場を目指している。
ハンドボールサークル	ストレッチ、パス、シュートなどの基礎練習、ミニゲーム、ゲーム形式の試合を行っている。活動時間(集合時間、終了時間)を守り、安全かつ楽しく行うようにする。
バレーボールサークル	バレーの練習、試合。ケガなく皆がワイワイ楽しめるサークルを目指している。
バスケットボールサークル	学部学科・学年問わずバスケットボールをすることで交流を深める。また、初心者もいるため、怪我無く楽しいバスケットボールを行う。
バドミントンサークル	学生間の交流を図ること、バドミントンの楽しさを共有することを目的とする。

文化系 部活/サークル	活動内容・目標
吹奏楽部	各種コンクールや演奏会、また、名護市を中心とする地域行事を通して活動している。全力疾走、「できる人が できる時に できる事を」地域密着を目指している。
名桜エイサー	年間を通して、学内外の各種イベントに積極的に参加している。また、ボランティア活動等、地域貢献を目指し活動している。
HIPHOPサークル	個々のダンススキル向上のための練習、地域や学内のイベントへの参加。4大学バトル、ダンスイベントでの優勝、地域や名桜大学をダンスで盛り上げる。
VAG(看護ボランティアサークル)	名護市宮里区、為又区、大北区朝市及び本部町の手づくり市、今帰仁診療所での健康支援活動。ちゅうら風通信編集活動。チームガッキー(生活困窮者への健康支援活動) 学内及び地域の看護・福祉に関するボランティア活動の窓口を担い、看護学生のボランティア活動への参加を支援する。
名桜ラテンダンスサークル	毎週金曜日に集まり、ダンスを通して日本人と留学生との異文化交流を深めている。ラテンダンスの技術向上、また、留学生と日本人と国際交流を深めることを目指している。
ポルトガル語研究会	毎週木曜日、講義で扱うポルトガル語よりも上のレベルの学習をすることを念頭に日系留学生を交えて活動している。現地でも通じような言語・会話を身につけると同時に、ブラジル文化への理解を深化させる。
ミュージックサークル	バンドとしてだけでなく、個人としても学内のスタジオにて練習し、県内のライブハウスを中心に音楽活動をしている。県内のライブハウスだけでなく、県外のライブハウスでのライブやCDの作成を行っている。
名桜大学応援団(リーダー部・チアリーディング部)	全ての大学関係者(体育会、学生、教職員等)の応援。北部12市町村を中心とした地域貢献活動。本団は、応援と地域貢献活動を通じて学生生徒の模範となり、本学の士気高揚に努めることを目的とする。
IGCC(International Global Communication Circle)	主に英語を使ったゲームやプレゼンテーションや留学生を交えた異文化交流。英語運用能力の向上、異文化交流を通じた多角的な視点の獲得、自主的活動による主体的・対話的で深い学びの追求を目指す。
中国語文研究会	中国の文化や語学・日中文化の比較などについて理解を深め、中国語及び日本語習得を目的とする。日本と中国の学生の交流促進、市民との地域交流、地域貢献、文化の相互理解、言語の相互理解等を目的とする。
観光ホスピタリティ研究会	観光ホスピタリティ関連施設訪問、スタッフとの交流、観光ホスピタリティ関連のボランティアを通じて業界についての理解を深める、会員相互の親睦を図る。
MSI(Meio Student Infirmary)	自分の健康を自分で管理できるように学生への広報や啓発活動を行う。エイズデーに伴うティッシュ配り、食育の日に伴う三角ポップの作成、配布など。
現代中国研究会	中国の歴史・文化などの知識を幅広く身につけるためのプロジェクトや中国語検定対策を行っている。「国際文化交流・地域貢献・外国語習得」を目標とし、それらを達成するためにプロジェクト別で活動を進めていく。
フォトサークル	月に一度、学外での撮影会と、サークルメンバーの交流会を行う。大学行事や学外での撮影会。フォトコンテストへの応募。
将棋同好会	将棋の対局。メンバー1人1人の棋力を向上させる。将棋を通して仲間との親睦を深める。
文芸研究会	本の紹介や映像作品の鑑賞会、学内で本の紹介文の展示などを行っている。部員の「文芸」に対する興味や意欲をかき立て、自身を成長させるための機会をつくる。
REAL(名桜自由英語研究会)	地元小中学校での英語教育補助の企画。本学で培った英語力を用いた地域貢献、個人能力開発を通して国際社会で活躍できる人材となる。
学生リーダー	週に1回のミーティング。授業・行事等のサポート・運営。主体的に行事や授業に関与し、よりよい運営となるよう努める。
K-POPサークル	K-POPの振り付けの練習、ダンスの基礎練習をする。学内外のイベントに出演し、K-POPの魅力を伝える。ダンスを通して達成感を味わい、結束力を深めることを目指している。
ANSA	看護学科学生を対象に、学生の進路選択を広げられるきっかけとなるよう講師を招き座談会等の開催を主な活動としている。
国際ボランティア研究会(IVL)	海外渡航や国際ボランティアへの参加経験を持つ会員と名桜大学生との交流会を行い、長期休業期間中における国際ボランティア等の情報を共有する。
名桜アナボリックササエイ(MAS)	ウェイトトレーニング、エアロビクスを通してきれいに、かっこよく痩せる。トレーニングの正しい方法、フォームや食事管理についてのアドバイスを行う。
ヘルスコミュニケーションクラブ	北部離島、へき地の住民の健康づくりのために役立つ健康情報を伝え、一緒に楽しく健康について考える機会となる健康教室を行う。
スペイン語研究会	スペイン語の習得とスペイン語圏の文化を学ぶ。
琉球芸能研究会	琉球芸能の研究、普及に努める。主な活動としては、琉球芸能の研究活動、県内各地のイベントやホテルでの余興、大学内での初心者三線教室を開講する。

2019年度名桜大学学年暦

前学期	
4月1日(月)	学年及び前学期開始
4月4日(木)	入学式
4月4日(木)	大学院オリエンテーション (午前中:国際文化研究科・看護学研究科)
4月5日(金)	新入生一斉学力テスト
4月5日(金)～4月9日(火)	新入生ガイダンス (国際学群・スポーツ健康学科・看護学科)
4月5日(金)	助産学専攻科オリエンテーション
4月8日(月)～4月10日(水)	成績通知・登録関係資料等配付
4月8日(月)	在来生オリエンテーション (国際学群・看護学科・編入生含む)
4月9日(火)	新入生オリエンテーション(全学)
4月10日(水)	在来生オリエンテーション (スポーツ健康学科・編入生含む)
4月11日(木)	前学期講義開始 (登録調整期間:4月11日～4月24日)
4月13日(土)	1年次教育研修(スポーツ健康学科・看護学科)
4月20日(土)	1年次教育研修(国際学群・スポーツ健康学科予備日)
5月	5月11日(土) 新入生歓迎スポーツ大会
6月	6月8日(土) 第1回オープンキャンパス
7月	7月30日(火)～8月8日(木) 学期末試験期間・台風等休講による補講予備日
8月	8月9日(金)～9月25日(水) 夏季休業
8月10日(土)	第2回オープンキャンパス
8月20日(火)	追試験実施期間
8月21日(水)	再試験実施期間
8月26日(月)～8月28日(水)	自己推薦型試験(国際学群)
9月	9月7日(土) 大学院オリエンテーション (後学期:看護学研究科)
9月19日(木)	9月卒業式・修了式
9月25日(水)	前学期終了

後学期	
9月	9月26日(木) 後学期開始、成績通知書・登録関係資料等配布
9月	9月27日(金) オリエンテーション (国際学群・人間健康学部・国際文化研究科)
9月	9月30日(月) 後学期講義開始(登録調整期間:9月30日～10月11日)
10月	10月5日(土) 大学院入学試験(10月試験)、 助産学専攻科入学試験(地域枠)
11月	11月16日(土) 推薦入学試験(国際学群・人間健康学部)、特別選抜 試験(人間健康学部)、編入学試験(人間健康学部)
11月	11月28日(木)・ 11月29日(金) 名桜大学祭準備
11月	11月30日(土)・ 12月1日(日) 名桜大学祭
12月	12月2日(月) 名桜大学祭後片付け
12月	12月7日(土) 特別選抜試験、編入学試験1期(国際学群)
12月	12月21日(土) 創立記念日
12月	12月26日(木)～1月3日(金) 冬季休業
1月	1月6日(月) 後学期講義再開
1月	1月18日(土)～1月19日(日) 大学入試センター試験
1月	1月31日(金)・ 2月3日(月)～2月7日(金) 学期末試験期間・台風等休講による補講予備日
2月	2月5日(水) 助産学専攻科入学試験(一般枠)
2月	2月7日(金) 後学期講義終了
2月	2月8日(土) 大学院入学試験(2月試験)
2月	2月10日(月)～3月31日(火) 春季休業
2月	2月12日(水) 追試験実施期間
2月	2月13日(木) 再試験実施期間
2月	2月25日(火) 一般選抜入学試験・前期日程個別学力検査(国際学 群・人間健康学部)
3月	3月12日(木) 一般選抜入学試験・後期日程個別学力検査(国際学 群・人間健康学部)、編入学試験II期(国際学群)
3月	3月20日(金) 卒業式・修了式
3月	3月31日(火) 学年終了及び後学期終了

【注】講義日程の変更について

- 前学期
  - 2019年5月18日(土)は月曜日の講義を行う
  - 2019年6月15日(土)は火曜日の講義を行う
  - 2019年6月29日(土)は水曜日の講義を行う
  - 2019年7月15日(祝・月)は月曜日の講義を行う
- 後学期
  - 2019年10月14日(祝・月)は月曜日の講義を行う
  - 2019年11月27日(水)は金曜日の講義を行う
  - 2019年12月3日(火)は月曜日の講義を行う
  - 2019年12月25日(水)は金曜日の講義を行う

国民の祝日等	2019年4月30日(火)	新天皇即位・改元における祝日
	2019年5月1日(水)	新天皇即位・改元における祝日
	2019年5月2日(木)	新天皇即位・改元における祝日
	2019年10月22日(火)	天皇即位礼正殿の儀
特別行事	2019年11月28日(木)	名桜大学祭準備
	2019年11月29日(金)	名桜大学祭準備
	2019年12月2日(月)	名桜大学祭片付け
	2020年1月17日(金)	大学入試センター試験会場設営

1. FD(ファカルティ・ディベロップメント)の概要

本学では、教育水準の向上や授業の内容及び方法の改善を図るための全学的なFD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会を設置し、学生による授業評価に加え、教員の資質・教育指導能力のレベルアップへ向けて取り組んでいる。

2. 実施方法

- (1) 授業評価
 

授業の内容及び方法の改善を目指して、学生に対し授業に関するアンケートを実施し、その評価結果を委員会及び事務局で集計する。評価結果は教員へフィードバックし、学生にとってより魅力のある授業の実施や研究指導内容等の充実など、教員のティーチングスキル向上を目指す。
- (2) 講習会・研究会
 

教育研究上の目的に応じ、外部より講師を招聘して講習会・研究会を開催することとする。また、教員を他
- (3) 研修会
 

大学や学外団体等が主催する各種講演会へ講師として派遣することも予定している。積極的に他大学や学外団体と交流し、意見や情報の交換を行うことによる相互啓発が、教育者としての意識を喚起する効果を期待している。

教育の質向上等に関連したテーマを設定し、教員が話題を提供するFD研修会、外部講師を招聘した研修会、ワークショップやグループディスカッション形式を取り入れた研修会を実施している。

平成30年度 FD活動実績

回数	日時・場所	「テーマ」・講師
1	平成30年5月30日(水) 学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室B	1 FD関連学外研修報告会 第23回京都FDフォーラム 「FDのこれまでとこれから～多様な角度からFDについて考える」 全体シンポジウム報告 (人間健康学部スポーツ健康学科 教授 田原 亮二) 2 新シラバス作成ガイドライン導入後の現状と課題 (国際学群国際学類 教授 木村 堅一) 3 オフィスアワーについて (人間健康学部スポーツ健康学科 教授 奥本 正)
2	平成30年8月29日(水) 学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室B	1 FD関連学外研修報告会 第23回京都FDフォーラム 「FDのこれまでとこれから～多様な角度からFDについて考える」 第11分科会報告 テーマ「学生のパフォーマンス評価を考える:工学教育と薬学教育を中心に」 (人間健康学部看護学科 上級准教授 清水 かおり) 2 卒業研究ルーブリック評価について (人間健康学部スポーツ健康学科 教授 奥本 正)
3	平成30年10月31日(水) 学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室B	1 FD関連学外研修報告会 第23回京都FDフォーラム 「FDのこれまでとこれから～多様な角度からFDについて考える」 第9分科会報告 テーマ「PBLの組織的な運用・実践」 (国際学群国際学類 教授 林 優子) 2 FD関連学外研修報告会 平成30年度ICT利用による教育改善研究発表会報告 全体報告 (人間健康学部スポーツ健康学科 教授 田原 亮二) 3 平成29年度後学期及び平成30年度前学期アクティブラーニングとICT導入状況に関する教員対象調査について (国際学群国際学類 准教授 卯田 卓矢) 4 アクティブラーニングの授業紹介について テーマ「アカデミックライティング」 (国際学群国際学類 上級准教授 小嶋 洋輔-概要説明者) (人間健康学部看護学科 准教授 伊波 弘幸-発表者)
4	平成31年3月27日(水) 学生会館 SAKURAUM 3F 大講義室B	1 FD関連学外研修報告会 第24回京都FDフォーラム 「大学におけるダイバーシティ」 第2分科会報告 テーマ「学部・学科教育の改革・改善をいかに進めるか」 (国際学群国際学類 教授 金城 亮) 2 FD関連学外研修報告会 第24回京都FDフォーラム 「大学におけるダイバーシティ」 第8分科会報告 テーマ「セクシュアル・マイノリティ学生にやさしい大学づくり」 (人間健康学部看護学科 助教 野崎 希元) 3 FD関連学外研修報告会 第24回京都FDフォーラム 「大学におけるダイバーシティ」 第1分科会報告 テーマ「教学IR:ケーススタディから学ぶデータの活用方法」 (国際学群国際学類 教授 佐久本 功達) 4 名桜大学アセスメントポリシーについて (副学長 鈴木 啓子) 5 IR室の役割について (IR室長 佐久本 功達)

※FD (Faculty Development): 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

自己点検・評価、認証評価の取組み

自己点検・評価

名桜大学は、教育研究の水準の向上に努め、教育研究活動の活性化と社会的責務を果たすため教育研究活動及び大学運営等について自己点検・評価を実施しています。

- 主な取組みは、自己点検・評価活動を通して
- ・学部組織及び全学的委員会の年次報告書の作成
  - ・自己点検・評価報告書の作成
  - ・改善・向上(将来計画)の達成状況の確認
  - ・認証評価の受審
  - ・自己評価等の結果の公表

を行い、自己改革、改善との連動・連携を重視し、大学の自主的な質保証機能を高めるために実施することです。

認証評価

平成16年4月から、学校教育法第109条により、全ての大学は教育・研究等の状況について7年毎に文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられました。認証評価は、大学の自己点検評価書に基づいて実施されます。



名桜大学は、平成26(2014)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、「評価の結果、名桜大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する」との通知を受けました。

高速バス【那覇空港→名護市バスターミナルまで】

那覇空港到着ロビーを出て、バス乗り場から高速バスに乗り乗ります。  
【名護バスターミナルまで】  
所要時間: 約1時間45分、バス乗車料金: 2,230円

タクシー【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港到着ロビーを出て、遠距離タクシー乗り場から乗り乗ります。  
【名桜大学まで】  
所要時間: 約1時間30分~2時間  
料金: 約15,000円  
※上記の金額は沖縄自動車道の料金を除く  
※初乗り560円(1.75kmまで)以降365mごとに70円プラス



レンタカーなどお車での移動【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港近隣のレンタカー各社からは、西海岸を延びる国道58号を北上するコースと沖縄自動車道を利用する方法があります。  
【一般道路(58号北上)の場合】  
所要時間: 約1時間30分~2時間  
【沖縄自動車道の場合】  
所要時間: 約1時間30分(那覇IC~許田ICまで1,040円)

送迎バス(無料)【名護市内】

名桜大学では、送迎バス(無料)を運行しています。時刻表は本学ホームページの名桜大学送迎バス運行時刻表をご確認ください。(ただし、祝日・夏季・冬季・春季休業中等、大学休学時は運休します。)

名桜大学アクセスマップ(名護市内)



※1~14は名桜大学送迎バス(無料)の各停留所となりますので、詳しくは本学ホームページをご覧ください。